科目名	英語(初等)	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	東田 彰子				
クラス名					

授業の到達目標及びテーマ| 2020 年度より英語が小学校 5, 6 年生で教科化された。そして 3 年生から英語活動が始まった。| 小学校教員として児童に英語を教えるために必要な言語習得についての理論や授業実践に必要な英語力や英語音声に|ついての知識を養う。また発音とスペルの関係を理論と実践の両方から理解する。さらに小学校での教科として英語の|授業ができる英語力と指導力を習得する。

### 授業概要

外国語習得に関しての基本的な知識を得て理解する。英語の 4 技能である「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」を指導するために必要な知識や指導方法を学ぶ。| また言語の仕組みへの気づきを指導するための具体的な英語運用能力を高める学習をする。フォニックスや絵本の|リーディングを通し教材を開発する方法を学び4技能複合型の活動を行い、その育成をはかる。| ICT 教育の多様性を学ぶために、zoom授業をわかりやすく展開する方法を実習する。|

### 受講上の注意

授業はアクティブラーニング、授業参加型で行います。それぞれの活動に興味を持って取り組んでください。

# 成績評価方法・基準 種別 割合(%) 小学校英語教育レポート 25 指導案提出 25 実習授業への参加状況 25 授業を受けてのまとめのレポート 25

## 教科書1 「英語」教科書 5, 6 年用 出版社名 三省堂版 著者名 教科書2 小学校学習指導要領(英語) 出版社名 文部科学省 著者名

教科書3	Let's Try 1,2			
出版社名	文部科学省	者名		
	参考書情報			
参考書名1	参考書・参考資料等 小学校外国語活動の進	め方		
出版社名	成美社	音者名 岡秀夫·金森強		
参考書名2				
出版社名	著	者名		
参考書名3				
出版社名	芒	者名		
参考書名4				
出版社名	芒	者名		
参考書名5				
出版社名	著	者名		
参考 URL				
	特記事	項		
対面授業で	で行う予定ですが、コロナの影響や諸事情で zoo	m 授業に切り替えることがあるかもしれません。 ま		
た zoom 授	業を行う中で、ICT 教育の実施の仕方なども具	本的に進める予定です。		
	教員実務	経験		
	授業計画(各	回予定)		
授業回	授業内容			
1	ガイダンス:授業の進め方を説明する。小学校英語教育導入の経緯と現状の把握をする。			
2	講義:実際に行われている授業について学び、実態と問題点を知る。			
3	発表:「自己紹介スピーチ」に使う提示物を作成する。    「小学校英語教育まとめのレポート」作成			
4	発表:自己紹介スピーチ   講義:小学校英語における4技能指導方法を知る単元:  その技能を伸ばすために使える教材を知り、実際に活用してみる。			

5	「スモールトーク」とは何かを学ぶ  実際に小学校で授業をするときの導入方法としての「スモールトーク」を個人で考える。
6	発表:スモールトーク  グループに分かれ「スモールトーク」の発表会を行う。  zoo m 授業の中で、タイマーや総合論評者を決め、投票機能などを使って発表会を運営する方法を  学ぶ。
7	フォニックスについて知る単元:  フォニックスとはどんなものかを実際に知り、体験する。授業に生かす方法を学び、グループでその  単元の構想をねる。
8	絵本を使った指導方法を学ぶ単元:   英語の絵本や日本の民話や昔話の英語版から選び、読み聞かせの練習をする。  その後グループで発表しあい、相互評価する。
9	ICT 活用の単元:  楽しいゲームやクイズを ICT 機器を使って作成してみる。  日本と外国の文化や伝統の違いを学び、パワーポイントなどを使って、その違いに特化した教材作りを学ぶ。
10	コミュニケーション能力育成のための単元:  ペアワークやグループワークをしながらコミュニケーション活動の方法を学ぶ。
11	ティームティーチングについて学ぶ単元:  DVD を見て実際のティームティーチングの様子を知る。同時に授業の流れを記録する方法を学ぶ。  またティームティーチングの方法や教材などについて研究する。
12	教材研究の単元: 実際に教育現場で使われる、英語の教科書や"Let's Try"の教材を知る。  それぞれの年間指導計画や実際どのように使われるかなど研究する。
13	授業課程と学習指導案の単元: これまでの学習の中から題材を選び、学習指導案を作る。
14	グループで「学習指導案」の検討を行う。
15	小学校英語教育のまとめと振り返り:  グループで全講義を省みて振り返りのディスカッションを行う。その後レポートを作成し提出する。

科目名	英語科指導法	年次	2	単位数 2	
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	教員名 東田 彰子				
クラス名					
+亞娄 □ M L A I 法 □ 悟					

小学校外国活動の基本理念を理解して、小学校で外国語を教える時に必要な、英語・外国語学習理論・指導法に関する|知識を身につける。| 小学校英語指導の目標にそって、どのような内容を、どのような指導法や教材を使い進めるかを理解する。それに基|づいて模擬授業を経験する。その中で英語の授業を展開できる指導技術を身につけることを目標とする。| また英語で授業することに自信を持ち、さまざまな英語活動を行えるようになることを目指す。

### 授業概要

前半は関連法規や理論に関する講義を行う。その後ビデオによる授業観察や授業案作成の技術を演習する。 |実際に児童の立場や指導者の立場に立って模擬授業を行ったりする。そのことを通して小学校における英語活動のね|らいを理解するとともに、その指導法を身につける。| 模擬授業ではグループでの作業や発表、ディスカッションなどを多く取り入れていく。| 自身の中学校・高等学校での英語教員の経験を生かし実践的に指導する。

### 受講上の注意

講義とともに参加型の授業を展開します。授業中の発表やグループワークの実習には積極的に参加してください。

### 成績評価方法·基準

種別	割合(%)
作品提出	25
レポート提出	25
スモールトーク・スピーチ発表	25
模擬授業に取り組む姿勢や態度	25

### 教科書情報

教科書1	Let's Try! 1, 2		
出版社名	文部科学省	著者名	

教科書2	英語教科書 5,6年用		
出版社名	三省堂版	著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
	参考	書情報	
参考書名1	小学校外国語活動の進め方		
出版社名	成美社	著者名	岡秀夫・金森強
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
	参表	考 URL	
	特	記事項	
	で行う予定ですが、コロナの影響や諸事情 受業を行う中で、ICT 教育の実施の仕方なる		業に切り替えることがあるかもしれません。  こ進める予定です。
	教員9	実務経験	
授業計画(各回予定)			
授業回		授業内容	Ş.
1			で、成績評価などの説明  小学校での英語 学習指導要領、関連諸法規、教育行政から
2	学校英語教育の意義と目ざすもの②: 材などを 参考にしながら実際に小学校で		で行われている英語教育のカリキュラムや教いる学習について学ぶ

	小学校における英語教育の実際:   英語教育の研究授業の録画ビデオなどを見ながら、授
3	業メモをとる演習をする。  またどのような授業展開をするのが良いかグループでディスカッショーンする。
4	小学校における英語教育についてレポートを作成して提出する(成績評価の対象となります)  ************************************
	英語授業で使用される各教材を実際に用い、語彙や表現について研究する
_	クラスルーム English の活用 スモールトークについて学ぶ  楽しいゲームの紹介と運用の演
5	習:  実際にゲームを使った授業の展開を考え、模擬授業の準備をする
	日本と外国の文化や伝統のちがいについて学ぶ  外国の祝日や楽しい行事などを知り、授業
6	  に活用する方法を考える:  ハロウイーンやクリスマスにちなんだゲーム作りの模擬授業の
	準備をする
7	模擬授業①とその後のグループディスカッション
8	スモールトークの実際とスピーチ発表の演習:自己紹介カードの作成
9	発表:自己紹介カードを使って、自己紹介の後、スモールトークを行い、相互評価を行う
10	指導案作成について研究する  模擬授業の準備:教材を決定し模擬授業の準備をする
11	模擬授業②: 発表及び相互評価をする(前半グループ)
12	模擬授業②: 発表及び相互評価をする(後半グループ)
13	ALT や地域人材の先生との授業について研究する  簡単な指導案を作成する
1.4	小学校における英語教育の考察:  コミュニケーション能力向上のため学んだことをどう生
14	かすかグループディスカッションする  小学校と中学校の英語教育の連携について学ぶ
1.5	小学校英語教育指導法の まとめと振り返り:  グループで全講義を省みて振り返りのディ
15	スカッションを行う。  その後レポートを作成し提出する。

科目名	音楽 I	年次	1	単位数 2		
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	津田奈保子					
クラス名						
	授業目的	と到達目標	Į			
小学校教員•幼	別に教育に必要な音楽知識、読譜力と記	譜力を身に	着ける。音楽とは	何かについて考え、音楽の		
発達してきた歴	を史・日本の音楽教育の歴史についても、	浅く広く知識	戦を身に着けるこ	とを目的とする。		
	授	業概要				
対面授業 楽譜	上の約束事を「楽典」というが、五線、譜	表、拍子、訓	間性、速度標識、:	発想標語などを中心とした		
楽典に対する知	知識を深める授業を行う。知識のみではプ	なく、それを	生かして音にする	ること、音楽にすることも授業		
の中で適宣行	٥٠   					
	受講.	上の注意				
確実に楽典力	を身に着けるため課題が頻繁にでます。	取り残しがな	<b>よいようについて</b>	きてください。		
	成績評値	ffi方法·基準				
	種別			割合(%)		
提出物、レポー	-ト		50			
確認テスト(2 🛭	1)		50			
	教科	書情報				
教科書1 改	訂「音楽通論」					
出版社名	x育芸術社	著者名				
教科書2						
出版社名	著者名					
教科書3	教科書3					
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1 授	業の中で適宜紹介する					

出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
	特記事項		
教員実務経験			
小学校教訓	前、保育所保育士、認定こども園保育教諭		
	授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(授業の進め方などの説明)  音の長さ、休符の長さについて。音楽の歴史1		
2	いろいろな拍子について。音楽の歴史2		
2			
	いろいろな拍子について。音楽の歴史2		
3	いろいろな拍子について。音楽の歴史2 音の高さについて。音楽の歴史3		
3	いろいろな拍子について。音楽の歴史2 音の高さについて。音楽の歴史3 音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽教育史1		
3 4 5	いろいろな拍子について。音楽の歴史2 音の高さについて。音楽の歴史3 音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽教育史1 強弱記号について。音楽教育史2		
3 4 5 6	いろいろな拍子について。音楽の歴史2 音の高さについて。音楽の歴史3 音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽教育史1 強弱記号について。音楽教育史2 速度記号と速度標語について。音楽教育史3		
3 4 5 6 7	いろいろな拍子について。音楽の歴史2 音の高さについて。音楽の歴史3 音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽教育史1 強弱記号について。音楽教育史2 速度記号と速度標語について。音楽教育史3 楽典・リズム・メロデイ確認テスト1。 そのほかの記号について		
3 4 5 6 7 8	いろいろな拍子について。音楽の歴史2  音の高さについて。音楽の歴史3  音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽教育史1  強弱記号について。音楽教育史2  速度記号と速度標語について。音楽教育史3  楽典・リズム・メロデイ確認テスト1。 そのほかの記号について  音程について。グループによるリズムアンサンブル。		
3 4 5 6 7 8	いろいろな拍子について。音楽の歴史2  音の高さについて。音楽の歴史3  音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽教育史1  強弱記号について。音楽教育史2  速度記号と速度標語について。音楽教育史3  楽典・リズム・メロデイ確認テスト1。 そのほかの記号について  音程について。グループによるリズムアンサンブル。  派生音を含む音程について。グループによるリズムアンサンブル。		

13	3 和音について。動きを使ったリズムアンサンブル2
14	コードネームについて。コードネームを用いた伴奏法について
15	楽典・リズム・メロディ確認テスト2

	<u> </u>				
科目名	音楽Ⅱ	年次	0	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	大谷 恵世				
クラス名					
	授業目的	りと到達目標	!		
西洋音楽の	理論の習得を通して読譜力及び応用力を研	産実なものに	する。また、我が	国の伝統音	音楽の学びも充
実させ、それ	らの知識を教育現場で活用するための応	用力、実践力	」を身につける。		
	授:	業概要			
「対面授業」	音楽を理解し実践するために音楽を構成し	ている諸要	素とその理論を	学ぶ。知識と	して学ぶだけで
はなく教育理	現場の実践に役立つ理論と技術の習得をめ	ざし、教育理	見場で活用できる	作品を各個	人で制作する。
	受講	上の注意			
授業内容は	毎回記録に残す。 リコーダーは常に携帯す	-る。			
	成績評値	<b>西方法・</b> 基準			
	種別			割合(%)	
平常点			30		
課題発表・認	<b>果題提出</b>		70		
	教科	  書情報			
教科書1	最新 初等科音楽教育法 改訂版				
出版社名	音楽の友社	著者名			
教科書2		<u>                                     </u>			
出版社名	著者名				
教科書3	教科書3				
出版社名					
参考書情報					
	参考 	音情報			

出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名
	参考 URL
	特記事項
	教員実務経験
	員として勤務 小学校、中学校教員に音楽指導(実技指導)を継続して行う 研究会ならびに音楽会に 尊助言、指導講評を行う
	授業計画(各回予定)
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	音楽理論の復讐
3	西洋音楽の理解と応用
4	西洋音楽の理解と創作
5	サウンドスケープ 身の回り・自然からイメージ
6	サウンドスケープ 身の回り・自然からイメージ
7	日本音楽のの理解と創作
8	日本音楽のの理解と創作
9	音楽劇の理解と創作
10	音楽劇の理解と創作
11	音楽劇の理解と創作

12	音楽劇の理解と創作
13	課題発表
14	課題発表
15	まとめ

科目名	音楽科指導法 I (初等)	年次	2	単位数 2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義	
教員名	大谷 恵世			
クラス名				

音楽の「楽しさ」から「表現する喜び」への実践的指導法の研究。|小学校の音楽科の授業について理解することを目的とする。各領域におけ|る基礎的基本的な内容、指導法を習熟するとともに授業を実践するための|知識・技能を身につけ、教材研究に基づき指導案の作成ができることを目|標にする。 | 授業概要

### 授業概要

「対面授業」|小学校指導要領音楽偏「表現」「鑑賞」の領域について教材とその指導法|を研究する。様々な実践を通して小学校の教師としての自覚、意欲を高め|る。また、音楽を通して子ども達の豊かな人間形成を導くことができる指|導者の育成を目標にする。本講義では全学年を通して様々な体験を「楽し|さ」を通して「表現する喜び」への授業展開ができるよう知識・技能の向|上を目指す。

### 受講上の注意

・グループワークや相互批評は毎時間実施するため遅刻、欠席はしないこと。|・教材研究、模擬授業などの課題を出すので、書籍、インターネットを活用できるようにすること。|・授業内容を毎時間記録することで研究のまとめにすること。|

### 成績評価方法 基準 種別 割合(%) 平常点 30 実技試験 · 筆記試験 40 課題発表 30 教科書情報 教科書1 最新 初等科音楽教育法 改訂版 出版社名 音楽の友社 著者名 文部科学省 「小学校学習指導要領解説」「音楽編」 教科書2 著者名 出版社名 教育芸術社 教科書3

出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学生の音楽 1 年・3 年・5 年				
出版社名	教育芸術社	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3			1		
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5		,			
出版社名		著者名			
	参	考 URL			
	特訓	記事項			
	教員9	実務経験			
	授業計画	[(各回予定	)		
授業回		授業内容	3		
1	オリエンテェーション 音楽科の役割・要点と	上課題			
2	音楽科の目標と理念 各学年の目標と理念	念 授業づくり	りのポイント「共通事項」の指導のあり方		
3	3 歌唱指導の意義と留意点 歌唱教材の研究(「共通事項」の取り扱い方含む)				
4	器楽指導の意義と留意点 楽器奏法と指導法の工夫(「共通事項」の取り扱い方含む)				
5	鑑賞指導の意義と留意点 日本伝統音楽を基本とした授業づくり(「共通事項」の取り扱い方含む)				
6	ピアノ実技 (共通教材の弾き歌い)				
7	7 創作活動の意義と留意点 「音楽づくり」の授業研究(「共通事項」の取り扱い方含む)				
8	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 学習指導案作成(低学年)				
9	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の	分析 学習指	指導案作成(中学年)		

10	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 学習指導案作成(高学年)
11	模擬授業と相互活動 領域「表現」
12	模擬授業と相互活動 領域「表現」
13	模擬授業と相互活動 領域「表現」
14	模擬授業と相互活動 領域「鑑賞」
15	まとめ

科目名	音楽科指導法Ⅱ(初等)	年次	3	単位数 2				
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義					
教員名	山田 真由美							
クラス名	クラス名							
	授業目的	と到達目標	!					
小学校は在籍	音年齢幅が広く、教師には各学年(年齢)の	)精神的•肉	体的特性を知ると	こともに、児童個々の特徴も				
把握すること	が求められる。「学習指導要領」で示されて	こいる目標・「	内容・計画・評価(	こついて理解し、模擬授業				
などを通して	基本的な音楽科指導を身につけることを目	的とする。						
	授	業概要						
対面授業 音導	楽は自ら音を発して表現する「歌唱・器楽」	と、音楽を聴	き感じる「鑑賞」	によって成立している。ま				
た、音楽教育	が現在に至るまでの歴史や理論を知るこ	とも重要であ	る。指導案の作	成や模擬授業を通して、音				
楽科の授業の	)考え方や実践方法を研究する。							
	受講-	上の注意						
模擬授業を行	えるように準備するとともに、他の学生が	行っている村	莫擬授業に積極的	りに参加し協力すること。				
	成績評価	ffi方法·基準						
	種別			割合(%)				
指導案・レポー	ートなどの提出物		50					
模擬授業への	)取り組み姿勢		50					
	±1, x,							
	<b>学</b> 文件	·音·旧郑						
教科書1	小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解	説「音楽編」						
出版社名		著者名						
教科書2								
出版社名		著者名						
教科書3	教科書3							
出版社名	出版社名							
参考書情報								

参考書名1	最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠					
出版社名	音楽之友社	著者名	初等科音楽教育研究会編			
参考書名2	授業のなかで適宣指示をする。資料は配布。					
出版社名		著者名				
参考書名3						
出版社名		著者名				
参考書名4						
出版社名		著者名				
参考書名5						
出版社名		著者名				
	参え	考 URL				
	特記	記事項				
教員実務経験						
	授業計画	ī(各回予定	?)			
授業回	授業計画	j(各回予定 授業内容				
授業回	授業計画 フィット・フィッション (資料配布・授業の進め	授業内容				
	オリエンテーション(資料配布・授業の進め	授業内容	<b>容</b>			
	オリエンテーション(資料配布・授業の進め小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模	授業内容 方)など。 論読し、それ 擬授業(輪・	空 ルに解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それ			
1	オリエンテーション(資料配布・授業の進め小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模に対しての反省点や感想を指導計画案と	授業内容を (方)など。 (計議し、それ )	空 に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。			
2	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模 に対しての反省点や感想を指導計画案とと 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔	授業内容 方)など。 論読し、それ 擬授業(輪ともに提出で 論読し、それ	容 に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。			
1	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模 に対しての反省点や感想を指導計画案との 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 リシアの哲人』を配布し、解説を加える。 様	授業内容を表現し、それ 接授業(軸 はし、それ は 提出 は は し、それ は しょく は は は は は は しょく れ は 接援授業(軸 な しょく いき な しょく いき な しょく いき な しょく いき は しょく いき はんしょく いき はんしょく いき はんしょく いき はんしょく はんしょく いき はんしょく はんしんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく は	空に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   () () () () () () () () () () () () ()			
2	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模 に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 リシアの哲人』を配布し、解説を加える。 模 に対しての反省点や感想を指導計画案とる	授業内容を表現し、それを表現し、それを表現ともに提出できます。	空に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   に解説を加える。 資料『音楽教育の種類』『ギ論番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。			
2	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 リシアの哲人』を配布し、解説を加える。 核に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔	授業内容を表現し、それを表現し、それを表現ともに提出できます。 また は 接援 受業 (軸を表現し、それを表現を表現し、それを表現を表現して、それを表現を表現して、それを表現を表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、それを表現して、また。	空に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   () () () () () () () () () () () () ()			
2 3	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 リシアの哲人』を配布し、解説を加える。 核に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔	授業内容を表し、それには、それに提出では、それは、それに提出では、それは、それに提出では、それには、または、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	空に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   近に解説を加える。 資料『音楽教育の種類』『ギ論番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   に解説を加える。 資料『音楽教育の研究分よる。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬			
2 3	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 リシアの哲人』を配布し、解説を加える。 核に対しての反省点や感想を指導計画案とる 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 野』『グレゴリオ聖歌とグイード』を配布し、授業を行う。それに対しての反省点や感想	授業内容を表現し、それに関係を指導し、それに関係を指導計画を指導計画を表現し、	空に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   近に解説を加える。 資料『音楽教育の種類』『ギ論番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   に解説を加える。 資料『音楽教育の研究分よる。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬			
2 3	オリエンテーション(資料配布・授業の進め 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模に対しての反省点や感想を指導計画案とと 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 リシアの哲人』を配布し、解説を加える。 核に対しての反省点や感想を指導計画案とと 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔 野』『グレゴリオ聖歌とグイード』を配布し、 授業を行う。それに対しての反省点や感想 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輔	授業内容を表する。 一	学 に解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   資料『音楽教育の種類』『ギ論番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それする。   近に解説を加える。 資料『音楽教育の研究分する。   模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬理案とともに提出する。			

6 機』「ふたりのメイソン』を配布し、解脱を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の美学的基礎』「音楽取調掛』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の心理学的基礎』『伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。 複擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の社会学的基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する   ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機能』『小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』「コナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)    ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)    ハ学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)    資料『学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)    資料『学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 複擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)    資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の振り返り。		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の哲学的基
小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の美学的基礎』『音楽取訓掛』を配布し、解説を加える。  模擬授業 (輪番): 授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の心理学的基礎』『伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。  模擬授業 (輪番): 授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の社会学的基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。  複擬授業 (輪番): 授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の価値と機能』『小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の価値と機類業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『母楽教育の存在理 自』「京本音略」を配布し、解説を加える。  模擬授業 (輪番): 授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の存在理 自』「文部音楽類』「音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の存在理 自』「文部音唱歌』を配布し、解説を加える。  複擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輸読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  複擬『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『章	6	   礎』『ふたりのメイソン』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行
7 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
マれに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の心理学的 基礎』『伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模 援授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の社会学的 基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機 能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬 授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課  担』「ヨナ抜き音階」を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。 それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理 由』「文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』「章 譲』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』「章 譲』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の美学的基
小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の心理学的 基礎』『伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模 擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の社会学的 基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の価値と機能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『現代の音楽教育の課題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の存在理 由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。  模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(182年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。  模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。  全体総括と補足。第2回~14回の	7	礎』『音楽取調掛』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。
8 基礎即伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模 擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の社会学的 基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業 を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機 能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬 授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課 11 題』『コナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。 それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理 由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  13 加学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)		それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
振授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の社会学的基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機能』「小学博歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』「コナ抜き音階」を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)    13		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の心理学的
小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の社会学的基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の価値と機能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『現代の音楽教育の課題』『コナ抜き音階』を配布し、解説を加える。  模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。  模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の方向』「童謡』を配布し、解説を加える。  模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。  資料『音楽教育の方向』「童謡』を配布し、解説を加える。  模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。  全体総括と補足。第2回~14回の	8	基礎』『伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模
9 基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輸番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機能』「小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現業教育の価値と機授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』「当下抜き音階」を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』「文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  13 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』「童謡」を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  14 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』「童謡」と配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の社会学的
小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の	9	基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業
10 能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  13 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  14 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  [資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する
授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  [資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機
小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   14	10	能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番): 授業計画を立案し模擬
超』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。   それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。		授業を行う。それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  [資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課
小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の	11	題』『ヨナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業(輪番):授業計画を立案し模擬授業を行う。
12   由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。(1&2年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		それに対しての反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
る。(1&2年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)  小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)  資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の		小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理
13 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生) 小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生) 資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の	12	由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成す
13		る。(1 &2年生)
語』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)   14   小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童   部』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の	10	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童
14 謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生) 資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の	13	謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(3&4年生)
語』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)   資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の	1.4	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童
15	14	謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する(5&6年生)
	15	資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回~14回の
i ii	15	振り返り。

科目名	家庭	年次	0 単位数 2			
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	横山 和子		,			
クラス名						
	授業目的	1と到達目標	Ę			
「家庭」につい	て以下の目標を達成することができる 1.5	学習指導要	領における家庭科の目標及び主な内容を理			
解している。 2	2.家族・家庭生活における学習内容がわた	いり重要性を	E理解している。 3.衣食住に関する学習内容			
がわかり重要	性を理解している。 4.消費生活・環境に関	引する学習 内	内容がわかり重要性を理解している。 5.他教			
科との関連や	食育、ESDについて理解している。					
		業概要				
1.対面授業で		目標及び主	な内容について解説し、目 標や内容区分の			
変遷や特徴を	·理解させる。 3. 内容を題材レベルで捉え	、その題材	の学習内容を実践することを通し て理解させ			
る。 4. 家庭和	4に関連して、他教科との連携や食育、持続	続可能な社	会を目指す 教育等について理解させる			
	受講-	上の注意				
○ 計画に従っ	って、テキストを参考に、予習しておく ○ 受	講中は主体	本的に参加し、グループ活動や討論場面で			
は、積極的に	参加する。 ○ 受講後は、ワークシートや	ゥテキストを	基に大切なことをしっかり習 得する。			
	成績評価	ffi方法·基準	<u>.</u>			
	種別		割合(%)			
まとめのテス	<b> </b>		40			
参加状況			20			
提出物			40			
教科書情報						
教科書1	わたしたちの家庭科 5.6 年					
出版社名	開隆堂	著者名	鳴海多恵子 編			
教科書2		<u> </u>	,			
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				

参考書情報			
参考書名1	小学校学習指導要領解説家庭科(2020年4月告示 文部科学省)		
出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
	特記事項		
	教員実務経験		
小学校教訓	前38年の実務経験がある教員が実践に基づいて講義する		
	授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容		
1	第1回:家庭科の目標及び内容  学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A·B·Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。  ・学習指導要領を元にまとめる		
2	第2回:「家族·家庭生活」について(1) 「家族·家庭生活」の内容を理解し、家庭の仕事と生活時間の学習内容を知る ・家庭の仕事の学習内容を調べる ・生活時間の学習内容を調べる		
3	第3回:「家族·家庭生活」について(2)  家族や地域との関わりに関する学習内容を知る。(4)の課題例について考える ・B 領域の食領域を題材レベルで調べる  ・家族との関わりについて調べる		
4	第4回:「食生活」について(1) 「食生活」の内容を理解し、栄養に関する学習内容を食育との関連で捉える・B 領域の衣領域を題材レベルで調べる ・学習指導要領での目標を知り食育との関連を考える ・栄養指導の系統性を知る		

5	第5回:「食生活」について(2)  実習時の配慮事項を知り、調理指導の系統性や料理の基本について理解、教材開発について考える  ・調理実習(5.6年で扱うもの)内容や調理の基本を確認する  ・ゆでる、いためる調理で基本と発展の料理を考える
6	第6回:「食生活」について(3)  和食の基本であるご飯と味噌汁の意義や行事食や郷土料理、旬食材の意義を考える ・日本の食文化の意義を考える ・ご飯と味噌汁とだしや行事食、郷土料理、旬の食材を調べる
7	第7回:「衣生活」について(1)  内容B「衣生活」の内容を理解し、洗濯や衣服の役割・季節に応じた着方の学習内容を知る ・洗濯に関する内容を知る ・衣服の働きや季節や目的等に応じた着方を考える
8	第8回:「衣生活」について(2)  内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導内容や留意点が分かる。  ・製作活動の系統性を知る  ・製作活動を通して基礎縫いを確かめる
9	第9回:「衣生活」について(3) ・製作計画を作成する ・計画に基づいて製作を進める
10	第10回:「住生活」について(1)  「住生活」の内容を理解し、整理・整頓、掃除に関する学習内容について知る  ・整理・整頓と物の活用や掃除とごみの分別について知る  ・家庭での実践と継続に向けてについて考える
11	第11回:「住生活」について(2)  季節に応じた住まい方に、省エネや環境の視点を加えた学習内容や工夫について知る ・住まいの役割や季節に応じた住まい方の工夫を調べる ・エコライフの実践について考える
12	第12回:「消費生活・環境」について(1)  日本「消費生活・環境」の内容を確認し、ESDの取り組みや SDGs との関連を知る ・「持続可能な開発(社会)」の歴史的背景について調べる ・ESDと学校での実践や SDGsと学校教育の関係について調べる
13	第13回:「消費生活·環境」について(2)  推進法での消費者教育の目標を理解し、消費者市民の育成をめざす視点を考える ・食育消費者教育推進法と学校での消費者教育を調べる ・消費者市民社会をめざす消費者教育の展開を考える
14	第14回:・「消費生活・環境」について(3)  持続可能な社会の構築をめざして3Rを基にプラごみ や食品ロスについて考える  ・環境と資源(資源を大切に使う、生かす)について調べる  ・環境に 優しいこれからの生活スタイルか考える
15	第15回:まとめ・これからの家庭科教育  家庭科教育で大切なことを振り返りこれからの家庭科教育で必要となる指導内容について理解する。まとめの試験をする。  ・家庭科の学習内容の不易・流行について知る  ・これからの家庭科について考える

科目名	家庭科指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	横山 和子				
クラス名					

家庭科指導法について以下の目標を達成することができる |1.学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容を理解している。 |2.子どもの認識や思考、評価を意識した授業設計ができる |3.学習指導案の構成を理解し、学習指導案を作成することができる。 |4.模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けて|いる。

### 授業概要

1.対面授業で行う|2. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目|標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。|3. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を理解させ、目標達成|のための指導方法について考えさせる。|4. 学習評価を含めて、教材研究を通して学習指導案を作成し、それを具|現化した模擬授業を通して授業評価、授業改善を考えさせる。

### 受講上の注意

成績評価方法 基準

計画に従って、テキストを参考に、予習しておく|○ 受講中は主体的に参加し、グループ活動や討論場面では、積極的に|参加する。|○ 受講後は、ワークシートやテキストを基に大切なことをしっかり習|得する。

### 種別 割合(%) 試験·模擬授業 40 提出物 40 参加状況 20

### 教科書情報

教科書1	わたしたちの家庭科 5.6		
出版社名	開隆堂	著者名	鳴?多恵子他著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学校学習指導要領解説家庭科(2020年)	≖4月告示	文部科学省)		
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
	参考	考 URL			
	特記	記事項			
	教員等	実務経験			
小学校教訓	前38年の実務経験がある教員が実践に基	づいて講義	する		
	授業計画	j(各回予定)	)		
授業回		授業内容	\$		
1	第1回:家庭科の目標及び内容  学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類 1 された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。  ・指導要領に従ってまとめる				
2	· ·		らん」に関する題材についての指導内容や留   ・指導目標や指導計画を調べる  ・導入を		
3			の中の「献立作り」に関する題材についての 業法を考える。  ・指導目標や指導計画を調		

4	第4回:B. 衣食住の生活(衣領域)の指導  内容Bの中の衣領域「洗濯」に関する題材についての 指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。  ・指導目標や指導計画を調 べる  ・全体を通して指導法を考える  ・班で考えた指導法を交流する
5	第5回:B. 衣食住の生活(住領域)の指導  内容Bの中の住領域「そうじ」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。  ・指導目標や指導計画を調べる  ・全体を通して指導法を考える  ・班で考えた指導法を交流する
6	第6回: C. 消費生活・環境の指導  内容Cの消費生活・環境に関して、消費生活に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。  ・指導目標や指導計画を調べる  ・全体を通して指導法を考える  ・班で考えた指導法を交流す理解している。
7	第7回:B.(5)製作活動の指導  内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導方法や留意点を考えることができる。  ・製作活動の基本を知る  ・製作を通して指導の留意点を考える
8	第8回:B.(3)調理の指導  内容Bの調理に関する指導で、ゆでる調理(卵・ジャガイモ等)の実習を通して指導方法や留意点を考えることができる。  ・調理実習の基本を知る  ・調理を通して指導の留意点を考える
9	第9回:教材研究の仕方  授業設計に関して、基本的な課程と留意点がわかり、題材の目標設定 や目標に応じた指導計画や評価計画を立てることができる。  ・授業設計の基本を知る  ・目標や 指導計画を考える
10	第10回:学習指導案の書き方  児童観・題材観・指導観を理解し、自分の考えを表現することができる。本時の指導に関して、指導案の書き方を踏まえて、わかりやす  い本時案を書くことができる。  ・児童館、題材観、指導観書く  ・本時の指導案を書く
11	第11回:模擬授業の学習指導案作り  模擬授業に向けて、グループで題材を考え、教材研究を通して学習指導案を作り、計画的に準備を進めることができる。  ・グループを決め題材を考える  ・模擬授業の学習指導案を作る
12	第12回:模擬授業の準備  模擬授業に向けて、教材研究や学習指導案に基づき、計画的に準備を進めることができる。  ・模擬授業の準備をする  ・本時の細案を書く
13	第13回:模擬授業(1)B  模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。  ・B の内容の模擬授業をする  ・討議会を通して授業のポイントについて学ぶ
14	第14回:模擬授業(2)AC  模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。  ・AC の内容の模擬授業をする  ・討議会を通して授業のポイントについて学ぶ

15

第15回:まとめ・これからの家庭科教育| 家庭科の学習指導で大切なことを振り返り、これからの家庭科教育で必要となる指導内容や課題解決学習を主とした指導方法について理| 解する。まとめの試験をする。| ・家庭科指導法についてポイントをまとめる| ・これからのあり方について考える

科目名	教育課程総論(初等)	年次	[1 ]	単位数 2		
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	田中 幸代					
クラス名	【19以降生対象】					
	授業目的	りと到達目標	<u> </u>			
教育課程の意	意義や目的、役割を理解し、教育課程の編	成方法を理	解する。また、ダ	切児理解を踏まえた指導計画		
の作成の基本	はと作成方法を学ぶ。 教育課程の編成から	ら評価を改善	善に生かす「カリ	キュラム・マネジメント」の意		
義や重要性を	E理解する。					
	授:	業概要				
対面授業 幼	見が健やかに成長していくためには、教育	課程•全体	的計画の編成の	)もと、指導計画を作成し、そ		
れらに基づく	教育実践が必要であることを、講話を通し	て理解する	。 また、幼稚園の	の実践事例や DVD 視聴等を		
通して、幼児	教育への理解を深め、指導計画の作成と	評価・改善に	つなげていく。			
	受講	上の注意				
l .	扁成・指導計画の作成には、幼稚園教育要					
んだり、様々	な絵本や歌曲に親しんだりして、幼児教育	の視野を広	げるようにしまし 	<b>ノよう。</b>		
	成績評価	⊞方法·基準				
	種別			割合(%)		
試験	試験   60					
授業内の課題・レポート・授業への取り組み 40						
教科書情報						
教科書1						
出版社名	出版社名					
教科書2	教科書2					

著者名

著者名

出版社名

教科書3

出版社名

参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
	参え	号 URL			
	特記	記事項			
幼稚園教訓	俞・園長の経験を活かし、教育課程の編成な	や指導計画	の作成の具体的な指導を行う		
	授業計画	j(各回予定	()		
授業回		授業内容	\$		
1	オリエンテーション 「教育課程総論で学ぶこと」 授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする				
2	幼児期の教育の基本 「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」について具体的に 2 説明する				
3	教育課程の意義と目的				
4	教育課程・全体的な計画の編成について				
5	教育課程に基づく、指導計画の作成の基本的な考え方や留意事項について				
6	指導計画作成のポイント? 3歳児クラス  園生活や遊びを通した3歳児の発達と学びの過程を考える				

7	指導計画作成のポイント② 4歳児クラス  園生活や遊びを通した3歳児の発達と学びの過程を
,	考える
8	指導計画作成のポイント③ 5歳児クラス  園生活や遊びを通し4歳児の発達と学びの過程を考え
8	る
9	幼児期の教育と小学校教育の滑らかな接続 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の考え方と
9	指導計画の関係
10	長期の指導計画(月案)作成の実際
11	短期の指導計画(日案)作成の実際
12	幼児理解に基づいた評価の実際
13	カリキュラムマネジメントの意義と重要性について
14	幼児教育・保育の変遷
15	まとめと授業内試験

科目名	教育実習 I (指導·初等)	年次	3	単位数	1
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					

|教職課程における最重要課題の1つに「教育実習」があります。現場の学|校で実際に体験することは何事にも |代えることのできない貴重な体験で|す。実習前の心構えや必要な事項について学ぶと共に終了後の振り替えり| も含め、教員への意識化を図っていきます。

### 授業概要

(対面授業)|「子どもふれあい体験」等の経験をベースに実習時の心構えや対応につい|て、きめ細やかに指導 を行います。実習時に必要なノウハウを身につけて|いきます。また、疑問点や不安等についても丁寧に指導して いきます。|※実習事前指導を13回 事後指導を2回計画しています。事後指導に|ついては、10月中旬~11月 に同一曜日、時間に予定しています。

### 受講上の注意

3年次は、演習Ⅱ担当の先生に。4年次は、ゼミ担当の先生が実習校を訪|問し、直接指導を行なってもらいま す。提出義務や提出期間を厳守し大阪|芸大生として恥ずかしくない態度で臨んで下さい。

### 成績評価方法 基準

種別	割合(%)			
授業への参加意欲・出席	50			
レポート課題	50 ]			
教科書情報				

教科書1	小学校 教育実習ガイド		
出版社名	萌文書林	著者名	石橋裕子・梅沢実・林幸範
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

	参考書情報			
参考書名1				
出版社名	著者名			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
	参考 URL			
	特記事項			
	教員実務経験			
学校長•教	育委員会勤務の経験を活かし実務的な内容を経験を元に指導を行ないます。			
	授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容			
1	(対面) ガイダンス  教育実習の法的位置づけとその役割			
2	(対面) 事前オリエンテーションで必要なこと			
3	(対面) 小学生の発達と成長			
4	4 (対面) 教育委員会と学校			
5	(対面) 学校の一日			
6	(対面) 学級における「配慮の必要な子ども」について			
7	(対面) 子どもや先生との関り			
8	(対面) 学級経営について			
9	(対面) 小学校において「配慮」しておきたいこと			
10	(対面) 「授業」「板書」の工夫の仕方			

11	(対面) 教育実習簿の記載の仕方
12	(対面) 実習時における「挨拶」について
13	(対面) お礼状の書き方と実習関係書類の書き方
14	(対面) 〇実習終了後の事後指導① 10月頃に別日実施。
15	(対面) 〇実習終了後の事後指導② 10月頃に別日実施。

科目名	教育実習 I (指導·初等)	年次	3	単位数 1
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習	
教員名	田中 幸代			
クラス名	【幼・3年教育実習】			

教育実習とは何か、幼稚園教諭の仕事とは何か、実習記録の作成、保育指導案の作成、実践に役立つ保育技術など、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学びます。|教育実習 I (事前事後指導)は到達目標として、幼稚園現場に出る心構えを醸成します。

### 授業概要

対面授業|教育実習の事前事後指導を行います。|事前指導では、実習に臨むにあたり必要な基本的な心構え や態度、子どもとの関わり方や実習日誌の作成の仕方、保育指導案の作成の仕方、保育の実際(「手遊び」「仲 良し遊び」、絵本の選び方や読み聞かせなど)について学びます。|事後指導では、実習の反省を踏まえ今後の 課題を明らかにしていきます。

### 受講上の注意

積極的に実習に取り組むためには、どのような準備が必要なのかをよく|考えて、実習に臨みましょう。|教育実習を経験し、各受講生同士で実習の様子を交流し合う中から、各自|の課題を見つけ、次年度の教育実習につなげていきましょう。

成績評価方法・基準			
	種別		割合(%)
実習授業の	取り組み		100
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2	あそびうた大全集200				
出版社名	永岡書店	著者名	細田 淳子		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
実務経験:幼稚園園長・教諭の経験を活かし、実習に必要な力を具体的に指導する					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	オリエンテーション				
2	教育実習の意義と目的について				
3	実習に必要な実技について(健康) ・各時期における子どもの姿と保育指導について				
4	実習に必要な実技について(人間関係) ・各時期における子どもの姿と保育指導について				
5	実習に必要な実技について(環境) ・各時期における子どもの姿と保育指導について				
6	実習に必要な実技について(言葉) ・各時期における子どもの姿と保育指導について				
7	実習に必要な実技について(表現) ・各時期における子どもの姿と保育指導について				
8	実習日誌の記載について				
9	保育指導案の作成について?				

10	保育指導案の作成について②	
11	教育実習	
12	教育実習	
13	教育実習を終えて(実習園への礼状の作成など)	
14	教育実習を終えて(各自の成果や課題の整理)	
15	教育実習体験発表会 ・成果や課題について協議・発表	

科目名	教育実習Ⅲ(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	実習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【幼·事前事後指導】				
授業目的と到達目標					
幼稚園教諭を目指すための後半の教育実習です。専門性を身につけるた め、前半での教育実習で学んだこと					
  から、さらに課題意識を持ち、取り組 むようにします。幼稚園現場で、幼児理解や様々な活動を体得したことを					

### 授業概要

省察し、幼児教育の専門性の獲得につなげます。

対面授業|幼稚園教育課程と指導計画について学習を進め、それぞれの時期の子ども|のクラス集団での姿から、幼児の実態に即した保育の展開の仕方や保育指|導案の作成をします。また、環境構成についても、考えていきます。

### 受講上の注意

それぞれが課題をもち、積極的に教育実習に取り組みましょう。そのため|には、どのような準備が必要なのかを 考え、準備をしましょう。それぞれ|の幼稚園現場の様子を交流し合いましょう。

### 成績評価方法·基準 種別 割合(%) 実習評価 80 実習課題および事前準備 20 教科書情報 教科書1 出版社名 著者名 教科書2 著者名 出版社名 教科書3 著者名 出版社名

参考書情報			
参考書名1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
担当者は、幼稚園教員免許(1種)長年の現場経験あり			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	教育実習 II の反省から、課題を再確認しよう		
2	教育課程と指導計画について ・入園当初の子どもの姿を考えてみよう・子どもが安心感をもつ遊びとは		
3	入園当初の子どもの姿から、考えてみよう ・どのような遊びを展開していくのか・環境構成とはどのようにすればよいのか		
4	保育指導案を作成し、模擬保育をする		
5	子どもの姿について(実習に出る月の子どもの姿) ・個々の子どもの姿・クラス集団の中での子ども の姿		
6	子どもの自己主張(けんかなど)の受けとめ方について		
7	9月の保育内容について ・運動会前の遊びにどのように取り入れていくか、考えてみよう		

8	9月の保育内容について ・運動会前の遊びにどのように取り入れていくか、考えてみよう
9	9月の保育内容について ・運動会前の遊びにどのように取り入れていくか、考えてみよう
10	保育指導案を作成する ・各年齢に沿った運動遊びを考えよう
11	保育指導案を作成する ・運動遊びを活かした保育内容を考える
12	保育指導案を作成する
13	保育指導案を作成する
14	実習を終えての振り返り ・お礼状を書くことについて
15	実習期間の体験、学んだこと、実際の子どもの姿から、発表をし、意見交換を実施する。

科目名	教育社会学(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	今西 康裕				
クラス名					

社会学のものの見方や考え方、その諸特徴の理解をはかった上で、これを|用いて教育やその主たる対象である子どもたちに関連する諸問題を分析し、|教育に対する視点をより多面的・多角的なものとすることを目指す。 そし|て、受講生個々人が今後自らの家庭生活や職業生活において、教育という|事象やこれに関する諸問題に向き合う際、そうした複眼的な視点から教育|や当該の問題の本質に迫ることができるよう、また問題の解決がはかれる|よう努めたい。

#### 授業概要

対面授業|他の学問とくに同じ教育を研究対象とする教育学との比較を交えて、教育|社会学の視点の独自性や学問的性格を明らかにし、その研究領域として三|つのもの、すなわち、社会(的行為)としての教育、社会から (学校教育|をはじめとした)教育への影響、逆に、教育が社会へ及ぼす影響、がある|ことを踏まえながら、いじめ や不登校といった子どもたちの教育に関連す|る諸問題を、この教育社会学の枠組みを用いて考察し、新たな知見の獲得|をはかりたい。

## 受講上の注意

ただ受動的に講義を聴くのではなく、これまでの自らの学校教育での経験|やそこで感じたこと等を参照とし、また、将来教育者として子どもたちと|関わることを想定して、より主体的に思考をめぐらせ意見表明を行う等、|積極的に授業参加してほしい。また、教育や社会に関する事柄に日頃から|問題関心をもち、書物等を通して、それらについての情報収集や状況把握|を心掛ける態度や姿勢を身につけてほしい。

成績評価方法・基準				
種別			割合(%)	
受講態度・授業への参加姿勢・意欲			10	
提出物の提出状況やその内容の充実度			30	
最終試験		60		
教科書1				
出版社名	名者者名			

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
	参考	書情報	
参考書名1	授業中に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
	教員多	<b>ミ務経験</b>	
	授業計画	(各回予定	)
授業回		授業内容	3
1	研究対象としての教育		
2	社会学の視点		
3	社会としての教育		
4	社会が教育に与えるもの		
5	教育が社会に与えるもの		
6	社会化と教育		

7	家族の社会化機能
8	仲間集団の意義と機能
9	学校教育の機能
10	地域社会と教育
11	「教育格差」にまつわる諸問題
12	現代社会と教育①(ジェンダーや情報化をめぐる諸状況と教育)
13	現代社会と教育②(高齢化・国際化をめぐる諸状況と教育)
14	学校安全への対応等、今日の教育現場に関する諸問題
15	これまでの授業内容のふりかえりとまとめ及び最終試験

科目名	教育心理学(初等)	年次	<b>o</b> ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	山田 佳代子			
クラス名				

教育心理学の基礎的な知識の習得や用語を理解する。そして、教育現場の|様々な問題場面において、子ども の発達に沿った接し方ができるように、|心理学的な知識の応用・技能の習得を目指す。

## 授業概要

対面授業|教育心理学とは、教育に関係のある事象を心理学的に研究し、教育活動の|効果を高めるのに有効な 心理的知見と技術を提供する学問である。その領|域は多岐にわたっているが、本講義では、発達、学習・教授、 人格・適|応、測定・評価などについて、系統的に学んでいく。

# 受講上の注意

事前に、資料を配信するので、教科書とあわせて目を通すこと。各自でプリントアウトをし、それをファイルなどをして整理・管理をすることが好ましい。|授業の後は、小課題を出すので、指示に従って提出すること。|できる限り毎回、児童書や絵本を紹介するので、その内容や子どもの姿などについても理解を深めて欲しい。また、性格検査・IQ検査についても触れるので、真摯な姿勢で臨んでほしい。

# 成績評価方法 基準

	種別		割合(%)
試験			80
授業への取	組み(授業内の課題提出など)		20
	教科	書情報	
教科書1	やさしい教育心理学 第5版		
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	鎌原雅彦•竹綱誠一郎
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	適宜、指示する。		
出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
	特記事項		
	教員実務経験		
実務経験: (元)保健所の母子保健事業嘱託			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	教育心理学とは I  オリエンテーション。教育心理学の概要について理解する。		
2	教育心理学とはⅡ 教育心理学の研究法や教育心理学の領域について学ぶ。		
3	3 学習と教授 I  心理学でいう「学習」の意味を理解する。 基本的な学習理論を学ぶ。		
	学習と教授 II  動機づけ、自己効力感などについて学ぶ。 また、記憶についても学ぶ。具体的に		
4	は、記憶の過程、短期記憶・長期記憶、方略、忘却曲線、カクテルパーティ効果などについて理解		
	を深める。		
5	発達 I  発達とは何か、発達の原理や法則、発達課題について学ぶ。		
6	発達II 主に、胎児期から青年期までの発達過程を学ぶ。		
7	学級集団 学校における基本的な単位である学級集団について、理解を深める。		
8	測定・評価 I  教育評価とは何か、その目的や種類・方法などについて理解する。		

9	測定・評価 II  学力評価について学ぶ。 具体的には、教師作成テストや客観テストについて学習す
9	る。 また、指導要録や教育統計などについても触れる。
10	測定・評価亚 知能および知能検査について学ぶ。 IQ の表示法を学ぶ。
11	人格・適応 I  パーソナリティとは何か?パーソナリティについて、その意味や理論を理解する。 ま
	た、類型論についても学ぶ。
12	人格·適応 II  適応や適応機制について学ぶ。
13	人格・適応皿 子どもの問題行動や心身症、発達障害について学ぶ。
14	パーソナリティの測定およびカウンセリング 主な性格検査(作業検査を含む)について学習する。 カ
	ウンセリングとは何か、歴史や理論などについて学ぶ。
15	まとめと試験 総まとめと試験をする。

科目名	教育相談(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	梅林 厚子				
クラス名					

1)学校教育における教育相談の重要性を認識し、教育相談の方法や教育相談の実際について理解することができる。 2)「学校における」教師の相談のあり方として、基本的なカウンセリングの技法を使用することができる。|3)様々な子どもの問題行動について、教師としてどのように対応するべきか、見通しを立てることができる。

## 授業概要

対面授業|不登校やいじめ、虐待など、今日の子ども、保護者、教師を取り巻く環境・問題を考察しながら子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえ、幅広く学ぶ。また、基本的なカウンセリングの知識や技術を学ぶと共に、教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方、及び、校内や地域などとの連携について理解を深め、その基本的な態度を身につけ、教育現場で活用できる力を養う。

#### 受講上の注意

教員になろうという使命を自覚し、現代の教育上の諸問題に関心を向けておくことが望ましい。そのためにも、関連の書物を読んだり、新聞やニュースなどを見たりする習慣をつけておいてほしい。

# 成績評価方法·基準 種別 割合(%) 小テスト 50 授業コメントシート 30 受講態度 20 教科書情報 教科書1 毎回、資料プリントを配布する。 出版社名 著者名 教科書2 出版社名 著者名

教科書3					
出版社名		著者名			
	参考書情報				
参考書名1	教育相談ワークブックー子どもを育む人に	なるために	一【改訂版】		
出版社名	北樹出版	著者名	桜井美加・齋藤ユリ・森平直子		
参考書名2	よくわかる!教職エクササイズ③教育相談	<u> </u>			
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	森田健宏·田爪宏二監修、森田健宏·吉田 佐治子編著		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
	教員多	<b>ミ務経験</b>			
小学校教訓	俞、カウンセラー(臨床心理士・学校心理士)	としての経	験を織り込みながら、授業を展開します。		
	授業計画	(各回予定	)		
授業回		授業内容			
1	教育相談について  教育相談の意義と役割、教育相談の内容、教育相談の機能(心理教育的援助サービス)について解説する。				
2	学校教育における教育相談の歩みについて 教育相談の歴史や生徒指導と教育相談の関係、生徒指導の組織や学校と専門機関の相談の相違点について解説する。				
3	カウンセリングの理論について  精神分析、来談者中心療法、行動療法など、代表的なカウンセ リング理論を解説する。				

4	カウンセリング・マインドについて  傾聴することの意義や傾聴の基本的な考え方(受容・共感・自己一致など)、傾聴技法(あいづち、繰り返し、明確化など)について解説する。
5	教師のカウンセリング・マインドについて  DVD「学校教育とカウンセリング」を用い、実際の個別面接場面「教師による事例」を視聴することで、積極的傾聴の認識を深める。
6	グループアプローチについて  対人関係能力を育てるエンカウンターの役割を解説し、構成的グループエンカウンターについての認識を深める。
7	子どものパーソナリティ理解について  子どもの欲求や発達課題、問題行動の意味や対応などを解説する。
8	発達障がいへの対応について  発達障がいの基礎知識や発達障がいのある子どもへの対応について解説する。
9	いじめへの対応について  いじめの構造やいじめの様態、及び、いじめの予防やいじめへの対応について解説する。
10	不登校への対応について  不登校の類型や不登校の経過、及び、不登校への対応について解 説する。
11	非行への対応について  少年法における「非行少年」のとらえや非行の心理的原因、及び、非行への対応について解説する。
12	虐待への対応、危機介入について  虐待が子どもに及ぼす影響について解説する。また、学校危機への対応や危機後の心理教育のあり方、チーム援助についても紹介する。
13	教育相談のためのアセスメントについて   知能検査や性格検査(投影法、質問紙法、作業検査法)など、心理アセスメントについて解説する。  ・小テスト
14	保護者との連携、支援のあり方について  保護者の心理や保護者対応の基本的な流れについて 解説する。
15	学校内での連携、地域社会・関係機関との連携について  教育相談担当の役割、養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの校内での教育相談体制のとり方、及び、学校外における専門機関等との連携のあり方について解説する。 ・後期の振り返り

科目名	教育方法論(初等)	年次	0	単位数 2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義	
教員名	芝本 哲也			
クラス名				

1. これからの社会を創る子どもたちを育成する上で、求められている教育とは何かを学び、説明できるようになる。|2. いわゆる「すぐれた授業」とは、どのようなものであるかについて考え、意見を交わしあい、目標とする授業について自分の言葉で語れるようになる|3. 各講義時間内の発表や意見交流、模擬授業などを通して教育に関わる者としての基礎・基本を培う。

#### 授業概要

・本講義は、原則対面授業で行います。|・教育に関連するを人材の育成を念頭に置いて授業をすすめます。|・ 講義内容から教育に関わるうえで大切な事や、激動する社会の中でどのような教育が求められているのか、基 礎的な指導内容と指導上の留意点を網羅した講義を行います。|・学生同士の積極的な意見交流を行い、課題 について考える取り組みを行い、コミュニケーション能力の向上を図ります。

## 受講上の注意

・教育に関わる者となるにふさわしい態度で受講してください。|・一人ひとりの子どもが、いかに興味・関心・意欲を持ち、学校園での生活を楽しみにして成長していく事ができるよう、指導者としてどう考え、実践するか、柔軟な思考を持つようにする。|・積極的な意見交流を行い、各自の考えを拡げるようにする。|・各授業の終わりに小レポートの提出を課すことがある。また、講義のまとめとして、模擬授業プレゼンの実施と最終レポートの提出を求める。

# 成績評価方法•基準

種別	割合(%)		
課題レポート(講義後レポート等)	35		
講義、討論への積極的参加	20		
模擬授業プレゼン、授業指導略案	35		
最終レポート	10		

# 教科書情報

教科書1		
出版社名	 著者名	

教科書2			
出版社名	著者名		
教科書3			
出版社名	著者名		
	参考書情報		
参考書名1	「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領(総則)」など、必要に応じて、その都度示す		
出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
	特記事項		
	教員実務経験		
大阪府立: 教育長を経	大学卒、精密機器メーカー技術員、大阪府公立学校教員・管理職、富田林市教育委員会指導主事・ て現職		
	授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容		
1	授業計画のガイダンス。(授業の流れ、評価について理解する)		
2	これからの社会の動きから、幼保園、小学校における子どもの健全な育成に求められるものについて考え、学ぶ。		
3	幼稚園要領、学習指導要領から、これからの教育に求められることを学び、理解する。		
4	「主体的、対話的で深い学び」について基本の流れや考え方を学び、理解する。		

5	ユニバーサルデザインの活用、インクルージョン・ダイバーシティの考え方を教育に活用する事を考え、学ぶ(1)。
6	ユニバーサルデザインの活用、インクルージョン・ダイバーシティの考え方を教育に活用する事を考え、学ぶ(2)。
7	授業の構造化について理解し、学ぶ。
8	GIGA スクール構想がすすむ中で、ICT 機器の活用を考え、学ぶ。
9	子ども理解について、具体的な事案をもとに考え、その指導内容を発表し合い、考えを交流し、深める(1)。
10	子ども理解について、具体的な事案をもとに考え、その指導内容を発表し合い、考えを交流し、深める(2)。
11	授業計画と実施について考え、学び、理解する。 次授業から取り組む模擬授業実践に向けた説明を聞き、概要を理解する。
12	模擬授業実践(1)提示された「単元の導入部」について、模擬授業を設計・検討・作成する。
13	模擬授業実践(2)前時に作成した、「単元の導入部」の模擬授業をプレゼンし、意見交流し、互いに 高めあう。
14	模擬授業実践(3)前時に続き、導入部の模擬授業をプレゼンし、互いに高め合う。
15	講義のまとめ。最終レポートの提出。

科目名	教職概論(初等)	年次	1 単位数 2			
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	車谷 哲明					
クラス名						
	授業目的	内と到達目標	票			
教職の意義	表職の意義・教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職 への意欲を高め、さらに適性を判断					
し進路選択に	こ資する教職のあり方を理 解させる。					
	授	業概要				
(対面授業)	教員として必要な基礎知識を学ぶ機会と抗	足え、大きく4	4本の柱を中心に授 業を進める。①教職の意			
義②教員の	役割③教員の職務内容④チーム学校運 宮	営への対応。	。具体的事例や討議を中心に自己の考えをで			
きるだけ発表	をでき る機会を持つ。					
	受講	上の注意				
テキストをし	っかり読み込み、授業に備えること。レポー	ト課題には	:自分 なりの考えが表せるようしっかりまとめ			
ること。						
	成績評値	価方法·基準	<u></u>			
	種別		割合(%)			
定期試験(筆	記)		70			
課題レポート	• ]		30			
		斗書情報				
教科書1	「新しい時代の教職入門					
出版社名	出版出)有斐閣出版著	著者名	著者」)秋田喜代美・佐藤学			
教科書2		J L	<u> </u>			
出版社名		著者名				
教科書3	. ,	<u> </u>	JI			
出版社名		著者名				
	<del></del>	」	<del>)</del>			
2 2 2 11/15						

参考書名1	幼稚園教育要領・小学校学習指導要領	
出版社名	出版出)文部科学省 著者名	
参考書名2		
出版社名	著者名	
参考書名3		
出版社名	著者名	
参考書名4		
出版社名	著者名	
参考書名5		
出版社名	著者名	
	参考 URL	
	特記事項	
	教員実務経験	
校長·教育	委員会指導主事の経験を活かし事例を交えてわかりやすく解説する。	
	授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容	
1	(対面) 初年次教育② 相談窓口の周知、個別相談の仕方、健康・メンタルへの対応 教職をめざす  教職をめざす立場から、公教育の目的や教員の役割について討論を中心に考察する。	
(対面) 教員の日々の仕事について 幼稚園や小学校の教員の1日の仕事を調べ、その特質を理解する。		
(対面) 子どもを育む① 成長・発達の面から幼児期・児童期にある子どもの発達の特性を理解する。		
4	(対面) 子どもを育む② 個の理解。一人ひとりの子どもを理解し、望ましい発達を支える教員の役割を考える。	
5	(対面) 保育者や授業者としての教員 保育や授業の展開にあたっての教員が果たすべき具体的な役割を考える。	
6	(対面) 教員に今、求められていること。 教員として現場で必要な能力とは何かを考える。	

7	(対面) 教員として生きる①教員のライフステージ 幼児・児童・生徒への指導および指導以外の役割について理解する。
8	(対面) 教員として生きる②コンプライアンス 良き社会人、信頼される教員としての生き方を考える。
9	(対面) 教員に求められる危機管理意識 子どもの安全確保など教員に求められる危機管理意識について考える。
10	(対面) 教員のメンタルヘルス 教員のメンタルヘルスに関わる現状を知り、合わせて自分の生き方を考える。
11	(対面) チーム学校への対応①保護者・地域住民と 教員として、地域住民や保護者とどのように連携すべきか考える。
12	(対面) チーム学校への対応②専門家・連携機関と(SC・SSW等) SC・SSWの役割について理解し、学校現場での取り組みを理解する。また、関係諸機関との連携の実際を知る。 「虐待事案」への組織的対応について。
13	(対面) チーム学校への対応③連携の実際 学校現場で行なわれている具体的な実践例(ケース会議等)について理解し、専門的知識をもとにしたアセスメントについて考える。 「いじめ」事案をもとに校内連携を考える。
14	(対面) 教員になるために、教職課程を見通し、コース選択を考える。 今後の教職課程の選択について考え、自らの進む方向を決める。また教員採用試験についてその概要をしる。
15	(対面) まとめ(教員をめざすために必要なことについてワークシートにまとめる。 まとめと試験。

科目名	教職実践演習(初等)	年次	4 単位数 2		
授業期間	2022 年度 後期	形態	<u>                                    </u>		
教員名	車谷 哲明、村上 優、小山 久子				
	学者 哲明、刊工 後、小田 久子				
クラス名					
	授業目的	りと到達目標	西 元		
教職課程の最	終学年における、「学びの軌跡の集大成	」として、将え	来幼稚 園や小学校の教員となる上で、自己		
にとって何が課	題であるかを自覚し、 必要に応じて不足	足している知	識や技能を補う.		
	授	業概要			
(対面授業) 幼	稚園教員、小学校教員として教育現場に	こ出るために			
上のための学	答を自主的協働的に進める。また、教 育	委員会事務	<b>務局などから外部講師を招き、教育現場の現</b>		
状理解を深め、	事 例研究等を通して、「信頼される教員	しとなるため	の実践的な指導力、人 間力を身につける。		
	受講.	上の注意			
教育実習やふ	れあい体験を通して学んだことを改めて	この授業で植	<b>美証し教 員として必要な最低の能力が身に</b>		
付けれるよう積	極的に学んでいくこと				
	成績評価	西方法・基準	<u> </u>		
	種別		割合(%)		
レポート			50		
授業内での発	言や取り組み		50		
	教科	書情報			
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3		,,	,		
出版社名		著者名			

参考書名1	適宜授業内で配布します。		
出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
	特記事項		
	教員実務経験		
実務家教員	員の経験を活かし(校長・小中学校教員・教育委員会勤務)実践に役立つ指導を行なう。		
	授業計画(各回予定)		
授業回	授業回		
1	(対面) ガイダンス 自己の課題を振り返り。まとめる。		
2	(対面) 教員にとって成長とは何かを考える。(教育委員会指導主事)		
3	(対面) 保護者対応の基本		
4	(対面) 特別支援教育の考え方と通常学級での対応①		
5	5 (対面) 特別支援教育の考え方と通常学級での対応②		
6	6 (対面) 虐待事案への対応①		
7	(対面) 日々の教育実践における人権教育 免許状一括申請説明会		
8	(対面) 虐待事案への対応②		
9	(対面) 教育の情報化について		
10	(対面) 現場の教員との交流(幼稚園)		
11	(対面) 現場の教員との交流(小学校)		

12 (対面) 教員自身のメンタルヘルス
13 (対面) 学校の抱える現状と課題
14 (対面) 教員に求められるコンプライアンス(法令遵守と倫理観)
15 (対面) まとめ(振り返りレポートの作成)

科目名	芸術表現演習 I(造形)	年次	2	単位数 1	
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名	【19以降生対象】				
	授業目的	2と到達目標			
様々な造形	────────────────────────────────────	目的を理解し		舌動を高める手立てや指導	
方法を身につ	oける。素材提示から評価 に至るプロセス?	を学び、造刑	が活動を通して、育会を表して、育会を表す。	「てるべき「力」について考	
察を進める。					
	授訓	業概要			
(対面授業)	生活の中にある造形素材に触れ、その扱い	ハや加工法	、材料・用具等の技	吸い を学ぶとともに「造形活	
動」への関心	を高め、保育・教育活動への実践力 を確認	実に高めて	\\\ <u>\</u>		
	受講_	上の注意			
素材体験を循	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	て、子ども	に指 導ができるよ	う技術と心構えの修得をめ	
ざします。休	まずに出席し、実技 に積極的に取り組むこ	٤. ا			
	成績評価	<b>ゴ方法・</b> 基準	<u> </u>		
	種別			割合(%)	
課題作品・課	題レポート		80		
授業・作品へ	の取り組み態度		20		
	教科	書情報			
教科書1	新しい指導要領にもとづく 楽しいアート				
出版社名	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明	井関和代	
教科書2	· ·				
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名	出版社名				
	参考	書情報			

参考書名1	
出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名
	参考 URL
	特記事項
	教員実務経験
美術教育団	団体の長や校長、教育委員会指導主事(図エ・美術)の実践と経験を生かした指導を行ないます。
	授業計画(各回予定)
授業回	授業内容
1	(対面) 授業ガイダンス(授業内容と年間計画)
2	(対面) 造形活動の持つ意味(子どもの表現と造形素材について) 年齢発達と造形表現の傾向を知る。
3	(対面) 素材研究1 版を使った造形活動の基礎的な展開(1)写す楽しさ(フロッタージュ)の教材研究と実技指導
4	(対面) 素材研究1 版を使った造形活動の基礎的な展開(2)スタンピングの発展(版あそびの応用と発展教材)
5	(対面) 素材研究1 版を使った造形活動の基礎的な展開(3)紙版の基礎(切り取り紙版・版作りのポイントと他素材の併用)
6	(対面) 素材研究1 版を使った造形活動の基礎的な展開(4)紙版の基礎(切り取
7	(対面) 素材研究1 版を使った造形活動の基礎的な展開(5)スチレンを使った版あそびについて (幼児が手軽に作れる版)

8	(対面) 素材研究2 紙を使った造形活動の基礎的な展開(1)新聞紙の活用(ちぎる・つなぐ・かざる)
9	(対面) 素材研究2 紙を使った造形活動の基礎的な展開(2)新聞紙の活用(つつむ・かくす)
10	(対面) 素材研究2 紙を使った造形活動の基礎的な展開(3)ダンボールの活用(つないで遊ぶ)
11	(対面) 素材研究2 紙を使った造形活動の基礎的な展開(4)ダンボールの活用(めくって遊ぶ)
12	(対面) 素材研究2 紙を使った造形活動の基礎的な展開(4)ダンボールの活用(めくって遊ぶ)
13	(対面) 素材研究3 絵具を使った造形活動の基礎的な展開(2)ローラーを使った指導の展開
14	(対面) 素材研究4 生活素材を使った造形活動の基礎的な展開(1)プチプチを活用して窓を飾ろう
15	(対面) 素材研究4 生活素材を使った造形活動の基礎的な展開(2)ペットボトル

科目名	芸術表現演習Ⅱ(音楽)	年次	2	単位数 1		
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習			
教員名	豊田 千晶					
クラス名	【19以降生対象】					
	授業目的	りと到達目標	!			
発声や話した	ちなど、良い表現とは何かを考える。 子供の	のための音楽	楽劇の指導につな	よがるよう、表現のいろいろ		
を体験・鑑賞	する。					
	授:	業概要				
対面授業 幼	稚園の生活発表会の指導やオペラ・ミュー	ジカルの演	出経験を活かし	発声練習や歌唱練習や振り		
付け練習を「	中心に、相手に伝える表現を学ぶ。 毎回、:	コミュニケー	ションゲーム・1分	}スピーチを行う。		
	受講	上の注意				
積極的な参加	加が必要です。 動きやすい服装と靴を準備	してください	0			
	成績評値	≣方法·基準				
	種別			割合(%)		
練習による」	達		25			
表現の工夫	や独創性		25			
授業に取り糺	目む姿勢		50			
	教和	書情報				
教科書1	必要な楽譜、資料はその都度配布します。					
出版社名	著者名					
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3	教科書3					
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名	著者名			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
	参考 URL			
	特記事項			
	教員実務経験			
実務経験:	オペラ演出家。幼稚園での音楽劇指導、小・中・高校でのミュージカル指導。			
	授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容			
1	授業の概要説明と各自の音楽体験を発表する。 1分スピーチの練習を行う。			
2	腹式呼吸の意味を知る。呼吸練習・発声練習を行う。 コミュニケーションゲームの紹介。 ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の鑑賞(部分)とドレミの歌の歌唱			
3	発声練習。言葉を話す練習。その1。 コミュニケーションゲームの紹介。ドレミの歌の英語歌唱と替え歌」の創作。			
4	発声練習。言葉を話す練習。その2。 コミュニケーションゲームの紹介。 リズムに合わせた動作や ステップの練習。ミュージカル(部分)鑑賞			
5	振り付けの練習とプロンプターの練習。 知らない曲の歌詞を覚える練習と歌詞に合わせた振り付けの実習。ミュージカル(部分)鑑賞			
6	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。その1 歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。ミュージカル(部分)鑑賞			
7	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。その2 歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。ミュージカル(部分)鑑賞			

8	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。 例:「おばけなんてないさ」 歌唱練習と振り付け練習。
9	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。 例:「森のくまさん」 歌唱練習と振り付け練習。
10	音楽劇の創作「11匹のねこ」から2曲を選び、 2グループに分かれて曲の間のセリフを作る。
11	音楽劇の練習 音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
12	音楽劇の練習 音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
13	音楽劇の振り付けの練習と、2グループでの鑑賞。
14	コミュニケーションゲームの復習、振り付けやステップ練習の復習 歌唱ゲームの紹介
15	前期のまとめ 日本の伝統舞台作品の鑑賞。落語・歌舞伎・文楽 など

科目名	芸術表現演習Ⅲ(身体)	年次	2 単位数 1			
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習			
教員名	小南 佳世					
クラス名						
	授業目的	りと到達目標	標			
子どもの全面	前的な発達に向け、そして幼児や児童をは	じめとした様				
活動の重要	生を学び、習得する。 幼稚園・保育所・小学	学校などにお	おける指導者・支援者に必要な感性や柔軟な			
思考力・創造	力、そして現場での身体表現活動に必要	な動きやダン	ンスの基礎を身につける。			
	授	業概要				
対面授業 動		┣体表現やム				
を育む意義を	・ ・学ぶ。 幼稚園・保育所・小学校などの教	育現場におり	らける指導・支援にあたり、必要不可欠な身体			
のしくみなど	、実践に必要な理論を学習する。					
	受講	上の注意				
授業で行った	上内容の理解を深める為に復習をしましょう	5。 ダンス技	支能の習得・向上には、練習が必要です。 習・			
たことを反復	し、意欲的に学習して下さい。 授業には、	動きやすい	い服装で出席して下さい。			
	成績評値	西方法·基準	· 连			
種別 割合(%)						
平常点(受請	時の意欲)		45			
練習による名	今の成果		20			
身体表現•ダ	ンス創作		[15 ]			
まとめ(ダン	まとめ(ダンス発表/レポート) 20					
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2		J <u> </u>	JI.			
出版社名	• •	著者名				
教科書3		<u> </u>				
		-1-	1.			

著者名

出版社名

参考書情報				
参考書名1	新訂運動生理学概論			
出版社名	大修館書店	著者名	宮下充正・石井喜八	
参考書名2	ダンスセラピー入門 リズム・ふれあい・イ	 メージの療	法的機能	
出版社名	(株)岩崎学術出版社	著者名	平井タカネ	
参考書名3	ダンスセラピーの理論と実践 からだと心	へのヒーリン	<b>ッグ・アート</b>	
出版社名	株式会社 ジアース教育新社	著者名	大沼幸子・崎山ゆかり・町田章一・松原豊	
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
	参	考 URL		
	特	記事項		
教員実務経験				
音楽運動療法士である教員が実際の現場で活かされる身体表現の技術習得のための実技演習を行う。				
	授業計画	Ī(各回予定	)	
授業回		授業内容	3	
1		・脂肪) や肥	満についてを学ぶ。 ストレッチの意味・意義・	
	必要性を知り、その方法を身につける。			
2	ウォームアップ 理論・実践 身体運動前後の準備体操・整理体操の意義、なぜ運動が必要なのか 2 を生活習慣病を交えて説明し、実践する。			
日本伝承の遊び/踊り日本古来の子どもの遊びを知り、体験する事で、実際の教育現場で			り、体験する事で、実際の教育現場で活かす	
3 ことができるようにする。 盆踊りについて学び、現代系の盆踊りやこども音頭を実践する。				
4	イラスト・文章からの振りおこし/指導練習 初等教育の現場で行うことになるであろうイラストや文章からダンスの振りをおこす練習、そしてそのダンスを伝える練習を行う。			
	世界伝承の踊りフォークダンスについて学	≐び、教育現	場で頻繁に使用されるであろうフォークダン	
5	スを習得する。			

6	運動会のダンス体験① 教育の現場で必要な、運動会などで行うマーチ曲でのダンスを資料から振
	りおこし、習得する。
7	運動会のダンス体験② 前回の復習と、続きのダンスを振りおこし、完成を目指す。
8	運動会のダンス創作① 教育の現場で必要となる、運動会などで踊るマーチ曲を選び、曲の構成や
8	隊形の作り方等、運動会で踊るダンスの創作方法を学ぶ。
9	運動会のダンス創作② 前回選曲したマーチ曲で、実際に運動会で踊るダンスの創作を行う。
10	映像からの振りおこし 初等教育の現場で行うことになるであろう映像から振りをおこす練習を行う。
11	ダンスセラピー(リズムの効用・空間意識) ダンスセラピーの中で、個々の快適なリズムや空間につ
11	いて学習し、他者の認識や受け入れを体験する。
12	ダンスセラピー(イメージの表現) 自分の中から生まれる身体表現を体験する。
13	子どものためのダンスムーブメントの実際 子ども向けの曲に合わせたダンスを学び、習得する。
1.4	子どものためのダンスムーブメントの展開(創作) お遊戯会や発表会に備え、曲・衣装・舞台装飾・
14	ダンスの振り付けを考える。
15	まとめ 習得したダンスを各自発表する。 授業で学んだ事を振り返り、レポートを書く。

科目名	国語 I	年次	1	単位数	2	
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	三村 昌義					
クラス名						
	授業目的	りと到達目標	Į			
初等教育の国	語の授業、また、保育に当たって、教授者	者として最低	限知っておかなり	ナればならな	 い日本語につ	
いての知識、言	言葉への興味の持たせ方、指導法などに	ついて学ぶ	。これらの知識を	習得ことを到	到達点とする。	
	授	業概要				
母語である日本	本語に関するさなざまな知識、言語文化に	こついて、実	践を交えながら	解説する。		
	受講	上の注意				
メモではなく、し	しっかりしたノートを取ること。 私語、スマ	ホは厳禁。				
	成績評値	西方法・基準				
	種別			割合(%)		
2~3 回実施予	テ定n小テストの成績		60			
提出ノート			20			
受講態度			20			
	教科	書情報				
教科書1 な						
出版社名		著者名				
教科書2	2					
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名		-		
参考書情報						
参考書名1 授業時に適宜、紹介する。						
出版社名		著者名				

参考書名2					
出版社名	著者名				
参考書名3					
出版社名	著者名				
参考書名4					
出版社名	著者名				
参考書名5					
出版社名	著者名				
	参考 URL				
	特記事項				
	教員実務経験				
俳人 俳句	」雜誌「山茶花」主宰 第26回俳人協会新人賞 第34回詩歌文学館賞受賞				
	授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容				
1	日本語の特徴(1)				
2	日本語の特徴(2)				
3	日本語の音韻				
4	日本語の文字体系(1)				
5	日本語の文字体系(2)				
6	漢字について				
7	7 漢字の指導				
8	常識としての日本文学史(1)				
9	常識としての日本文学史(2)				
10	常識としての日本文学史(3)				
11	幼児教育とことば(1)				
12	幼児教育とことば(2)				
13	伝統的な言語文化について 俳句の実作を通して(1)				

14	伝統的な言語文化について 俳句の実作を通して (2)
15	まとめ

科目名	国語 Ⅱ (書写を含む)	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	石橋 卓				
クラス名					

1 国語科教育の基礎・基本となる内容を理解する。|2 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)国語の内容を理解する。|3 書写指導(硬筆)の基礎・基本を習得する。

## 授業概要

対面授業|1 『小学校国語科教育法』阿部藤子・益地憲一(建帛社)を使って、国語科教育の基礎・基本について 説明する。|2 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』を使って、小学校学習指導要領国語の 内容を説明する。|3 小学校国語科書写用教科書『新しいしょしゃ二』平形精逸(東京書籍)を使って、書写指導 (硬筆)の基礎・基本について説明する。

#### 受講上の注意

・予習として、「授業計画(各回予定)」の授業内容に示している教科書及び参考書の当該箇所を必ず読んでおくこと。|・毎回、書写(硬筆)の実技を行うので、かきかたえんぴつ(2B)と消しゴムを用意すること。|・授業ノートと書写プリント、レポートで平常点を評価するので、必ず提出すること。

# 成績評価方法 基準

種別	割合(%)
平常点(ノート・書写)及びレポート	30
期末(筆記)試験	70

# 教科書情報

L			
教科書1	小学校国語科教育法		
出版社名	建帛社	著者名	阿部藤子・益地憲一
教科書2	小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編		
出版社名	東京書籍	著者名	文部科学省
教科書3	新しいしょしゃニ(小学校国語科書写用 文部科学省検定済教科書)		
出版社名	東京書籍	著者名	平形精逸

参考書情報			
参考書名1			
出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
参考 URL			
特記事項			
教科書は3	冊とも授業と試験で使用するので、必ず購入しておくこと。		
	教員実務経験		
小学校教員	員(教諭、教頭、指導主事、校長)36 年、大阪市教育センター教育指導員(若手教員指導担当)5 年		
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション  ・授業の内容について ・平常点及びレポートについて ・期末試験について ・掲示登録及び授業資料について 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』(以下『解説』と略す。)付録「別表 学年別漢字配当表」、「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表」		
2	『教育法』第1章 国語科教育の意義と目指すもの 『解説』第1章 総説 『新しいしょしゃ二』(以下『しょしゃ』と略す。)しょしゃの学び方、1 楽しく書こう 文字を書くしせい、書きやすいもち方		
3	『教育法』第2章 授業と教師『解説』第2章 国語科の目標と内容 第1節 国語科の目標、第2節 国語科の内容 1内容の構成、2[知識及び技能]の内容 『しょしゃ』2 かたかなの書き方「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」		
4	『教育法』第3章 授業づくりの要件 『解説』第2章 第2節 3[思考力、判断力、表現力等]の内容  『しょしゃ』2 かたかなの書き方 文字くらべ		

5	『教育法』第4章 発達の段階に応じた指導 『解説』第3章 各学年の内容 第1節 第1学年及 び第2学年の内容 1[知識及び技能] 『しょしゃ』3 かん字の書き方 点画の名前
6	『教育法』第5章 教材研究 『解説』第3章 第1節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『しょしゃ』れんらくちょうを書こう、3 かん字の書き方 ひつじゅんのきまり
7	『教育法』第6章 授業デザイン 『解説』第3章 第1節 2 C 読むこと 『しょしゃ』3 かん字の書き方 画の長さ、「おれ」のむきと「はらい」のむき
8	『教育法』第7章 話すこと・聞くことの学習指導 『解説』第3章 第2節 第3学年及び第4学年の内容 1[知識及び技能] 『しょしゃ』かんさつしたことを書こう
9	『教育法』第8章 書くことの学習指導 『解説』第3章 第2節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『しょしゃ』3 かん字の書き方 画のつき方と交わり方、文字の形
10	『教育法』第9章 読むこと(文学)の学習指導 『解説』第3章 第2節 2 C 読むこと  『しょしゃ』 書きぞめをしよう
11	『教育法』第 10章 読むこと(説明的文章)の学習指導 『解説』第 3 章 第 3 節 第 5 学園及び第 6 学年の内容 1[知識及び技能] 『しょしゃ』かん字のなりたち、書いてあじわおう
12	『教育法』第 11 章 読書指導、及び、第 12 章 国語科における[知識及び技能]の内容『解説』第 3 章 第 3 節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『しょしゃ』3 かん字の書き方 文字の中心
13	『教育法』第 13 章 授業研究とリフレクション 『解説』第 3 章 第 3 節 2 C 読むこと 『しょしゃ』 3 かん字の書き方 画のむきと、画と画の間
14	『教育法』第 14 章 評価『解説』第 4 章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項 『しょしゃ』二年生のまとめ
15	『教育法』第 15 章 これからの国語科教育に求められるもの 『解説』第 4 章 2 内容の取扱いについての配慮事項、3 教材についての配慮事項 『しょしゃ』「ありがとう」をつたえよう  *試験についての説明

科目名	国語科指導法(書写を含む)	年次	2	単位数 2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義	
教員名	石橋 卓			
クラス名				

1 国語学力を形成する国語科授業のありかた、進め方を理解する。|2 書写指導(硬筆・毛筆)の基礎・基本を 習得する。

## 授業概要

対面授業|1 『国語科授業の教科書(改訂版)』野口芳宏(さくら社)を使って、国語科授業のありかた・進め方を 説明する。|2 小学校国語科用教科書『新しい国語 二下』『新しい国語 五』(東京書籍)を読み、学習指導案を 作成し、学生が指導者となって模擬授業を行う。|3 小学校国語科書写用教科書『新しい書写 三』(東京書籍) を使って、書写指導(硬筆・毛筆)の基礎・基本について説明する。

#### 受講上の注意

・予習として、「授業計画(各回予定)」の授業内容に示している教科書及び参考書の当該箇所を必ず読んておくこと。|・毎回、書写指導(毛筆と硬筆)の実技を行うので、書道用品、かきかたえんぴつ(2B)と消しゴムを用意すること|・第 12 回~第 15 回の授業では、模擬授業を行う。先生役と児童役は、受講する学生全員が担当する。
( )で示している割合は、その時間の先生役を担当する学生の通算の割合である。|・授業ノートと書写作品(毛筆)、学習指導案と模擬授業で平常点を評価するので、必ず提出し、模擬授業を行うこと。

# 成績評価方法·基準 種別 割合(%) 平常点(ノート、書写、学習指導案と模擬授業) 30 期末(筆記)試験 70 教科書情報 教科書1 国語科授業の教科書(改訂版) 野口芳宏 出版社名とくら社 著者名 教科書2 ||新しい国語ニ下、新しい国語五(小学校国語科用 文部科学省検定済教科書)計2冊 出版社名 秋田喜代美 東京書籍 著者名

教科書3	新しい書写 三(小学校国語科書写用 文部科	学省村	検定済教科書)
出版社名	東京書籍	者名	平形精逸
参考書情報			
参考書名1			
出版社名	著	者名	
参考書名2			
出版社名	著	者名	
参考書名3			
出版社名	著	者名	
参考書名4			
出版社名	著	者名	
参考書名5			
出版社名	著	者名	
参考 URL			
特記事項			
教科書は4	4 冊とも、授業と期末試験で使用するので必ず購	入して	たくこと。
教員実務経験			
小学校教員(教諭、教頭、指導主事、校長)36年、大阪市教育センター教育指導員(若手教員指導担当)5年			
授業計画(各回予定)			
授業回	授	業内容	<b>△</b>
	オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方	、準備	<b>帯物、掲示登録等の確認についての説明を聞</b>
1	く。) ・学習指導案の書き方を聞く。 ・国語科教育 習のまとめを書く。	配関	わる新聞記事や参考図書の紹介 ・ノートに学
	『国語科授業の教科書(改訂版)』序 授業の存	在意義	
2	成が曖昧な国語科授業、二 国語学力とは、三	国語	哲学力形成の原理 『新しい国語 二下』(読む)
	あなのやくわり(せつ明文) 『新しい書写 三』1	毛筆	の学習を始めよう

3	『国語科授業の教科書(改訂版)』第二章 授業の基本・授業者の心得 一 全員参加を促す授業、 二 子どもを集中させる技術、三 分かりやすい話し方、四 素材研究・教材研究 『新しい国語 五』 (読む)大造じいさんとがん(物語) 『新しい書写 三』2「横画」
4	『国語科授業の教科書(改訂版)第二章 五 範読、第三章 授業の基礎技法 — 発問、二 板書  『新しい国語 二下』(読む)かさこじぞう(お話) 『新しい書写 三』3「たて画」と「点」
5	『国語科授業の教科書(改訂版)』第三章 三 ノート指導、四 机間巡視『新しい国語 五』(読む) 和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる(説明文) 『新しい書写 三』4 「おれ」
6	『国語科授業の教科書(改訂版)』第三章 五 指名、六 評価 『新しい国語 二下』(読む)ビーバーの大工事(せつ明文) 『新しい書写 三』5 筆順の決まり
7	『国語科授業の教科書(改訂版)』第四章 教材別指導の基本 - 文学作品(物語文)の鑑賞(前半) 『新しい国語 五』(読む)注文の多い料理店(物語) 『新しい書写 三』6 「はらい」
8	『国語科授業の教科書(改訂版)』第四章 教材別指導の基本 一 文学作品(物語文)の鑑賞(後半) 『新しい国語 二下』(読む)お手紙(お話) 『新しい書写 三』7 「曲がり」と「反り」
9	『国語科授業の教科書(改訂版)』第四章 教材別指導の基本 二 説明文の読解 『新しい国語 五』(読む)動物たちが教えてくれる海の中のくらし(説明文) 『新しい書写 三』8 ひらがな
10	教材を選び、学習指導案を作成する。
11	学習指導案を完成させ、次回からの模擬授業の説明を聞く。
12	模擬授業を行う(1/3)
13	模擬授業を行う。(2/3)
14	模擬授業を行う。(3/3)
15	*模擬授業を行う(予備) 『新しい国語 二下』おばあちゃんに聞いたよ 『新しい国語 五』古文のえがく四季 『新しい書写 三』9 文字の大きさと字間  *テストの説明を聞く。
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	

25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目名	算数	年次	[1 ]	単位数	2	
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	荒川 透					
クラス名						
	授業目的	りと到達目標				
小学校算数	科のテーマは「数と計算」、「量と測定」、「図	形」,「数量	関係」の 4 点であ	5る。本講義	では、これらの	
テーマに加え	えて算数・数学の基盤となる「集合と論理」に	ついて学習	する。本授業を追	通して,「算数	<b>数科」を指導する</b>	
あたり, より	効果的な授業が構築できるようになってもら	いたい。さら	っに, 各テーマをご	通じて,数学	:的思考法も併せ	
て身に付けて	てもらいたいと考えている。					
	授	業概要				
対面授業 講	義内容は必ずしも小学校課程の範囲にとる	ごまらないが	、それらは小学村	交で授業を構	舞築する上で, 教	
師として当然	「知っておかなければならないものである。	講義ではでき	きるだけ例題や演	習を挙げる	っことにより, 理解	
を確実なもの	つにしていきたいと考えている。					
	受講-	上の注意				
随時演習問	題等を提供するので、授業内容の理解を確	実なものに	してほしい。			
	成績評価方法・基準					
	種別 割合(%)					
課題および打	受業時の演習等		100			
教科書情報						
教科書1	資料プリント等を配布する。					
出版社名		著者名				
教科書2		-		-		
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				

参考書情報				
参考書名1				
出版社名	著者名			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
	参考 URL			
特記事項				
教員実務経験				
授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容			
1	小学校・算数科で何を学ぶか: 小学校学習指導要領・算数科の概要			
2	数とは何か、数概念について理解する:数の種類と働き			
3	数の表現方法(記数法)について理解する:古代の記数法と位取り記数法			
4	四則演算の意味について考える			
5	小学生がおかす四則演算の間違いについて考える			
6	分数の四則演算について			
7	図形の種類と分類:2次元,3次元図形,作図と作図のための道具			
8	量と測定:数と量の関係, 示量性と示強性			
9	図形と計量: 距離と角度, 計量と計量のための道具			
10	図形と計量:面積と体積,表面積			

11	集合とは何か、またその演算について理解する
12	数学的思考法について考える:論理とその演算
13	比とは何か
14	比例と反比例について理解する
15	数量関係の関数概念への拡張:写像と関数

科目名	算数科指導法	年次	<b>o</b> ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	芝本 哲也			
クラス名				

1. 小学校学習指導要領(算数)の目標を理解し、基礎的な指導内容と指導上の留意点を知ることができる。|2. 「数学的活動」の楽しさに関心・意欲を持ち、「数理的処理の良さ」に気づくことができる。|3. 問題解決学習の進め方を理解するとともに、模擬授業をもとに具体な授業場面を想起し、授業設計を行う方法を身につける。|4. 授業場面を想起し、算数科学習指導案を作成し、模擬授業をプレゼンできる。

## 授業概要

・本講義は原則対面授業で実施しますが、コロナ禍拡大で大学方針の変更があればオンデマンド対応変更もあります。|・小学校での教育を担う人材育成を念頭に置いて授業をすすめます。とりわけ、算数科の指導法を学び、実践できるよう、基礎的な指導内容と指導上の留意点を網羅した講義を行います。|・実際の授業を想起して学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組みます、また学生同士の意見交換を行い、より良い授業とは、を考えるような取り組みもすすめます。|・また、講義の中で「問題解決型の算数問題」にも取り組みます。

## 受講上の注意

・教員となるにふさわしい態度で受講してください。|・一人ひとりの子どもが、いかに興味・関心・意欲を持ち算数学習に取り組み、「わかった」「できるようになった」、更に「算数の面白さや良さ」を学ぶか、そのために、指導者としてどう考え、実践するか、柔軟な思考を持つように。|・各講義の終わりに小レポートの提出を課す。|・最終講義でリポート提出による試験を行う。

# 成績評価方法•基準

種別	割合(%)
課題リポート(講義後リポート等)	30
講義・討論への積極的参加	20
プレゼン(模擬授業実践)	35
模擬授業指導案、最終レポート等	15

# 教科書情報

教科書1	小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 算数編		
出版社名	日本文教出版	著者名	文部科学省

教科書2				
出版社名	著者名			
教科書3				
出版社名	著者名			
	参考書情報			
参考書名1	必要に応じ、その都度示す			
出版社名	著者名			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
参考 URL				
特記事項				
	教員実務経験			
大阪府立た	大学卒、大阪府公立学校教員・管理職、富田林市教育委員会指導主事・教育長を経て現職			
	授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容			
1	授業計画のガイダンス(15 回の流れ、評価を理解する。算数・数学教育を考える)			
2	学習指導要領の動きと、算数科での目標を考え、授業にどう活かすかを考える。			
3	「評価」について考え、授業にどう活かすかを考える。			
4	「算数科を通して児童が学ぶこと」を学び、授業の組み立てにどう活かすかを考える。			
5	「数と計算」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える(1)。			
6	「数と計算」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える(2)。			

7	「図形」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。
8	「量と変化」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。
9	「データ活用」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。
10	模擬授業を通して授業の流れを考える。
11	各自で授業の流れを考え、算数科学習指導案を作成する(1)。
12	各自で授業の流れを考え、算数科学習指導案の作成する(2)。
13	各自で作成した学習指導案をもとに、模擬授業をプレゼンし、意見交換を行う(1)。
14	各自で作成した学習指導案をもとに、模擬授業をプレゼンし、意見交換を行う(2)。
15	講義のまとめと、授業実践に向けた取り組みについて考える。最終レポート提出。

科目名	社会	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					

社会科は地理的内容、歴史的内容、公民的内容から成り立つ。しかし、小学校社会科はそれらを総合して社会を認識していくところに特質がある。|教えるにあたっては、幅広い知識と社会認識が必要となる。学生諸子には、社会事象、歴史、生活や文化に関心を持ち、自ら調べ、社会及び小学校社会科の内容に対する認識を深めてもらいたい。

## 授業概要

講義は対面授業で行うことを基本とする。|学生諸子が、日本の歴史、文化、宗教、現代社会の事象に関心を持つように、授業内配布資料、新聞記事や映像等を使って授業を展開したい。また、社会に対する認識を培うには、自ら社会事象に関心を持ち、それら社会事象に対して自らの考えを育み、綴ることも大切である。授業では、考えること、綴ること、意見を発表することを大切にしたい。小レポートとして、自らの調べ学習をまとめたり、発表したりすることも課する。

## 受講上の注意

筆記用具を持参すること。講義中には、板書を行います。ノートを用意してください。また、講義内では副教材や 資料の配布を行うので、ファイル等を用意していただきたい。また、日頃より新聞を読み、ニュースを見、書物を 読むことも、社会認識を広めるには大切なことだと考えている。

## 成績評価方法·基準

種別			割合(%)		
期末試験			60		
日常点の回答文(第1講から第9講の9回分)			20		
小レポート(	第 10 講から第 15 講までの 6 回分)		20		
教科書1	小学校学習指導要領解説 社会編				
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省		
教科書2					

出版社名		著者名		
教科書3				
出版社名		著者名		
	参考	書情報		
参考書名1	初等社会科教育研究			
出版社名	学芸図書株式会社	著者名	山口幸男・山本友和編著	
参考書名2				
出版社名		著者名		
参考書名3				
出版社名		著者名		
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
参考 URL				
特記事項				
	教員9	実務経験		
小学校教訓	俞•教育委員会指導主事			
	授業計画	(各回予定	)	
授業回		授業内容	7	
1	はじめに。講座のガイダンスと目標を明られ	いにする。		
2	l .	の育成であ	は社会の一員であり、その構成員である。小 る。学生諸子自身の社会認識の育成の一歩	
3	N.		じられる社会事象に関心を持ち、社会に対す る。新聞の読み方、考察の仕方、文章化の方	

	法について講義する。学生諸子には、自ら新聞記事を読み、その内容と自らの考えをまとめる小レ
	ポートを課題として課する。
	『この国のかたち』について学ぶ。日本は、小さな島国である。土着の文化と、海外からやってきた
4	異国の文化が融合され、そして独自の風習や文化が形づくられてきた。作家司馬遼太郎氏の作品
4	を参照としながら、日本人がどのようにしてこの国の文化や風習を形づくってきたのかを講義する。
	また、これからの社会をどうつくっていこうと考えるのかも、学生諸子を交えて考え合いたい。
	シュプランガーの『郷土科の陶冶論』について講義する。シュプランガーは「人間というものは、大地
	と結ばれたこうした根元的なものを必要としている。」と述べ、そして、「ある人が故郷を持っていない
5	と語られる場合、それは彼の人格には中心点がないといわれるのとほとんど同じ意味である。」と述
	べている。学生諸子自身の経験や考えを併せながら、シュプランガーの陶冶論について考察した
	い。それは、小学校の3年生ぐらいでの地域学習の授業づくりの在り方に繋がってくるからである。
	『旅に出よう!』社会というのは、人々の生活と文化である。自らのまわりにある生活文化を見るこ
	とも大切であるが、知らない土地、知らない街に出かけ、未知の文化と触れ合うことも大切である。
	物事は、1 つだけではなく、比較対照することで見えてくることがたくさんある。またそこで、社会や
6	自分の生き方に対する新たな見方・考え方や感じ方がうまれてくる。本や映像、人の話としても人々
	の生活や文化を知ることはできるが、自身の目で見、感じることが大切である。将来、小学生に地
	理や歴史を教える時にも、実際に体験して得た知識や感じ方はとて
	『地理的学習』について学ぶ。 日本人は、外国人から見た時、無宗教のように見えるところがある。
	宗教は、人間の生活や生き方、社会の作り方に大きな影響を与えてきた。世界の宗教とともに、日
7	本人の宗教についても考えてみる。作家・司馬遼太郎は、日本人には"無宗教の宗教がある"と語っ
	ている。そして、それは私たちの社会や文化・生活を作ってきた大きな要素であった。日本人と宗教
	について知り、考えることは、自国の社会認識をかたち作る上で欠かせないものと言える。
	『歴史学習の在り方』について考える。小学校6年生の歴史学習は、人物学習が中心になってい
8	る。歴史的人物を学習することで、その時代の人々の生活や願い、社会の様子や課題について考
8	え、学んでいくのである。現在のところ、副教材にも掲載されている『聖徳太子』を学習例として、歴
	史学習の在り方について考察する。
	『人権』について学ぶ。人権という言葉が日本社会に入ってきたのは、幕末から明治にかけてであろ
0	う。民主主義という言葉もそうであるが、これらの言葉の意味、そして日本社会に入ってきたことの
9	意義について、日本社会の歩みと照らし合わす中で考える。また、現代日本や国際社会の中での
	人権課題・問題についても取り挙げて、人権に対する認識を深めたい。
	小学校4年生、5年生では地域の産業や日本の産業について学習する。学習方法については様々
10	にあるであろうが、この分野では、児童が自ら調べまとめる「調べ学習」が多く取り入れられている。
	学生諸子にも、自分で地域の産業を調べ、まとめることを課したい。対象は、産業だけに限らず、文
	化・生活・歴史的遺物に範囲を広げてもよい。自身で調べ学習をしてみる。小学校社会科の目標の
	JL

	最も中心的なものは、「公民的資質の育成」である。今回の地域を調べる学習活動が、どのようにし
	て児童の公民的資質の育成につながっていくのか。今講義を通じて考察
	『戦後日本の教育』の歩みを概観するとともに、知識理解を深めたい。特に社会科は、戦後に誕生
	した教科であり、戦前・戦中の教育の在り方の反省から出発した教科である。また、戦後日本の再
11	生を期待して設置された教科でもある。その出発点にあたって、どのような経過で創設され、何を目
11	標として内容が作られていったのか。そして、時代の変化とともに社会科の内容も変遷してきたこと
	を学んでいく。 社会科は、各教科と比べて、最も大きく時代とともにその内容が変遷してきた教科で
	あるといってもいい。つまり、今後も変遷していく。どんな内容の社
	ドイツの哲学者、マルクス・ガブリエル氏の『欲望の時代の哲学』を教材にして、現代社会について
	の考察を深めたい。資本主義が現代社会にどのようの影響を与えているかの考察とともに、現代日
10	本社会や日本人の在り方についての認識も深めていきたい。小学校社会科の目標は、「社会の中
12	でよりよくいきていくために、そして社会を一層発展させていくために、人間は他の人々や社会とど
	のようにかかわっていくのか」まで視野を広げることが大切であるとしている。学生諸子も、現代日
	本社会に対する認識を深めてもらいたい。
	日本社会は、戦後の高度経済成長期を経て、大きく変容してきた。農村や山村等、国土の様子、生
	活の仕方、仕事(産業)の在り方も大きく変容した。私たちの現在とこれからの迎える社会を考える
13	時、その変容の足跡を見、考えることは、小学校社会科を教えるものとして学習しておかなければ
13	ならないことである。記録映像をもとに、日本人が積み重ねてきた生活の工夫や努力・願いについ
	て知り、自分の考えを持ち、"歴史"を学ぶことと現代日本を理解することの関係について、その認識
	を深めていきたい。
	学生発表を行う。第1講から、自身が住む地域や日本の文化・宗教・歴史・人権・産業等について学
1.4	んできた。学生諸子が特に印象に残った事柄に対し、深く掘り下げて考察してもらいたい。グループ
14	に分かれて互いの意見を交換し、発表・交流を行いたい。交流を深めることで、互いの興味関心を
	広げるとともに、知見も広げたい。
	まとめ

科目名	社会科指導法	年次	<b>o</b> ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	長谷 充康			
クラス名				

社会科の授業づくりは、難しい。1つは、取り扱う対象が、幅広い範囲にわたっていることである。2 つは、社会に対する児童の知識や興味関心が、1 人ひとり大きく違っていることである。3つは、社会事象を扱うにしろ、歴史事象にしろ、おおよそ正解というものがないことである。学生諸子には小学校社会科の目的を理解し、ある単元において社会科の授業づくりができるようになることを目標としたい。

## 授業概要

講義は対面授業で行うことを基本とする。社会科の目標、社会科の内容について講義する。実際の授業記録をもとにして、社会科の授業づくりの在り方について研究協議する。学生諸子には、教科書や映像及び講義内配布資料等を参照し、指導案づくりと模擬授業に挑戦してもらいたい。その中で、自らの小学校社会科への興味関心や、教育に対する理解や授業創造への意欲も培われることと思う。

#### 受講上の注意

学習指導案づくりにおいては、単元設定が大切である。日ごろから、何をテーマとして自分は教材観を書くのか。 教員を目ざす者としてのアンテナを張って、考えておいてもらいたい。また、本講座では、板書をよく行う。学生諸子には筆記用具とともに、ノートも準備してもらいたい。

成績評価方法・基準					
種別		割合(%)			
期末試験			60		
日常の回答	文		20		
小レポート		20			
	教科書情報				
教科書1	小学校学習指導要領解説 社会編				
出版社名	出版社名 東洋館出版 文部		文部科学省		
教科書2	教科書2				
出版社名		著者名			

教科書3					
出版社名		著者名			
	参考書情報				
参考書名1	初等社会科教育研究				
出版社名	学芸図書株式会社	著者名	山口幸男・山本友和編著		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
筆記用具及びノートを用意すること。講義時に資料を配布するので、ファイルを用意すること。					
教員実務経験					
小学校教諭•教育委員会指導主事					
	授業計画	ī(各回予定	)		
授業回		授業内容			
1	はじめに。講座のガイダンスと目標を明られ	かにする。			
2	小学校社会科は、第二次世界大戦後に創	設された教	科である。戦前、戦中、戦後の歴史を概観し		
	ながら、なぜ社会科が創設されたのか、そ	の目標と存	立根拠について講義する。		
			、昭和 22(1947)年に創設された。ほぼ 10		
3	年ごとに学習指導要領が改訂され、社会科の内容・時間数等は変化してきた。その変遷の歴史を 学ぶ。社会科は、他の教科に比べても、最も著しく時代の変化をその内容や目標に取り入れられて				
			ての変化をその内容や目標に取り入れられて 質・態度を育成することを目標とする教科とし		
		J = 7 U J .	zi iniziemini o ne		

	て、当然ではある。これまでの歴史を振り返るとともに、これからの社会科の在り方についても考察
	していきたい。
	小学校社会科の内容について学習する。小学校社会科の内容は、大きく分けて、地域学習・地理
4	的学習・歴史的学習・公民的学習及び「環境」「国際理解」の学習に分類されている。それぞれの内
	容及び目標を概括する。
	『地域学習・郷土学習』の内容とその目標について講義する。併せて、地域学習の授業づくりについ
5	て事例をもとに研究協議する。
	    『地理的学習』の内容とその目標について講義する。併せて、地域学習の授業づくりについて事例
6	を深めてもらいたい。特に、日本は自然災害が多い国である。これまでの先人の防災の歩みと、現
	代における防災の在り方を調べ、地理と人々の生活との関係を学び合いたい。
7	授業研究を行う。4年生における社会科の授業記録を見ることで、社会科の授業についての認識を
	深めるとともに、学習指導案づくり・授業計画づくりの方法についての認識を深めたい。
	6 年生『戦争と平和』についての授業づくりについて研究協議する。私たちの先人は、第二次世界
	大戦という大きな犠牲を伴った戦争を経験してきた。戦争の記憶を引き継ぎ、平和と戦争の問題を
8	考える授業づくりは、小・中学校問わず大切な課題である。立ち止まって現代の私たちの社会を考
	える動機作りにもなる。何を教材とし、どのように授業を構成するのか。具体例を挙げ、研究協議す
	්ි ද
	6 年生『歴史学習』の授業づくりについて研究協議する。小学校の歴史学習は、他の単元でも同様
	であろうが、子どもたちが興味関心を持つことが大切である。そのためには、歴史を学ぶこと、調べ
9	ることが楽しくなることが大切である。『楽しく学ぶ歴史学習』作りについて、1つの学習指導案を事
	例として提示する中で、学生とともに研究協議を行う。
	学習指導案づくり(1) 学習指導案の作成にあたっては、小学校における社会科教科書・文部科学
	省の学習指導要領を参照しながら、単元の設定や教材観の記述、本時の目標等を策定していかな
10	  ければならない。教科書に載っている『古い道具と昔の生活』を参照しながら、目標の設定や教材
	観の書き方について講義する。また、授業の展開の在り方についても、研究協議を行う。
	学習指導案づくり(2) 5 年生における産業学習を例としながら、主に単元の設定の在り方と、教材
11	観の書き方について講義する。
	授業観察を行う。4年生における社会科の授業を見て、社会科の授業の難しさと楽しさについて研
12	
	グループを設定する。グループごとに話し合いで、模擬授業の単元を設定し、学習指導案づくりを
13	行う。まず大切なのは、単元設定である。単元を設定し、教材観、目標、本時の展開を考える。グル
	一プでの研究協議を大切にし、指導案をまとめる。

	学生による模擬授業 第 13 講で作成した指導案を基にして、模擬授業を行う。研究・協議し、学生	
14	同士で指導案をより有効で創造的なものに作り上げていくことを大切にしたい。	
15	まとめ	

科目名	小学校教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	今西 康裕				
クラス名	【19以降生対象】				

教育課程とは何か、ということからまず出発し、教育課程は社会的に承認|された「教育のプログラム」であることを強調した上で、学校教育で教育|課程が有する役割と機能、意義等について理解を図る。また、このような|教育課程を編成する際の基本原理となるもの、各学校の教育実践に即した|教育課程編成の方法を学ぶと共に、教科や領域、学年をまたいでカリキュ|ラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの重要性を理解|する。

## 授業概要

対面授業|数多の社会的な事象のなかで、何を、どのように、どういう順番で教えて|いくかを明示したものが教育課程である。ただ、これは子どもたちの未来|を規定しかねないものであるという重要性を有しながら、必ずしも万人に|教育効果のあるものを編成することは至難の業であるという「難しさ」を|も併せもつ。そうした教育課程の重要性と「難しさ」を中心に据え、その|役割や編成過程、基本原理等を、歴史的推移も交えながら確認・考察して|いきたい。

## 受講上の注意

ただ漠然と授業時間をやり過ごすことなく、自らの小学校段階の教育体験|と照らし合わせながら授業内容を確認し、教育や教育課程に対しての自分|なりの考えや意見をもつようにしてほしい。また、そうした考えや意見を|他者が理解できるよう、的確な表現を用いて提示するよう心掛け、実際に|試行してみることで、自らの思考等をより明確・鮮明に自覚することにも|つながるはずである。恥ずかしさや失敗を恐れることなく、自ら「考え」、|「語る」ことを繰り返し行なってほしい。

成績評価方法・基準		
種別	割合(%)	
受講態度・授業への参加姿勢・意欲	10	
提出物の提出状況やその内容の充実度	30	
最終試験	60	
教科書情報		
教科書1		

出版社名		著者名		
教科書2				
出版社名		著者名		
教科書3				
出版社名		著者名		
	参考	書情報		
参考書名1	授業中に適宜紹介する。			
出版社名		著者名		
参考書名2				
出版社名		著者名		
参考書名3				
出版社名		著者名		
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
参考 URL				
特記事項				
	教員等	実務経験		
	授業計画(各回予定)			
授業回		授業内容	3	
1	教育課程とは何か			
2	社会と教育課程			
3	教育課程と学習指導要領			
4	教育課程の歴史的変遷			
5	教育課程の類型とその内容			

6	教育課程編成の基本原理
7	教科・領域を横断した教育内容の選択・配列の方法
8	カリキュラム・マネジメント
9	学校段階と教育課程
10	教育課程の評価
11	教育課程の実践者としての教師
12	家庭・地域・学校の教育分担と教育課程
13	学校文化と潜在的カリキュラム
14	教育課程の今後に向けた課題
15	これまでの授業内容のふりかえりとまとめ及び最終試験

科目名	情報メディアの活用	年次	<b>o</b> ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	松井 純子			
クラス名				

司書教諭に求められる情報メディア活用の基礎知識と実践的な技能を習得する。|(1)情報メディアの種類と特性について理解する。|(2)情報検索の知識と技能を習得する。|(3)パスファインダーの作成を通じて、情報活用能力の育成方法を具体的に把握する。

# 授業概要

対面授業|インターネットと情報環境の進展を背景に、学校図書館に対して多様なメディアの活用が要請されている。また、児童・生徒の情報活用能力の育成も、学校図書館の重要な役割である。|ここでは、情報メディアの種類と特性、情報検索の基礎などを述べた上で、多様な Web サイトやオンラインデータベースなどの検索演習を通じて、情報活用能力育成のための具体的方法を示す。さらにパスファインダーの作成を通じて、それらの具体化を図る。著作権や情報モラルに関わる問題も取り上げる。

#### 受講上の注意

司書教諭は、教師として児童・生徒を指導する立場であることは言うまでもない。したがって、教師としての意識・ 自覚を持って受講すること。また、各回の授業テーマについて、受け身でなく、自分自身で考えるようにしてほしい。|遅刻・欠席は厳禁。

成績評価方法・基準					
種別		割合(%)			
パスファイン	ゲーの作成・提出・プレゼンテーション		50		
検索演習課	題の提出		10		
平常点(ミニレポート、授業への取り組み姿勢)		40			
教科書1 使用しない。プリントを配布。					
出版社名	<b>三</b>				
教科書2					
出版社名		著者名			

教科書3					
出版社名	著者名				
	参考書情報				
参考書名1	情報を学習につなぐ:情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説				
出版社名	全国学校図書館協議会				
参考書名2	「アロハ図書館タイム」はじめます。:鳥取・羽合小:司書教諭による学校図書館活用授業				
出版社名	全国学校図書館協議会 著者名 北田明美著				
参考書名3	学校図書館を活用する学び方の指導:課題設定から発表まで(新しい教育をつくる司書教諭のしご参考書名3 と1)				
出版社名	全国学校図書館協議会 著者名 宅間紘一著				
参考書名4	パスファインダーを作ろう:情報を探す道しるべ				
出版社名	全国学校図書館協議会 著者名 研究会著				
参考書名5					
出版社名	著者名				
	参考 URL				
{学校図書館	官の現状に関する調査,https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1360234.htm} {リー				
	図書館を、もっと身近で、使いやすく」,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/m				
icro_detaii/_	_icsFiles/afieldfile/2017/03/22/1360321_4.pdf}				
	特記事項				
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	オリエンテーション 学校図書館の現状:文部科学省の調査結果をもとに				
2	教育の情報化と学校図書館				
3	学習指導要領における学校図書館と司書教諭				

4	情報活用能力の育成と学校図書館 ・情報活用能力とは ・情報活用能力の育成と情報リテラシーモデル:「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」「ビッグ6」
5	情報メディアの種類と特性(1) ・鳥取・羽合小「学び方指導の内容体系表」を参考に ・パッケージ系メディア(印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア)とネットワーク系メディア(インターネット、オン
	ラインデータベース)
6	情報メディアの種類と特性(2)情報メディアの収集・保存・提供とその特徴
7	学校図書館とコンピュータの活用
8	調べ学習とインターネットの活用(1) ・情報検索とインターネット ・検索エンジンの特性と検索機能 ・検索演習
9	調べ学習とインターネットの活用(2) ・各種検索サイトの活用 ・検索演習
10	調べ学習とインターネットの活用(3) ・オンラインデータベースの検索 ・検索演習
11	パスファインダーの作成(1) ・パスファインダーとは何か ・パスファインダーの事例
12	パスファインダーの作成(2) ・パスファインダー作成の実際(キーワードの選定、情報源の種類と選択、書誌記述の方法)
13	学校図書館と著作権(1)著作権法概説
14	学校図書館と著作権(2)学校教育と著作権
15	パスファインダーの作成(3) ・作成したパスファインダーについてプレゼンテーション

科目名	人権教育論(初等)	年次	2	単位数	2	
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義			
教員名	石川 結加					
クラス名						
	授業目的	りと到達目標	<u>.</u>			
1)日本をは	じめ世界に存在する差別、不平等、格差等	の問題を私	事として捉え、正	しく理解する	る。 2	·····································
を国際人権	基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関	連づけなが	ら理解する。 3)ま	現存する人	権を	めぐる諸課
題の解決策	を模索しながら、誰もが住みやすい社会の	将来像を描	き、教育の役割に	ついて考え	[る。	4)すでに国
内で取り組ま	Eれている人権に関連する教育実践を学ぶ	とともに、取	得した知識を使っ	て教育現場	易で消	舌かせる技
能やスキルを	を修得する。					
	授:	業概要				
国連が採択	した人権教育関連決議や行動計画をはじぬ	り、国内にお	ける人権教育に	関わる法律	及び	基本計画、
そして指導力	う法等に関するとりまとめを理解する。また	、国際人権	基準や日本国憲法	まで謳われ	ている	る基本的人
権を踏まえて	(国内の人権問題を課題別に歴史、現状、	関連法及び	対策、教育実践等	等について	考察す	する。さら
に、人権を主	生体的に深く学ぶため、グループワークやデ	・イスカッショ	ン等の参加型体験	験学習法を	取り	入れる。
	受講	上の注意				
毎時の指定	されたテーマについて、テキストを事前に読	んでおくこと	<b>-</b> 。			
	成績評値	<b>五方法・</b> 基準	<u>I</u>			
	種別			割合(%)		
感想カード			50			
レポート課題	1		50			
	教科書情報					
教科書1	『人権教育への招待 一ダイバーシティの	り未来をひら	く』2019年			
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実	編著		
教科書2						
出版社名		著者名				

教科書3

出版社名		著者名		
参考書情報				
参考書名1				
出版社名		著者名		
参考書名2				
出版社名		著者名		
参考書名3				
出版社名		著者名		
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
	参え	考 URL		
人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/s hingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf 人権 及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.g				
	特	記事項		
	教員劉	実務経験		
日本国内の	カ同和教育を始め海外において、障がいの	ある人、難見	民、移民の方々への就労支援、国際人権基	
準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。				
授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容			
1	授業の概要、自己紹介、 序章 人権教育。	とは何か バ		
2	序章 人権教育とは何か パート2:国内人権教育の4側面			
3	序章 人権教育とは何か パート3:国際的	な人権教育	育確立の動向	
4	第1章 学校・子ども・人権「子どもの人権」			

5	第1章 学校・子ども・人権「障害者と人権」
6	第1章 学校・子ども・人権「在日外国人と多文化共生」
7	第1章 学校・子ども・人権「部落差別と人権」
8	第1章 学校・子ども・人権「ジェンダーとセクシュアリティ」
9	補足「アイヌ民族と人権」
10	第2章 人権を学ぶ基礎概念
11	第3章 同和教育実践の再発見
12	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり
13	第5章 人権学習を作る視点と方法
14	第6章 地域とつながる人権教育
15	第7章 人権教育の現代的課題

科目名	図画工作I	年次	1	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	金田 惠美子			
クラス名				

美術教育とは教育する教師自らが製作の喜びを熟知していることが肝要である。然りながら、自らの感性のみで達成できるものではなく、教育のみで行えるものではない。|まず種々な素材と対峙し、創造的思考の追及と創作技能の熟達を両輪に据え、各自の造形能力の向上と人間の本能的・本質的な「ものをつくる」を指導できる人材育成を目的とする。

## 授業概要

【対面授業】|他教科と大きく異なる図画工作は「ものをつくる」という行為が教育目的として存在する。この「ものをつくる」という行為は多岐多様な状況の連続である。教育現場で折々の状況に円滑に余裕を持って対応できる様、知識に依存することなく、平面表現・立体表現の素地となる諸要素を各人の「目」「手」「身体」を関わらせ体得し、創造の喜びを感知できるよう授業を進行する。

#### 受講上の注意

・造形領域に関心を持つこと|・授業内容に積極的に関わりを持つこと|・得手、不得手を枠の外に置き、まず挑戦してみること|・「つくる」を大いに楽しむこと

# 成績評価方法 基準 種別 割合(%) 制作作品の評価 40 各回の授業ノートの記入内容 30 受講態度及び受講姿勢 30 教科書情報 教科書1 出版社名 著者名 教科書2 著者名 出版社名 教科書3

出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						
出版社名		著者名				
参考書名2						
出版社名		著者名				
参考書名3						
出版社名		著者名				
参考書名4	参考書名4					
出版社名		著者名				
参考書名5						
出版社名		著者名				
	参表	考 URL				
特記事項						
	教員9	実務経験				
40年弱の	大学での造形の基礎教育の実務経験を持	つ。 専門領	域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
	授業計画	ī(各回予定)	)			
授業回		授業内容	Į.			
1	ガイダンス 図画工作の概要と授業内容の概説。必要用具についての説明					
色彩- I 無彩色 色彩の基礎知識/顔料の混色体験 直線と曲線で分割された画面を白〜黒までの数色の無彩色で彩色し、構成する。						
3	色彩-II 有彩色 色彩の基礎知識/顔料の混色体験 色彩一1で分割した同様の画面を有彩色で 彩色する。できうる限り混色により色を作り出すことに挑み、自分の色を見つけ出す。					
4	色彩-Ⅲ 色彩と感情 色彩の基礎知識/包/酸をテーマにカード状に切断したケント		D導入と理解 春/夏/秋/冬・甘/辛/苦のないように彩色する。			

	1
5	色彩-Ⅲ 色彩と感情 色彩の基礎知識/色彩心理への導入と理解 前回のカード状の色面をそれぞれ 12 等分し、1 枚を自分の物として残し、残りを不特定の学生と交換し、各項目別に別紙に貼り付ける。
6	形態- I 観察と描写 観察、記憶への挑戦 モチーフを一定時間観察し、記憶のみを頼りにして描写。
7	形態-II 描写(無彩色) 鉛筆デッサンへ導入、描写力の向上 白黒グラビアの一部分を、10×10(cm)の正方形で切り抜き、鉛筆による描写で再現する。
8	形態-II 描写(無彩色) 鉛筆デッサンへ導入、描写力の向上 白黒グラビアの一部分を、10×10(cm)の正方形で切り抜き、鉛筆による描写で再現する。
9	形態-Ⅲ 描写(有彩色) 色鉛筆での描写、色の表現、描法の向上 カラーグラビアの一部分を10× 15(cm)の長方形で切り抜き、色鉛筆の塗り重ねにより再現する。
10	形態-Ⅲ 描写(有彩色) 色鉛筆での描写、色の表現、描法の向上 カラーグラビアの一部分を10×15(cm)の長方形で切り抜き、色鉛筆の塗り重ねにより再現する。
11	素材- I 立体へのアプローチ イメージの具現化(平面上での挑戦) 「マイボックス」をテーマに各自自由に発想し、材料・工作方法などへのラフスケッチを作る。
12	素材- II 立体の構造性と素材の選択 「マイボックス」の制作
13	素材-皿 立体の造形性と色彩 「マイボックス」の制作
14	素材-Ⅳ 立体の完成度と装飾性 「マイボックス」の制作
15	素材-V 合評と振り返り

科目名	図画工作Ⅱ	年次	0	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	金田 惠美子				
クラス名					
	授業目的	りと到達目標	Į		
幼稚園・小学校	の図画工作担当教育に必要な知識や技	技能の習得、	及び指導法の基	礎知識の習	3得。教材研究を
深め、指導技術	所の向上、教師としての資質を養う。				
	授	業概要			
【対面授業】 図	画工作の特性をふまえ、指導観、表現観	、教材研究	を基本とし、表現	教材として	の図画工作にお
1	削を持つ教材研究を重きに置いて授業を	進める。 図	画工作Ιでの学	習をさらに発	<b>É展された授業</b>
内容。					
	受講-	上の注意			
・まず造形領域	に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に	に関わりを持	・つ事。 ・ジャンル	別に提示さ	れるテーマにお
いて知識の拡充	たが計れる様、ノート作成に努力、精進す	<b>-</b> る。			
	成績評値	≣方法·基準			
	種別			割合(%)	
各回の授業ノー	-トの記入内容		30		
受講態度及び	受講姿勢		30		
制作作品の評値	西		40		
	教科	書情報			
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名	出版社名				
	参考	書情報			

参考書名1	図画工作科 授業の基礎基本				
出版社名	小学館	著者名	野切卓		
参考書名2	ポイントと授業づくり 図画工作				
出版社名	東洋館出版社	著者名	藤江充、辻政博		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
	参示	考 URL			
	特	記事項			
	教員9	実務経験			
40年弱の	40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。				
	授業計画	Ī(各回予定	)		
授業回		授業内容	g.		
1	図画の立場から教材研究、及び技術の向上 色彩と形態の関連性、図画工作 I の授業内容のグレ				
	ードアップ オノマトペの一つを各自選択決定し、具象形態を用いずに、B3 ケント紙に表現する。				
2		•	態の関連性、図画工作 I の授業内容のグレースのでは、		
	ードアップ オノマトペの一つを各自選択決定し、具象形態を用いずに、B3 ケント紙に表現する。				
3	他学科実習室の見学(美術学科)				
4	工作の立場から教材研究、及び技術の向上 バターナイフもしくはスプーンのデザイン画の制作				
5	工作の立場から教材研究、及び技術の向上 2×2×18(cm)のヒノキ棒から各自がデザインしたバ				
	ターナイフもしくはスプーンを削り出す。				
6	工作の立場から教材研究、及び技術の向上 2×2×18(cm)のヒノキ棒から各自がデザインしたバターナイフもしくはスプーンを削り出す。				
7	デザインの立場から教材研究、及び技術の向上 オリジナル T シャツづくりのためのデザイン画の制作				

8	デザインの立場から教材研究、及び技術の向上 テキスタイルメデュームで溶解した顔料を用いて 各自のデザインされた T シャツの制作
9	デザインの立場から教材研究、及び技術の向上 テキスタイルメデュームで溶解した顔料を用いて 各自のデザインされた T シャツの制作
10	工芸の立場から教材研究、及び技術の向上 陶土を用い、まず触覚からスタートする。粘土の可塑性の特徴と魅力を発見・認識を踏まえ、「形づくる」難しさと楽しさを主眼において造形する。
11	工芸の立場から教材研究、及び技術の向上 陶土を用い、まず触覚からスタートする。粘土の可塑性の特徴と魅力を発見・認識を踏まえ、「形づくる」難しさと楽しさを主眼において造形する。
12	他学科実習室の見学(工芸学科)
13	複合素材の立場から教材研究、及び技術の向上 図画/工作/工芸/デザインの各領域から習得・蓄積した知識と技能と表現方法を踏まえて、各自自由に作品を制作する。(平面・立体は問わない)
14	複合素材の立場から教材研究、及び技術の向上 図画/工作/工芸/デザインの各領域から習得・蓄積した知識と技能と表現方法を踏まえて、各自自由に作品を制作する。(平面・立体は問わない)
15	複合素材の立場から教材研究、及び技術の向上 図画/工作/工芸/デザインの各領域から習得・蓄積した知識と技能と表現方法を踏まえて、各自自由に作品を制作する。(平面・立体は問わない)

科目名	図画工作科指導法 I	年次	2	単位数 2		
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義			
教員名	車谷 哲明		·			
クラス名						
	授業目的	内と到達目標	E C			
幼児・児童の	造形活動を指導するにあたり、保育及び	受業の設定(	ーーーー の仕方や 基礎的	な学習理論を理解させ、学		
習指導案の	作成をもとに具体的な授業場 面を想定した	∠授業設定 <i>0</i>	方法等を身につ	けさせる。		
	授	業概要				
(対面授業)		設計の方法		、模擬 授業を通して発問や		
授業展開の	方法を考えていく。全員が作成した指導案	を元に「授業	き」することを必須	iとする。		
	受講	上の注意				
学習指導要領	 頃・図画工作解説編をよく読み、絵やものを	生作る中では	 ぐくま れるカにつ	ついて自分なりに考察を進め		
ること。						
	成績評値	西方法·基準	<u>I</u>			
種別			割合(%)			
指導案・レポート・模擬授業			40			
テスト			60			
	数₹	4書情報				
+/- T-I -= -						
教科書1	新学習指導要領にもとづく こどものアート					
	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明	・并関和代		
教科書2	小学校教育課程実践講座 図画工作					
出版社名	ぎょうせい出版	著者名	奥村高明			
教科書3		1	1			
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領	図画工作編				
	l					

出版社名	文部科学省	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
	教員9	実務経験	
美術教育団	団体の長や教育委員会指導主事(図エ・美	術)の経験を	活かし豊富な実践例を通して指導力の向上
授業計画(各回予定)			
授業回		授業内容	1
1	(対面) ガイダンス 「子どもと造形活動」① 新学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を知る。		
2	(対面) 「子どもと造形活動」② 新学習指導要領に示された内容の全体構造を把握し、学年別の傾向を知る。(作品鑑賞を通して)		
3	(対面) 「子どもと造形活動」③ 造形活動の意欲化と評価についての方法を学ぶ。(形成的評価とポートフォリオ)		
4	(対面) 「子どもと造形活動」④ 保育所・幼 して育成すべき能力を明確にする。	稚園での造	形活動と小学校低学年との関連から教科と
5	(対面) 「子どもと造形活動」⑤ 図画工作科と他教科との関連について(教科横断的な取り組みや生活科、総合的な学習の時間との関連)		
6	(対面) 「授業づくりのポイント」① 図画工作せた題材の設定から計画作成まで)	作科の学習技	指導案の作成について(子どもの実態に合わ

7	(対面) 「授業づくりのポイント」② 図画工作科の学習指導案の作成について(導入の工夫と板書計画子どもを引き付ける題材名の検討や発問の工夫について)
8	(対面) 「授業づくりのポイント」③ 図画工作科の学習指導案の作成について(授業展開の工夫と鑑賞活動・振り返り活動の大切さ)
9	(対面) 図画工作科における情報機器の活用 図画工作科の学習指導案の作成について(授業内において効果的な機器の活用方法について実践例をもとに考える)
10	(対面) 模擬授業の準備 使用用具・素材の準備、場所の設定、配布物の用意等
11	(対面) 模擬授業の展開① 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
12	(対面) 模擬授業の展開② 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
13	(対面) 模擬授業の展開③ 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
14	(対面) 模擬授業の展開④ 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
15	(対面) 授業づくりのポイント 授業計画から実践・評価の中で大切にすべきことについて。評価テスト。

科目名	図画工作科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					
	授業目的	りと到達目標	Į		
図画工作科の教	図画工作科の教科目標、育成すべき能力資質をさらに明確にし、授業づくりに必要な情報や技能を明確にして			能を明確にして	
いく。また、具体	的な授業場面を想定 した授業設計を行	「なうことのと	出来る方法を身に	つける。	
	授美	業概要			
(対面授業) 実	技指導に関連させながら、指導のポイン	トや工夫点	を明確にしていく。	。 また、鑑賞	官への取り組み
についても作品	を通して学ぶ機会を作ります。子 どもの	意欲を高め	るための題材設	定や材料・月	用具の工夫につ
いて討論しな カ	ら必要事項を身につけていきます。				
	受講_	上の注意			
実践的な指導の	O仕方について学んでいくので、自分なり	Jの思いや考	きえがし っかり持・	てるよう日こ	うから意識する
ように。					
	成績評価方法・基準				
種別 割合(%)					
テスト			50		
作品評価	作品評価		50		
	教科	書情報			
教科書1 新	学習指導要領にもとづく こどものアート	• ]			
出版社名 昭	和堂	著者名	編著 車谷哲明	•井関和代	
教科書2 小	学校教育課程実践講座 図画工作				
出版社名	ょうせい出版	著者名	奥村高明		
教科書3					
出版社名		著者名			
	参考書情報				

参考書名1	小学校学習指導要領解説 図画工作編	
出版社名	文部科学省	
参考書名2		
出版社名	著者名	
参考書名3		
出版社名	著者名	
参考書名4		
出版社名	著者名	
参考書名5		
出版社名	著者名	
参考 URL		
特記事項		
	教員実務経験	
美術団体の	D長や教育委員会指導主事(図エ・美術)の経験を活かし具体的実践例をもとに指導力を育成する。	
授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容	
1	図画工作科の内容と構成について。 新しい学習指導要領で大切にすべきこと。	
2	図画工作科の内容研究「造形あそび」① 造形あそびの特性解説と題材の分析(幼稚園~低学年)造形あそびの中で育つカ	
3	図画工作科の内容研究「造形あそび」② 造形あそびの特性解説と題材の分析(中学年~高学年) 身近なあそびと造形活動	
4	図画工作科の内容研究「平面に表す」① パス・水絵の具を使った題材の分析、きっかけ題材への工夫	
5	図画工作科の内容研究「平面に表す」② パス・水絵の具を使った題材の分析、きっかけ題材への工夫	
6	図画工作科の内容研究「平面に表す」① 版画の指導計画の作成と実技指導(切り取り紙版)	
7	図画工作科の内容研究「平面に表す」② 版画の指導計画の作成と実技指導(スチレン版とその応用)	

8	図画工作科の内容研究「立体に表す」① 素材研究(ダンボールを使った教材研究)
9	図画工作科の内容研究「立体に表す」② 素材研究(ペットボトルを使った教材研究)
10	授業場面を想定した授業設計① 電子黒板と電子教科書の活用方法について(実践例をもとに考える)
11	授業場面を想定した授業設計② ipad を活用した授業設定の考察について
12	図画工作科の評価について① 作品の評価について(記録と結果をもと
13	図画工作科の評価について② 授業内における評価活動と助言の仕方について
14	模擬授業の実施(代表)① 学年、内容について事前に検討した計画に沿って代表者が模擬授業を 行なう。
15	模擬授業の実施(代表)② 学年、内容について事前に検討した計画に沿って代表者が模擬授業を 行なう。テスト

科目名	生活	年次	[1 ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義	
教員名	長谷 充康			
クラス名				

生活科が創設されたいきさつから生活科の目標を理解する。創設時、生活科の新設理由として「生活や学習の基礎的能力や態度などの育成を重視する」ことや、「児童の心身の発達状況に即した学習活動の展開」が謳われている。本講座では、「生活科の授業づくりに向けて」の資質・能力の育成を目指すが、子ども理解や、人間の『生活』への理解は欠かせない。子ども理解を深くするとともに、「豊かな生活を作る」とはどういうことなのかを考えていきたい。

# 授業概要

本講座の講義は、対面式授業を基本として行う。|人間の生活は、様々に変化してきた。その変化は、環境の変化がおよぼすものもあるが、社会の変化やその中での生活への考え方の大きくある。それらは、周りの変化や状況から受け取らざる負えないものもあっただろうが、人は、その中で、様々に考え選択してきた。その選択の中には、深く言えば「生きるとは何か?」・「人間とは何か?」「豊かさとは何か?」という問いをめぐる思考があった。生活とは、選択し、創造していくものでもある。本講座では、私たちは何を考え、どう生活を作ってきたのかも含めて、広く"生活"について知り、思考を深めていきたい。

#### 受講上の注意

筆記用具およびノートを用意すること。講義内では資料を多数配布するので、ファイルも用意すること。

# 成績評価方法・基準

	/2012CH   IM	1717A E-		
	種別		割合(%)	
小レポート			20	
期末テスト			60	
日常の感想文	日常の感想文		20	
	教科	書情報		
教科書1 小学	学校学習指導要領解説 生活編			
出版社名 東洋	羊館出版	著者名	文部科学省	
教科書2				

著者名
著者名
参考書情報
『子どもが育つみちすじ』服部祥子著
朱鷺書房
著者名
参考 URL
特記事項
教員実務経験
員·教育委員会指導主事
授業計画(各回予定)
授業内容
はじめに 講座の目標説明とガイダンスを行う。
『チンパンジーと私たち』約450万年ほど前に、私たちヒトは、樹上から地面に降りて、ヒトとしての種の道を歩んできたとされる。霊長類研究者の松沢哲郎氏は「人間だけ見ていても、人間のことは分かりません。共通祖先から分かれたチンパンジーとの比較で、人間が分かります。」と話している。様々な種が生まれ、滅んでいくなかでヒトが発展してきた道のりを概観し、私たちヒトの特性を考える。

	『子どもが育つ道すじ』小学校に入学するまでの子どもの成長について考える。服部祥子氏は、そ
3	の著『子どもが育つ道すじ』において、「人間にはある程度普遍的に定まった、身体的・精神的・社
	会的発達の道筋があり、一人ひとりの子どもがその道筋をたどって成熟していく。」と書いている。
	人間の発達について、大ざっぱでよいから、しっかりした知識を持っておくことが必要である。
	『生活科と哲学』 学習指導要領における生活科の教科目標には、「身近な生活に関わる見方・考え
	方を生かし」や「生活を豊かにしていく」という記述が出てくる。 豊かな生活や幸せな生活をめざして
4	生きる資質や能力の育成が目標とするならば、そこには、生き方に対する考え方・哲学が必要とな
	ってくる。ある一人の女性の生活風景から、"生活を豊かにしていくとは"、"自立するとは"どういうこ
	となのかを考察する。
	『絵本を読む』生活科指導法のある受講生の感想に「生活科で絵本を読むにあたって、今日の授
	業で話し合っていて、季節に関係あるものや、動物・植物がテーマの絵本を読むべきなのかなと思
5	った。しかし、生活科は、子どもたちの生活を豊かにしていくためのもので、日常が少しでも楽しかっ
	たり嬉しかったり、友だちや家族を大切に思いやる気持ちを持つことが、充実した生活の根っこでは
	ないかと感じた。」という文章があった。生活科の中での読み聞かせについて考える。
	『むかしの遊び』子どもと遊びについて考える。「子どもにとっては、遊びが勉強である。」とは昔か
6	ら言われてきた言葉である。現代の子どもの課題を考えながら、遊びが子どもの生活の中にある意
	味・意義について考察する。
	『モノを作る』生活の中で、必要なものは自分でつくる。「モノを作る」という力や技術は、何でも買え
	る時代ではあるが、これまでの日本の歴史を考えてみると、「モノを作ることが好きで、モノづくりに
7	長じる」ことで生活を豊かにし、また、産業を支える力にもなってきた。生活科の授業において、体験
	を重視することともつながるところがある。生活科の中で「モノを作る」学習の意味・意義について、
	学生諸子も体験する中で考えてもらいたい。
8	『蚕を飼う』の実践記録から、生き物の飼育と生活科の授業づくりについて研究・協議する。 生活科
	の中で生き物を飼育することの目的、教育的意義について考察する。
	『生活科の目標』 教科書としている「学習指導要領解説生活科編」から、生活科の目標について講
9	義する。他の教科等との違いを明らかにするとともに、目標の中の「身近な人々、社会の特徴やよ
	さに気付く」とはどういうことなのか。具体的な活動を想像しながら、その意味を考察する。
	『子ども理解の方法』 子どもは多面性を持つ。そして、「今日の A くんは、昨日の A くんではない」。
10	生活科は、そんな子どもたちを対象にして単元を設定し、学習活動を創造していく。目の前の児童
	の心身の発達状況に即した学習活動が設定されることが求められている。つまり、単元設定は"子
	ども理解"の上に立っているのである。講座では、その方法について講義する。
	『季節と行事』 日本の伝統的な生活や季節の行事について考える。人間の生活の在り様は、先人
11	が歩み築いてきた文化の在り様と密接に関連する。『季節と行事』の中には、取り巻く自然を見つ
	JL J

	め、自然とどう付き合ってきたのか。地域のひとびととどのように生活を作ってきたのかが表れて
	る。生活科の中で、どのようにしてその季節感や生活感覚を伝えていくのか、研究・協議する。
	『町を歩く』小学校の生活科では、自分の学校を知ったり、また、自分の住む町を調べたりする。そ
	ういった活動の中で、自分の町を知り、自分の町に愛着が生まれていくように学習を組み立ててい
12	る。学生諸子にも、自分が今住む所、生まれ故郷について見直してもらいたい。そこにどんな魅力
	があるのか。そこから私たちは何を受け取ってきたのか。子どもたちの町歩きの前に、自分の町歩
	きをしてもらいたいと考えている。
	『すくすく子育て』子どもは、家庭の中で、地域生活の中で、その成長にとって大切なものの多くを
13	受け取って成長してくる。ここで考えるのは、子どもの成長にとって、親や身近な者が果たすべき役
13	割である。特に、小学校における生活科の内容と深く関係する「言葉の獲得」と「思いやる心の育
	ち」について考察する。
	『子ども達にさせたい体験活動』の発表と交流。 グループごとに『私が子どもにさせたい体験活動』
14	について発表する。発表後に意見交流を行い、よりよい体験活動の創造に向けての協議を行い、
	授業づくりに対する認識を深める。
15	まとめと期末テスト。

科目名	生活科指導法	年次	0	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					

受講した学生の感想文に、「生活科の授業では、子どもたちが"楽しい"と思って活動することが大切で、その楽しさを共有し合うことで感性が豊かになる。生活科は、子ども自身の生活を豊かにしていくことが根本ではないかと感じる。」というのがあった。講座の目標は、生活科の豊かな授業づくりである。生活科における単元の設定ができ、学習指導案が作成できる力の獲得を目指す。

# 授業概要

本講座の講義は、対面式授業を基本として行う。|生活科の創設時を知るとともに、生活科に求められる教科目標についての理解を図る。様々な資料や実際の授業づくり体験を通して、子どもたちが喜ぶ、そして自立につながる学習活動の創造に向けて学びを深める。また、指導案の作成や模擬授業を課す。

### 受講上の注意

生活科の授業づくりには、子ども理解と自由で豊かな教員の発想が大切になってくる。日常から、教育に携わることをめざすものとして、現代の子どもたちにどんな体験が必要と考えるか。自らの興味関心のアンテナを高めてもらいたい。|受講にあたっては、筆記用具・ノート・ファイル(配布資料をはさむ)が必要である。

成績評価方法・基準					
	種別		割合(%)		
小レポート			20		
日常の感想	文		20		
期末テスト			60		
	教科	書情報			
教科書1	小学校学習指導要領解説 生活編				
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	シリーズ授業⑥ 生活 実践の批評と創造				
出版社名	岩波書店	著者名			
参考書名2	『子どもが育つ道すじ』				
出版社名	朱鷺書房	著者名	服部祥子		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
	参表	考 URL			
	特	記事項			
	教員5	実務経験			
小学校教	員·教育委員会指導主事				
	授業計画	[(各回予定	)		
授業回		授業内容	Ŗ.		
1	はじめに。講座ガイダンスと講座目標について。				
2	『生活科の誕生』 生活科は、1992 年 4 月から本格実施された。岩波書店刊の『シリーズ授業・生活科』においては、1989 年の長野県の小学校での先行的な実践が紹介されている。本の副題に「実践の批評と創造」と記されているが、1 年生の『紙を作る』授業が紹介され、各分野からの参加者が、授業批評と創造的な発言が記されている。本書を参考にしながら、生活科の授業づくりのあり方について研究協議する。				
3	·	くりにおいて	生活科』(岩波書店刊)を参照しながら、生は、体験を通した学びが重視されている。学D意義への理解を深めたい。		

4	『生活科の問題点』副教材として示した『シリーズ授業・生活』(岩波書店)を読み、生活科の問題点について考察する。特に、「自分との関わり」とは何か。生活科授業における「教師の役割・支援」とは何かについて考えたい。					
	<u> </u>					
	『生活科の目標』  教科書としている「小学校学習指導要領解説 生活編」から、生活科の目標につ					
5	いて講義する。特に、生活科の示す"自立"とは何か。"生活を豊かにする"とは何か。指導要領をめく					
	りながら、「生活科の目標」についての理解をはかりたい。					
	『生活科の授業づくりについて』本講座の目標は、『生活科の授業づくり』ができる能力と態度の育					
6	成である。第 13 講、第 14 講では、学生諸子が作成した学習指導案をもとに、発表と交流、研究協					
	議を予定している。授業づくりにおいて何が必要かを講義する。					
	『子ども理解』「子どもの精神発達課題と生活科の関係について学ぶ。子どもの精神発達には段階					
	  があり、それぞれにおいて乗り越えるべき課題があることを理解する。『子どもが育つみちすじ』(服					
7	  部祥子著)を参照しながら、子どもが育つ道すじについての理解を深め、生活科の授業づくりにつ					
	いての考察に生かしていく。					
	『実践記録を見る』 東京・和光小学校の実践記録から、小学校2年生の授業づくりについて考え					
8	る。生活科の授業づくりにはどんな要素や留意点が必要なのか。また、何を目標として設定していく					
	のかを、実践事例を参照しながら理解を深めたい。また、授業を見る視点についても講義する。					
	『学習指導案を書く  生活科の学習は、体験活動が多く取り入れられている。この時、学習が実りあ					
	るものになるためには、活動の目標や手段が授業者や児童によく理解されていることが重要であ					
9	る。なによりも、授業者がしっかりとした教材観を持っていることが求められる。講義内で活動例を					
	提示し、その目標や教材観を研究協議する。また、授業案の書き方についても学生諸子の理解を					
	深める。					
	『生活科の授業づくり』に向けて(1) 様々な実践的事例(伝承遊び・季節の行事・生き物の飼育					
10	等々)について、映像や実地体験等を通して、生活科の授業づくりにおいて大切にしなければなら					
10	ない要素について学習する。また、学習を通して、『単元設定』に向けての考察も深めていってもら					
	いたい。					
	『生活科の授業づくり』に向けて(2) 様々な実践的事例(植物の栽培・遊びの創造・町たんけん					
11	  等々)について、映像や実地体験等を通して、生活科の授業づくりにおいて大切にしなければなら					
	  ない要素について学習する。また、学習を通して、学習指導案作成に向けての理解も深めていく。					
	    生活科における評価について講義する。 学習指導要領における「学習評価の在り方」や、講義資					
12	生活性における計画に しい で講義する。  子首指導安領における「子首計画の任め方」や、講義員   料として配布した『シリーズ授業・生活科』、『子どもが育つみちすじ』等を参照しながら、生活科にお					
12	神として配布した』シリース投業・生活料』、『子ともが育りからすし』寺を参照しながら、生活料にあ   ける評価の在り方について講義する。					
13	『模擬授業』を行う。(1) 個人またはグループで作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。発					
	表された活動について研究協議し、より有効な、子どもたちが楽しんで行う活動にする方法につい					
	て、意見を交流する。					

	『模擬授業』を行う。(2) 個人またはグループで作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。発
14	表された活動について研究協議し、より有効な、子どもたちが楽しんで行う活動にする方法につい
	て、意見を交流する。
15	まとめと期末テスト

科目名	生徒指導と進路指導論(初等)	年次	2 単位数 2				
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義				
教員名	平良 伸哉						
クラス名	【19以降生対象】						
	授業目的と到達目標						
授業目的:児童		できる大人へ	へと育つよう、教員としてどのような働	きかけを			
行えば良いのか	か理解することを目的とする。 到達目標:	学級担任と	こして、日々の生徒指導やキャリア教	育を推進			
するための基礎	<b>巻的な資質・能力を養うことを目標とする。</b>	<u> </u>					
	授詞	業概要					
	ま指導、キャリア教育に係る諸課題につい		1	教諭、管			
理職、行政職の	り経験をもとに、知識だけでなく実践的な 	内容となる。	よう心掛けたい。				
	受講_	上の注意					
教育に関する記	者問題について日頃から関心を持って情	報を収集し、	、自分なりの考えをもったり、疑問に	思ったり			
することを整理	しておくこと。						
	成績評値	ffi方法·基準	<u> </u>				
	種別		割合(%)				
毎時間実施す	る振り返り		100				
			30				
	教科 ————————————————————————————————————	書情報					
教科書1							
出版社名		著者名					
教科書2							
出版社名		著者名					
教科書3							
出版社名		著者名					
	参考書情報						

参考書名1	生徒指導提要			
出版社名	教育図書 文部科学省			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
	参考 URL			
特記事項				
教員実務経験				
実務経験:小学校教諭、小学校管理職、教育相談室長、教育委員会事務局職員				
授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容			
1	イントロダクション ブラック校則と呼ばれるものについてデイスカッションし、校則は何のためにあるのかを再考する。			
2	不登校 不登校問題の現状を知り、不登校児童・生徒への対応の仕方について考える。			
3	いじめ・けんか・ふざけ いじめ問題の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。			
4	問題行動・非行等 問題行動の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。			
5	薬物乱用 薬物乱用の現状について知り、学級担任としての対応の仕方について考える。			
6	虐待・家庭内暴力 虐待や家庭内暴力の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。			
7	外国にルーツを持つ子どもたち 日本にいる外国ルーツの子どもたちの現状を知り、学級担任としての対応の仕方を考える。			
8	教育相談 教育相談の意義と学校教育相談の特質について学ぶ。			

9	携帯電話の取り扱いとネット問題 携帯電話や SNS 上のトラブルの現状について知り、学級担任としての対応の仕方を考える。
10	性的マイノリティーについて 性的マイノリティーの現状と学校で配慮すべき事柄を文部科学省の通知等をもとに学ぶ。
11	障がい・発達障がいと合理的配慮 すべての子どもたちが快適な学校生活を送ることができるよう にするために、学校でできることを考える。
12	「カウンセリング」と「カウンセリングマインド」 学校教育相談を行うにあたって知っておくべき「カウンセリング」の基礎知識や技能について学ぶ。
13	キャリア教育と進路指導① キャリア教育と進路指導との関係を整理し、小学校におけるキャリア教育のあり方について考える。
14	懲戒と体罰 生徒指導に関する法制度について、懲戒と体罰を中心に学ぶ。
15	守秘義務と説明責任 生徒指導に関する法制度について、守秘義務と説明責任を中心に学ぶ。

科目名	総合的な学習の時間の指導法(初等)	年次	[4 ]	単位数	<b> 1</b>
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	前川 憲正				
クラス名					

本授業では、横断的・総合的な学習を通じて、探究的な見方・考え方を身に付けるという「総合的な学習の時間」の特質を理解するとともに、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活から課題を見付け、探究する学びを実現するための、探究的な学習指導の在り方や指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識と技能を身に付ける。

# 授業概要

対面授業|授業形態はペアやグループによる小集団学習を中心にしていと考えている。その中で、学生自らが、 主体的で対話的な学びを経験する中で、総合的な学習の時間の意義や探究的な学習の意味、各学校で目標や 内容を定め、特色ある指導計画や単元計画を作成することの重要性を理解させたい。

#### 受講上の注意

・受講にあたり小学校学習指導要領解説【総合的な学習の時間編】を熟読する|・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする

# 成績評価方法 基準 種別 割合(%) 授業に取り組む姿勢 30 実践演習・レポートの内容 30 最終試験 40 教科書情報 教科書1 ||小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説【総合的な学習の時間編】 出版社名 東洋館出版社 著者名 文部科学省 教科書2 著者名 出版社名 教科書3

出版社名		著者名			
参考書名1	書名1 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)				
出版社名	株式会社アイリス	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
小学校学習指導要領解説【総合的な学習の時間編】https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_013_1.pdf 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20210729-mxt_kouhou02_1.pdf					
特記事項					
	教員実務経験				
授業計画(各回予定)					
授業回		授業内容	Į		
1	対面授業 「総合的な学習の時間の意義」」・自らの経験を振り返るとともに、総合的な学習の時間の教育的意義をつかむ				
2	対面授業 「総合的な学習の時間の目標とその内容」・総合的な学習の時間の目標と育成をめざす資質・能力について理解する				
3	対面授業 「総合的な学習の時間の学習指導の在り方」 ・総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方や探究的な学習について理解する				

	,
4	対面授業「探究的な学習について実践事例に学ぶ①」 ・探究的な学習における学習過程の概要とその内容について理解する
5	対面授業「探究的な学習について実践事例に学ぶ②」・探究学習のプロセス【①課題の設定】について理解する。
6	対面授業 「探究的な学習について実践事例に学ぶ③」 ・探究学習のプロセス【②情報の収集】に ついて理解する。
7	対面授業 「探究的な学習について実践事例に学ぶ④」 ・探究学習のプロセス【③整理・分析】について理解する。
8	対面授業 「探究的な学習について実践事例に学ぶ⑤」 ・探究学習のプロセス【④まとめ・表現】に ついて理解する。
9	対面授業「探究的な学習における主体的・対話的で深い学びは?」 ・探究的な見方・考え方や探究的な学習過程での「主体的・対話的で深い学び」について理解する
10	対面授業 「全体計画と年間指導計画・単元計画の作成」」・全体計画と年間指導計画の構成要素や単元計画作成の基本的な考え方・手順について理解する
11	対面授業 「実際の学校における実践事例に学ぶ①」」・実際の学校における実践事例に学ぶとともに、これらを踏まえて学習指導案を作成する
12	対面授業 「実際の学校における実践事例に学ぶ②」」・実際の学校における実践事例に学ぶとともに、これらを踏まえて学習指導案を作成する
13	対面授業 「実際の授業の進め方と指導のポイント①」 ・作成した指導案をもとに、探究的な学習を 重視した指導についてグループ協議をする
14	対面授業 「実際の授業の進め方と指導のポイント②」 ・作成した指導案をもとに、探究的な学習を 重視した指導についてグループ協議をする
15	対面授業 「授業のまとめと振り返り(含 定期試験)」 ・授業全体を通した振り返りを行い、理解を深める

科目名	体育	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	佐藤 利一				
クラス名					
	授業目的	と到達目標	Į		
体育の目標。	体育の目標、意義を理解し、社会の良きリーダーと成る為に、頭脳の理解 だけではなく、実行でき得る能力(体				
力・精神力)。	と実践力が必要であ る。その為には、積極	的な行動と	使命感を身に付け	けなければな	<b>ぶらない。</b>
	授	業概要			
【対面授業】	理論編と実践編を組み合わせ、基本的な質	学習指導の記	<b>進め方、指導上σ</b>	エ夫や 留	■ 意点に触れ、体
育授業実践に	こ役立つものとなるように計画していく。				
	受講.	上の注意			
理解を深め。	ようとする努力を精一杯すること。 欠席、遅	刻をしないよ	うに心掛ける。		
	成績評価	<b>ਜ਼</b> 方法・基準			
	種別			割合(%)	
定期試験			30		
意見交換			20		
意欲			50		
	教科	書情報			
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	適宜、教員作成のプリントなど				

出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
	参え	号 URL			
	特	記事項			
	教員9	実務経験			
	授業計画(各回予定)				
授業回		授業内容	Į.		
1	体育の目標とあり方				
2	「体力」について				
3	「体力」について タ様な動きをつくる運動				
	,				
3	多様な動きをつくる運動				
3	多様な動きをつくる運動 体ほぐしの運動				
3 4 5	多様な動きをつくる運動 体ほぐしの運動 体力を高める運動				
3 4 5 6	多様な動きをつくる運動         体ほぐしの運動         体力を高める運動         ボール運動				
3 4 5 6	多様な動きをつくる運動       体ほぐしの運動       体力を高める運動       ボール運動       バルーン運動				
3 4 5 6 7 8	多様な動きをつくる運動       体ほぐしの運動       体力を高める運動       ボール運動       バルーン運動       陸上運動				
3 4 5 6 7 8	多様な動きをつくる運動         体ほぐしの運動         体力を高める運動         ボール運動         バルーン運動         陸上運動         フープ運動				
3 4 5 6 7 8 9	多様な動きをつくる運動         体ほぐしの運動         体力を高める運動         ボール運動         バルーン運動         陸上運動         プープ運動         ゴール型ゲーム				

14	体育の社会的役割
15	まとめ

科目名	体育科指導法	年次	2	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	前川 憲正			
クラス名				

教科書のない小学校体育においては、時に「児童に何を教えたらいいの?」という学校現場の声が聞かれる。|本授業では、生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現のために、児童の主体的・|対話的で深い学びを通して、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」|を総合的に育成する体育科の実践的な指導力の向上を図りたいと考える。

# 授業概要

対面授業|授業形態は、対面で可能な限りペアやグループによる小集団学習を中心にしたいと考えている。|その中で、幼児期及び学童期の心身の発達的特性を理解するとともに、近年の子どもたちの体力・運動能力の|傾向を知り、体力・運動能力や運動に親しむ態度の育成と健康の保持増進を目標においた運動領域・保健領域|の授業展開と、指導と一体化した計画的な評価の在り方について追究していきたい。

#### 受講上の注意

・受講にあたり小学校学習指導要領解説【体育編】を熟読する|・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする|・模擬授業演習には、運動に適した服装、体育館シューズ等の準備をして参加する(事前に連絡する)

成績評価方法・基準				
	種別		割合(%)	
授業に取り	授業に取り組む姿勢		30	
実践演習・レ	実践演習・レポートの内容		30	
最終試験	最終試験		40	
	教科書情報			
教科書1	小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解	説【体育編】		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省	
教科書2	教科書2			
出版社名		著者名		

教科書3					
出版社名	著者名				
	参考書情報				
参考書名1	授業の中で適宜指示する				
出版社名	著者名				
参考書名2					
出版社名	著者名				
参考書名3					
出版社名	著者名				
参考書名4					
出版社名	著者名				
参考書名5					
出版社名	著者名				
	参考 URL				
小学校学習指導要領解説【体育編】,http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/i					
csFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_010.pdf まるわかりハンドブック【文部科学省】,https://www.mext.go.jp					
/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm					
特記事項					
教員実務経験					
教員が小学	学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育指導員としての指導経験を活かし、実践的な指				
導法につい	導法について学生に修得させる。				
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	対面授業「体育学習の教育的意義は?」・自らの経験の振り返り、体育の教育的意義をつかむ				
2	対面授業 「体育科の目標とその内容」 ・教育的意義の変遷を踏まえ、体育科の今日的課題と方向性を探る				
3	対面授業 「子どもにとって楽しい体育とは?」 ・各運動領域における機能的特性と運動の楽しさについて理解する				

4	対面授業 「体育科における主体的・対話的で深い学びは?」 ・運動量の確保と対話的な学び、児童の主体性と教師の指導性について
5	対面授業 「体つくり運動系領域・集団行動に関する指導」」・教材研究と実際の指導・評価について 理解する
6	対面授業【アリーナ】「模擬授業演習①」(体つくり運動系) ・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
7	対面授業 「器械運動系・陸上運動系領域に関する指導」 ・教材研究と実際の指導・評価について 理解する
8	対面授業【アリーナ】 「模擬授業演習②」(器械・陸上運動系) ・グループワークによる模擬授業と 指導上の留意点
9	対面授業 「ボール運動系・表現運動系領域に関する指導」」・教材研究と実際の指導・評価について理解する
10	対面授業【アリーナ】「模擬授業演習③」(ボール・表現運動系) ・グループワークによる模擬授業 と指導上の留意点
11	対面授業 「水泳運動系領域と保健領域に関する指導」 ・教材研究と実際の指導・評価について理解する
12	対面授業 「年間指導計画と1単位時間の指導の関連①」(運動領域) ・年間指導計画(単元計画) 及び評価規準を踏まえた学習指導案の作成
13	対面授業)「年間指導計画と1単位時間の指導の関連②」(保健領域) ·年間指導計画(単元計画) 及び評価規準を踏まえた学習指導案の作成
14	対面授業 「模擬授業演習④」(保健領域) ・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
15	対面授業 「授業のまとめと振り返り」 ・授業全体を通した振り返りにより理解を深める

科目名	道徳指導法(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名	22059 道徳指導法(初等)				

「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35 分の 1 の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。

# 授業概要

対面授業|「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について 学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身 に付ける。

# 受講上の注意

授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・ 国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。

### 成績評価方法·基準

	種別		割合(%)		
試験一回目	試験一回目		30		
試験二回目			40 ]		
各授業の感	想文		30		
	教科	書情報			
教科書1	小学校学習指導要領解説 特別の教科 追	<b>道徳編</b>			
出版社名	文部科学省	著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			

著者名

教科書3

出版社名

参考書情報				
参考書名1				
出版社名	著者名			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
	参考 URL			
	特記事項			
	教員実務経験			
	員、管理職等として 40 年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳あり方について、習得させる。			
	授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容			
1	「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・ 1 道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性ついて 議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。			
2	「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。			
3	「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、 道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。			
4	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、 道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的イメージを持つ。			

5	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の 興味関心(現代的課題)を生かして児童が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の 興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤  ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥  ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。  ・教材研究を行う。
11	「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。
12	「模擬授業に挑戦しよう。」③ ・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
13	「模擬授業に挑戦しよう。」④  ・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。
14	「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうしで、模擬授業を行う。
15	模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	特別活動指導法(初等)	年次	<b>o</b> ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義	
教員名	前川 憲正			
クラス名				

学校における望ましい集団活動や体験活動を通して、児童の人間形成を図ることを特質とする特別活動とりわけ学級活動は、小学校教育全体にわたる基本的な活動と言っても過言ではない。その特別活動の教育的意義や指導原理を深く理解するとともに、実践事例や模擬授業等を通して「子どもの望ましい人間関係づくりへの支援こそが、すべての学習に共通する根本理念である」ということを体得させたいと考える。

# 授業概要

対面授業|授業の形態は、学校現場での喫緊の課題に密着した「グループワーク」や「ケーススタディ」を中心として考えている。新学習指導要領の方向性を視野に入れ、「いじめ」「不登校」といった今日的な教育課題や特別活動を指導する教師に求められる資質など、「学校・学級生活の場で生きて働き、子どもの成長に寄与できる特別活動の指導のあり方」について講師と学生との主体的・対話的な授業を通して追究していきたい。

#### 受講上の注意

・受講にあたり小学校学習指導要領解説【特別活動編】を熟読する|・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする

成績評価方法・基準					
種別		割合(%)			
授業に取り	組む姿勢		30		
実践演習・レ	パートの内容		30		
最終試験	最終試験		40		
教科書1	小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解	説【特別活動	動編】		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜指示する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
	参表	考 URL			
l/icsFiles			component/a_menu/education/micro_detai 尊資料【小学校編】 https://www.nier.go.jp/k		
	特	記事項			
	教員:	実務経験			
L Company	学校教諭·教頭·校長、並びに教育研究会会 て学生に修得させる。	<b>、</b> 教育指	導員としての指導経験を活かし、実践的な指		
授業計画(各回予定)					
授業回	授業回				
1	対面授業 「特別活動の教育的意義」・オリエンテーリング(自らの経験の振り返り、特別活動の概略をつかむ)				
2	対面授業 「特別活動の歴史と今日的課題」 ・戦前・戦後の歴史的経緯を踏まえ、現在の特別活動の意義を問い直す				
3	対面授業 「特別活動の改訂のポイント」」	·特別活動 <i>0</i>	)改訂のポイントとその内容について理解す		

4	対面授業 「学級活動に関すること①」 ・児童の日々の成長を支え学級の規範や文化を生み出す学級活動
5	対面授業「学級活動に関すること②」 ・現在及び将来の自分を見つめ、なりたい自分に向けて努力する学級活動
6	対面授業 「児童会活動に関すること」」・全校児童や異年齢集団の児童会で学校生活を楽しく豊かにする児童会活動
7	対面授業 「クラブ活動に関すること」」・同好の異年齢集団で学校生活を楽しく豊かにするクラブ活動
8	対面授業 「学校行事に関すること」 ・学校生活を豊かにし、身に付けた力を総合的に発揮する学校行事
9	対面授業 「特別活動と他の教育活動との関連①」」・特別活動と各教科、生徒指導との関連とちがいについて理解する
10	対面授業 「特別活動と他の教育活動との関連②」・特別活動と道徳、総合的な学習との関連とちがいについて理解する
11	対面授業 「特別活動の実践演習①」 ·学級活動の年間活動計画と指導案例をもとに各自で指導案を作成する
12	対面授業 「特別活動の実践演習②」 ・作成した指導案に従ってグループごとに模擬学級会を行う (議題①)
13	対面授業 「特別活動の実践演習③」・作成した指導案に従ってグループごとに模擬学級会を行う (議題②)
14	対面授業 「特別活動の実践演習④」 ・児童の意欲を高める学級開き・学級目標づくりを実践的手 法で理解する
15	対面授業 「授業のまとめと振り返り(含 定期試験)」 ・授業全体を通した振り返りと理解度を探る

科目名	特別支援教育理論(初等)	年次	2	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	田中 裕美子			
クラス名	【19以降生対象】			

通常級に在籍する発達障害をはじめとするさまざまな障害の背景や特性、乳幼児期から学童・青年期にわたる 障害様相を発達的視点から理解し、特別支援教育の基礎知識を学ぶ。障害により、または診 断はされてはい ないが、特別支援を必要とするあるいは気になる子どもの教育的ニーズに気づけるようになる。それぞれの教育 的ニー ズに対する教師の役割や適切|な合理的配慮・支援、保護者や関係機関との連携などを考えることができる。

# 授業概要

発達障害を中心に様々な障害の特性や、集団内および個別の支援教 育の制度や基本理念について概説する。診断されていないが教育的 ニーズのある子どもを含め、通常級の事例などを通して各児の特 性、発達、長所・短所を捉え、実際にはどのような困り感を抱えて いるかについて述べる。また、学習上または生活上の困難に応じた 合理的配慮や対応・支援の方法をどのようになものがあるかなどに ついても解説する

#### 受講上の注意

毎回、授業内容に関する資料を配布する。視聴覚教材を用いた講義を参考に各自で配布された資料を完成させ、ファイルに整理し、授業に持参する。授業の最後にリアクションペーパー(キーセンテンス:最も重要だと思ったことを文にする。質問がある場合は記述する)を仕上げて提出する。

成績評価方法 基準

# 

# 授業への取り組み 10 教科書情報 数科書1 出版社名 著者名 教科書2

出版社名	著者名			
教科書3				
出版社名	著者名			
	参考書情報			
参考書名1	はじめての特別支援教育ー教職を目指す大学生のために 改訂版			
出版社名	有斐閣アルマ 著者名   著者名 (編)			
参考書名2	インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門			
出版社名	萌文書林 大塚 玲編著			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
参考 URL				
	特記事項			
	教員実務経験			
	授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容			
1	障害とは:impairment, disability, handicap の3つのレベル			
2	特別支援教育とは:特別支援教育の制度や基本理念、教員に求められる役割や技能			
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)の理解と支援 1:基本的特性			
4	自閉症スペクトラム障害(ASD)の理解と支援 2:発達に伴って認められる特性			
5	自閉症スペクトラム障害(ASD)の理解と支援 3:アスペルガー症候群			
6	注意欠如・多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 1:三つの特性			
7	注意欠如・多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 2:特性の理解に基づく支援法			

8	中間総括:特別支援教育や発達障害の基本知識の復習
9	子どものアセスメント:支援につながる子どもの評価
10	子どもの言語の問題とは:コミュニケーション言語と学習言語
11	(限局性)学習障害(SLD)の理解と指導・支援: 音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題
12	知的障害の理解と指導・支援:情報処理理論からみた評価と支援法
13	身体障害・聴覚障害・視覚障害の理解と指導・支援
14	保護者、専門機関、地域との連携および進学や就労の支援
15	全体総括・授業内定期試験

科目名	保育内容(環境)	年次	2	単位数	1
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【19以降生対象】				
	授業目的	りと到達目標	Ī.		
幼児は自分の		  身の遊びの	中に取り入れ、	遊ぶ中で幼	児期に体験しな
ければならな	いことを体得する。環境と の出会わせ方々	ゆ幼児にふる	さわしい環境につ	いて学習し	ていきたい。
	授:	業概要			
対面授業 幼	児にとり、どのような環境が大切なのか、遠	遊びの実際だ	いら、環境のあり	方について	習得させていき
たい。					
	受講.	上の注意			
学生自身が	身の周りの自然に関心をもち、季節の変化	などに気付	けるよう になりま	しょう。五感	を磨きましょう。
	成績評価	西方法・基準			
	種別			割合(%)	
試験により評	価します		80		
平常点及びし	ノポート提出		20		
	教科	書情報			
教科書1	保育内容「環境」新版				
出版社名	北小路書房	著者名	小田豊 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	参考書名1 幼稚園教育要領				

出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省	
参考書名2				
出版社名		著者名		
参考書名3				
出版社名		著者名		
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
参考 URL				
特記事項				
教員実務経験				
担当者は、	幼稚園教員免許(1種)長年の現場経験あ	IJ		
授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容			
1	明治時代からの保育環境の歴史 ・園舎環境の変容と自然環境 ・園外保育の始り ・園庭の遊具設置の広がり			
2	子どもにとっての「環境」 ・日常と保育で使われる環境の意味の違い ・子どもにとっての身近な環境とは			
3	実際の保育環境を作ってみよう・夏野菜を植え、世話をする			
4	好奇心・探究心を育てる①一子どもの気持ち ・子どもの心の動きを見て取る ・子どもと響きあい伝えあうために			
5	好奇心・探究心を育てる② 一保育者の働きかけ ・子どもの「なぜだろう」に寄り添うことについて ・ 事例から、学びの土台や幼児理解について考える ・応答的環境について			
6	思考力の芽生えと環境との関わりからの学び ・そのものの理解 ・仕組みや法則性の理解 ・予測や見通し ・数量の体験			
7	屋内、屋外の魅力ある環境をデザインする ・保育環境をデザインする ・子どもの生活を豊かにする環境を考える			

園具・遊具・素材の環境デザインの基本 ・物的環境とは ・それぞれの目的や機能を理解する ・独	
楽というツールで遊んでみよう	
自分を取り巻く社会の文化にふれる ・社会の文化や伝統行事にふれる	
自然事象への関心を高めるためには ・四季の変化を保育に取り入れる	
身近な環境・植物に親しむ ・育てた野菜の収穫をする ・見通しを持って植物環境を作る一実践事例	
より考える一	
命を感じる環境とは ・具体的な事例より	
自然や身近な動植物とかかわる保育と領域「環境」の内容  ・保育者の役割と見識について	
教育要領から、保育内容「環境」について ・ねらいと内容について ・子どもの育ち(10の姿)	
保育内容「環境」についてのまとめ 試験を実施	

科目名	保育内容(健康)	年次	2	単位数	1
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	寺田 恭子				
クラス名					

幼稚園教育要領に基づき、子どもの健康な心と体を育て、「子ども自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。運動あそびや食育、生活リズム、睡眠、基本的生活習慣など、子どもの健康課題をふまえ、具体的な保育場面の中で、どのように子ども自身が健康で安全な生活を営む力を形成していくのか、指導方法を学習し、身に付ける。

# 授業概要

対面授業|幼児の現在の生活における健康課題を学生たちの問題意識から焦点化し、子どものより健康で安全な生活を目指すために、「子どもの育ってほしい姿」を明確化する。具体的な保育場面、指導場面、実践事例を提示しながら、子どもの心身の発達と道すじ、育みたい資質・能力を理解する。模擬保育を通して、保育者としての視点を身に付ける。

#### 受講上の注意

保育内容「健康」は、自分自身の健康と深くかかわっている。自分の生活を振り返るところからスタートをし、新聞やテレビ、webなどでの情報に関心をもつこと、また子どもたちが保育の中で「健康」課題を獲得するためにどのように関わったらいいのか、について考察を深めて欲しい。

# 成績評価方法•基準 種別 割合(%) 授業の参加度 20 授業ノート 20 報告書 10 課題の作成、報告書、発表 50 教科書情報 教科書1 保育内容・健康 高橋弥生•臼井達矢編著 出版社名 青鞜社 著者名 教科書2

出版社名	著者名				
教科書3					
出版社名	著者名				
参考書名1	幼稚園教育要領(最新版)文部科学省				
出版社名	著者名				
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省				
出版社名	著者名				
参考書名3					
出版社名	著者名				
参考書名4					
出版社名	著者名				
参考書名5					
出版社名	著者名				
参考 URL					
	特記事項				
教員実務経験					
高校家庭科教員 保育所、認定こども園、幼稚園における親支援講師、阿倍野区食育アドバイザー					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	保育内容「健康」領域のねらいと内容 ・本授業のガイダンス ・幼稚園教育要領が示す「健康」につ				
	いて、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。				
2	子どもの健康な育ちを支えるために ① ・子どもの健康課題とその背景について テキスト や視聴覚教材を用いて理解する。				
3	子どもの健康な育ちを支えるために ② ・子どもの健康課題とその背景について テキスト				
	や視聴覚教材、グループワークを通して明らかにし、「子どもの育って欲しい姿」を理解する。				

4 子どもの運動能力の発達 ・人の身体発達・運動発達の方向性と臨界期を理解した上で、保育場面の遊びについて理解を深める。   5 子どもの心の発達  ・子どもの心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性と保育者の役割を理解する。(視聴覚教材活用)   6 子どもが育つ生活習慣の形成 ① ・生活リズム、睡眠、基本的生活習慣の獲得と発達について理解する。 ・食の重要性を理解し、共食と脳の発達の関係を知る。   7 子どもが育つ生活習慣の形成 ② ・子どもの食の問題と背景について理解する。 ・食の重要性を理解し、共食と脳の発達の関係を知る。   8 安全教育と安全意識 ・子どもの事故と怪我の実態と課題 ・安全意識を遊びの中で育む ・計画的な指導によって安全意識を高める    7 子どもの食に関する教材づくり ① ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める   10 子どもの食に関する教材づくり ② ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める   11 子どもの食に関する教材づくり ③ ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める    12 子どもの食に関する教材づくり ③ ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める    13 子どもの食に関する教材づくり ③ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のパランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る    14 子どもの食に関する教材づくり ⑥ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のパランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る    「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互評価  ・家庭との連携と本授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互評価  ・家庭との連携と本授業のまとめ ・「お土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互評価  ・家庭との連携と表見では、またまして、またままたまして、またまして、またまして、またまして、またまして、またまして、またまたまして、またまたまして、またまして、またまして、またまして、またません。		
子どもの心の発達  ・子どもの心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性と保育者の   役割を理解する。(視聴覚教材活用)	4	
日本の食に関する教材づくり ② ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る   ・栄養面における知識を身につけ、子どもの食を達不の食生活の関連を深める   ・		の遊びについて理解を深める。
役割を理解する。(視聴覚教材活用)	5	子どもの心の発達  ・子どもの心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性と保育者の
6   解する。		役割を理解する。(視聴覚教材活用)
解する。	6	子どもが育つ生活習慣の形成 ① ・生活リズム、睡眠、基本的生活習慣の獲得と発達について理
7		解する。
理解し、共食と脳の発達の関係を知る。  安全教育と安全意識 ・子どもの事故と怪我の実態と課題 ・安全意識を遊びの中で育む ・計画的な指導によって安全意識を高める	7	子どもが育つ生活習慣の形成 ② ・子どもの食の問題と背景について理解する。 ・食の重要性を
8 指導によって安全意識を高める		理解し、共食と脳の発達の関係を知る。
指導によって安全意識を高める	8	安全教育と安全意識 ・子どもの事故と怪我の実態と課題 ・安全意識を遊びの中で育む ・計画的な
9 栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める   10 子どもの食に関する教材づくり ② ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める   11 子どもの食に関する教材づくり ③ ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める   12 子どもの食に関する教材づくり ④ ・子どもの「ちぎる「丸める」「叩く」などを活用した調理実習   13 子どもの食に関する教材づくり ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る   14 子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る   15 「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」」の作品発表と相互		指導によって安全意識を高める
栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める     子どもの食に関する教材づくり ② ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る   ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める      子どもの食に関する教材づくり ③ ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る   ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める      子どもの食に関する教材づくり ④ ・子どもの「ちぎる「丸める」「叩く」などを活用した調理実習      子どもの食に関する教材づくり ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る      子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る      「保育内容・健康」における授業のまとめ」・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互	0	子どもの食に関する教材づくり ① ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る ・
10	9	栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める
・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める     子どもの食に関する教材づくり ③ ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る  ・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める      子どもの食に関する教材づくり ④ ・子どもの「ちぎる「丸める」「叩く」などを活用した調理実習      子どもの食に関する教材づくり ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る      子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る      「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互		子どもの食に関する教材づくり ② ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る
・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める	10	・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める
・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める   12   子どもの食に関する教材づくり ④ ・子どもの「ちぎる「丸める」「叩く」などを活用した調理実習   子どもの食に関する教材づくり ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る   子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る   「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互	-1-1	子どもの食に関する教材づくり ③ ・パワーポイントを活用し、子どもにとって必要な食生活を知る
3   子どもの食に関する教材づくり ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る   子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る   「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互	11	・栄養面における知識を身につけ、子どもたちの食生活の課題を深める
13	12	子どもの食に関する教材づくり ④ ・子どもの「ちぎる「丸める」「叩く」などを活用した調理実習
ンスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る   子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る   「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互	13	子どもの食に関する教材づくり ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバラ
14 ンスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る 「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互 15		ンスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る
ンスを考えた献立作成 ・粘土を用いて食材を作る 「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互 15	14	子どもの食に関する教材づくり ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の栄養のバラ
15		ンスを考えた献立作成  ・粘土を用いて食材を作る
	15	「保育内容・健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互
		評価  ・家庭との連携と本授業のまとめ

科目名	保育内容(言葉)	年次	2	単位数	1
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 裕美子				
クラス名	【19以降生対象】				

ことばは子どもの発達を示すバロメーターである。そこで、ことばの発達を概観しつつ、その発達に関連する認知や社会性の発達について理解する。事例を通して言語やコミュニケーションの発達を評価する方法、それらの発達をうながすための基本的姿勢やかかわり方の実際を学ぶ。遊びや絵本・紙芝居などの文化財を使ってことばの発達を支援する方法を考案|し、教材を作成して発表を通してねらいや方法を言語化できる。

## 授業概要

年齢に沿ってことばの発達の現象を丁寧に見ながら、ことばを話す前から子どもの行動が示す発達的意味を概説する。発達年齢に応じたさまざまな事例を通して適切な大人のかかわりやことばかけはどのようなものかを検討する。さらに、発達年齢に適切なことばを育む遊びやことばの発達を促す教材を考案し、ねらいや方法を明確にした上で、グルー プで発表する。

#### 受講上の注意

視聴覚教材を用いた講義を参考に、各自で毎回配布される資料を完成させる。配布資料はファイルに整理し、毎回持参すること。グ ループ発表用の配布プリントは授業前に印刷し、発表時に配布する。毎回、授業の最後にキーセンテンスを作成し、提出する。

成績評価方法・基準			
	種別		割合(%)
テストおよび	定期試験		40
発表•提出物	<b>7</b>		50
授業への取り組み		10	
教科書情報			
	教科	書情報	
教科書1	教科	書情報	
教科書1	<b>教科</b>	書情報	
	教科 - · ·		

教科書3				
出版社名	著者名			
	参考書情報			
参考書名1	保育内容 ことば [第3版] (新時代の保育双書)			
出版社名	みらい 著者名 赤羽根 有里子, 鈴木 穂波 (編)			
参考書名2				
出版社名	著者名			
参考書名3				
出版社名	著者名			
参考書名4				
出版社名	著者名			
参考書名5				
出版社名	著者名			
参考 URL				
特記事項				
	教員実務経験			
	授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容			
1	子どもはどのようにことばを身につけていくか			
	1 Core over the contract of th			
2	0~1歳児のことばと保育者のかかわり			
3				
	0~1歳児のことばと保育者のかかわり			
3	0~1歳児のことばと保育者のかかわり 1~2歳児のことばと保育者のかかわり			
3	0~1歳児のことばと保育者のかかわり 1~2歳児のことばと保育者のかかわり 3~4歳児のことばと保育者のかかわり			
3 4 5	○~1歳児のことばと保育者のかかわり  1~2歳児のことばと保育者のかかわり  3~4歳児のことばと保育者のかかわり  4~5歳児のことばと保育者のかかわり			

9	幼児教育の基本と領域「言葉」
10	4~5 歳児のことばと保育者のかかわり-2
11	ことばの遅れと言語発達障害の理解と支援
12	学習言語の発達とつまずき
13	ことばを育てる文化財とは
14	文化財を使ったことばの発達支援法を考える:グループ発表
15	全体総括•授業内定期試

科目名	保育内容(人間関係)	年次	2 ]	単位数	1
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
領域「人間関係	」のねらいや内容を理解し、乳幼児期の	人間関係の	発達の特性や現	代社会の物	大況などを踏まえ 大況などを踏まえ
て、幼児の人と	関わる力を育むための保育内容、援助、	指導方法な	どを実践的に理	解する。	
	授	業概要			
対面授業 幼稚	園教育要領等に記された領域「人間関係	系」のねらい	や内容について、	幼児の姿と	:保育実践を関
連させて理解を	深める。事例や視聴覚教材などを使用し	ン、具体的に	幼児理解を深め	ながら、環境	竟構成や援助方
法を学ぶ。					
	受講-	上の注意			
広く幼児教育を	取りまく動向や社会状況に関心をもち、	グループでの	の討議の機会に	よ積極的に	====== 発言し、主体的
に授業に取り組	みましょう。				
	成績評価	5方法•基準			
	種別 割合(%)				
試験			60		
受講態度•平常	のレポートや提出物等		40		
	教科	書情報			
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3		<u> </u>	<del>.</del>		
出版社名		著者名			

	参考	書情報	
参考書名1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	出)フレーベル館	著者名	著)文部科学省
参考書名2	保育内容 人間関係		
出版社名	出)光生館	著者名	編著)岩立京子•西坂小百合
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
	参表	考 URL	
特記事項			
	教員5	実務経験	
幼稚園教記深める	⋒・園長の経験を活かし、幼稚園での具体係	剜∙実践例等	₹を通して、幼児の人間関係について学びを
	授業計画	Ī(各回予定	)
授業回		授業内容	Ş.
1	オリエンテーション 授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする 領域「人間関 1 係」に求められること  ・人間関係をめぐる現代的課題と社会的背景について学ぶ		
2	領域「人間関係」のねらいと内容について		
3	O歳児~3歳未満児の育ちと人との関わりるような関わりとは │	・人との信	言頼関係を基盤とし、安定感・安心感を得られ
4	3歳児の育ちと人との関わり・自立心の芽	生えを育み	、自己充実して遊べるようになる基礎を築く
5	4歳児の育ちと人間関係 ・4 歳児の人と関	 わる力の発	8達の特徴 ・仲間との出会いと関わりについ

6	5歳児の育ちと人との関わり・友達と生活や遊びをつくる、遊びの中で育つ協同性について
7	小学校教育への接続 ・就学までに育てたい人間関係 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
8	幼児の自己主張について ・けんかやいざこざ、トラブルを通して成長する幼児
9	気になる幼児への支援①  ・保育実践より、人との関わりが難しい幼児とは
10	気になる子幼児への支援② ・人との関わり方が難しい幼児への支援を考える
11	道徳性・規範意識の芽生えについて ・幼児期における道徳性の芽生えを育むために ・規範意識を
	育むとは
12	子育ての支援 ・保護者の理解と支援 保育者の役割
13	教材研究や環境の重要性を理解する? ・人間関係を育む遊びや教材を研究する
14	教材研究や環境の重要性を理解する② ・保育指導案の作成を行う
15	まとめと授業内試験

科目名	保育内容(表現)	年次	2 単	位数 1
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習	
教員名	畑中 久子			
クラス名	【19以降生対象】	【19以降生対象】		
	授業目的	りと到達目標	!	
領域「表現」	こ視点を当て、保育現場で必要とされる様 ける。	々な表現活	動を体験し、考察する。	ことによって、実践的指
	授:	 業概要		
対面授業  🥫	就学前教育では、幼児が集団生活を送る中	でのびのひ	と自分の思いを表現す	する力が大切である。
その為には	め児期の 発達の特性を理解し、幼児期にホ	目応しい教育	内容と方法を知ること	が必要である。身体表
現、音楽表現	見、造形表現などの 表現活動について知識	を深めると	ともに教育者としての豊	豊かな感性をもち、幼
児に寄り添っ	た援助が出来るようにする。			
	受講.	上の注意		
実際に歌った	とり、踊ったり、描いたり、作ったりなど体を	動かします。	活動しやすい服装と鞘	と。 「表
現」なので、	受業内でしっかりと自分を表現しましょう。			
	成績評値	<b></b>		
	種別 割合(%)			<b>;</b> (%)
受講態度と	・ ・ ・ 提出物		40	
試験	試験   60			
	44.1	1 = 4 + 12		
	教科書情報 			
教科書1	幼稚園教育要領解説			
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省	
教科書2				
出版社名		著者名		
教科書3				

著者名

出版社名

	参考書情報		
参考書名1			
出版社名	著者名		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
	特記事項		
	教員実務経験		
幼稚園教記	幼稚園教諭・園長経験を活かして、実際に現場で行われている表現活動も展開していきます。		
	授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容		
1	保育の基本と「表現」について ・環境を通して行う教育 ・表現と感性		
2	領域「表現」のねらいと内容について① ・感じたことや考えたことを表現する ・保育者の役割		
3	領域「表現」のねらいと内容について② ・表現できる環境づくり		
4	表現を育む基本姿勢 ・子どもの表現をどう受け止めるのか		
5	表現を育む基本姿勢 ・身体による表現について		
6	表現を育む基本姿勢 ・音楽による表現について		
7	表現を育む基本姿勢 ・造形による表現について		
8	表現活動の援助・指導について ・身体による表現		
9	表現活動の援助・指導について ・音楽による表現		
10	表現活動の援助・指導について ・造形による表現		

1	保育現場での実践内容① ・事例から「表現」を考える
12	保育現場での実践内容② ・事例から「表現」を考える
13	教材研究と表現を引き出す環境構成
14	保育者の専門性 ・保育者自身の表現力と感性
15	まとめと試験

科目名	保育内容指導法総論	年次	2 ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習	
教員名	赤松 綾子			
クラス名	【19以降生対象】			
	授業目的と到達目標			
幼稚園教育要	 領には「ねらい」「内容」が 5 領域で示され	1ている。 し	かし、「子どもの:	遊び」は総合的に展開される
ので、領域の枠を超えて見て いかなければならないことを学習する。				
	授:	業概要		
対面授業 幼稚		<b>保育内容事</b> 例	 列の紹介をしなが	ら、総合的な「子どもの遊
び」を体験し理	解してもらう。身体を通して感 じ取る感覚	色を養うと共	に、子どもの遊び	について、指導案の作成を
し、援 助の在「	り方、環境構成などの基本的な理解を深ん	める一助とす	<b>する。</b>	
	受講。	上の注意		
保育内容指導	法総論は幼稚園全般を知るよい機会です	す。担当者に	は、幼稚園 現場の	)事情に通じています。積極
的に質問をして	て、自分のものにしてくだ さい。			
	成績評価	西方法・基準	Ī	
	種別 割合(%)			
試験により評値	<b>15</b>		80	
教材作成への	数材作成への取り組み 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20			
	44. T.	1 <del>- 1 + 1</del> + 1		
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	∤書情報 ────		
教科書1		11	1	
出版社名		著者名		
教科書2				
出版社名		著者名		
教科書3				
出版社名		著者名		
	<del></del>	書情報		

参考書名1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館 著者名 文部科学省		
参考書名2			
出版社名	著者名		
参考書名3			
出版社名	著者名		
参考書名4			
出版社名	著者名		
参考書名5			
出版社名	著者名		
	参考 URL		
特記事項			
	教員実務経験		
担当者は、幼稚園教員免許(1種)長年の現場経験あり			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	幼稚園教育の草創期と、フレーベル主義の保育方法について		
2	保育方法とその変遷 ・明治時代から現代に至るまでの保育内容と指導法についての概要		
3	保育を創造することとは ・保育内容 ・指導法		
4	行事と保育 ・行事の意味について ・保育内容について考えよう		
5	行事と保育 ・「お月見の会」保育指導案を書いてみよう		
6	秋の自然と子ども ・ドングリの遊びを考えよう ・遊びのねらいと子どもの学び		
7	豊かな生活(保育)の展開① ・ドングリの遊びにふさわしいお話を考えてみよう		
8	豊かな生活(保育)の展開② ・素話、ペープサート、パネルシアターなどの教材作成		
9	豊かな生活(保育)の展開③ ・お話を発表しよう		
10	記録ビデオを通して、保育者の動きについて考える ・保育者の意図 ・子どもを育てる言葉かけとは		
11	幼児の造形活動について ・絵から見る子どもの発達		

12	幼児の造形活動について ・作品展の実際と意味 ・子どもの絵の見方 ・子どもの造形活動を通して育つもの
13	冬の遊びについて ・凧を作ってあげよう
14	お正月について ・伝統的な行事 ・お正月の遊び
15	まとめ 試験の実施

科目名	幼児と音楽表現 I	年次	[1 ]	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	津田 奈保子				
クラス名					

幼児期において育みたい資質・能力について、又表現領域のねらい及び内容について理解する。主体的で対話的・深い学びが実現する過程を踏まえて具体的保育を考察し、幼児が手段とする様々な表現方法を学ぶ。教材研究をするとともに、幼児について深い理解をするために、赤ちゃんから幼児までの音・音楽との関わりについて学び指導法を身に付ける。併せて保育の評価について学び、省察の仕方を理解し指導計画の立て方を学ぶ。 Iにおいては特に身体表現と声による表現について学ぶ。

## 授業概要

保育の中で使うあそび歌や、わらべうた、音楽に合わせた身体運動などについて学び、音楽遊びのレパートリーを増やすと共に、幼児の音楽遊びは他領域との関連も重要であることから、遊びを丁寧に考察し、それまでに修得した専門的知識も活用しながら実践力・考察力を身につける。幼児の音楽は上手に歌わせることが目的ではないことを十分に理解しつつ、幼児の声域に対応しやすく、表現しやすいわらべうたなどを取り上げ、カノンなど幼児でも可能な和声の響きを体験できる技術も身につける。他の幼児との比較や到達目標として 10 の姿を捉えることなく、幼児一人一人を大切にして表現を楽しめる具体的な保育実践を想定、保育指導案を作成し、実践力を身に付ける。またその考察を丁寧に行い、幼児理解の視点に立った振り返りと保育評価の方法を身に付ける。

### 受講上の注意

# 

教科書2					
出版社名	著者名				
教科書3					
出版社名	著者名				
	参考書情報				
参考書名1					
出版社名	著者名				
参考書名2					
出版社名	著者名				
参考書名3					
出版社名	著者名				
参考書名4					
出版社名	著者名				
参考書名5					
出版社名	著者名				
	参考 URL				
	特記事項				
	教員実務経験				
保育所保育	育士、認定こども園保育教諭、小学校教諭				
	授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容				
1	授業の概要。領域「表現」のねらい及び内容について  ・表現が生まれる環境について学ぶ				
2	年齢による表現の変化、声の発達について ・乳幼児を取り巻く、表現を導く豊かな環境について学ぶ				
3	わらべうたについて ・乳児とわらべうたの関係性、生活に根差す音や動きについて				
4	わらべうたによる大人の関わりとその指導法  ・基本的信頼感を得るための幼児なりの表現受容について				

5	友達との関係構築するわらべうたの意義  ・乳幼児一人一人が表現する楽しさを味わう援助について
6	幼児の歌う意味・意義について考察する  ・幼児理解を大切に、幼児の目線に立つことを学ぶ
7	表現する楽しさを味わわせ、表現する意欲を引き出す保育実践を考察する。 ・幼児の内面の動きを 捉え、教材研究をする
8	幼児の思いやイメージを生かした音楽活動について ・幼児なりの表現が生かされる環境とその評価について
9	他領域との関係から季節の歌を歌うことの意味を知る ・友達の表現を認め合う保育について
10	手遊びの持つ意義について理解し実践する ・生活の中のイメージや体験を、手遊びを通して具現化するための援助について
11	幼児の特徴でもある身体運動について ・音と体の動きを体験しリトミック実践法について学ぶ。 ・音源を用い音楽に反応する身体的発達を考慮した保育について
12	ボディパーカッションを体験し、一番身近な楽器としての体と音楽の関わりについて学ぶ ・音の不思議と、心揺さぶられる経験について考察する
13	情報機器などの教材を用いた指導法について ・指導案をもとに保育実践を行う  ・幼児理解に基づいた評価について
14	情報機器や視聴覚教材を活用し実践する  ・心揺さぶられる音楽経験について ・幼児理解に基づく 省察について
15	まとめ 乳幼児の声・歌との関わりについて ・これから向かうべき幼児音楽教育について

科目名	幼児と環境	年次	[1 ]	単位数 2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	寺田 恭子			
クラス名				

領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育要領に示されたねらいや内容について理解を深め、幼児の発達に即して、幼児が主体的・対話的な深い学びを実現できるように、「環境」の具体的指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付ける。|

## 授業概要

幼稚園教育要領の「環境」のねらいと内容を理解する。「自然とのかかわり」「ものとの関わり」「数量と文字との関わり」「地域や社会とのかかわり」のそれぞれの視点から、「幼児が好奇心や探究心をもって主体的に学びを深め、生活にとりいれていこうとする力を養う」ための事例を学ぶ。領域「環境」がめざす保育構想の向上に取り組む。

#### 受講上の注意

「環境」は、「自然」「もの」「地域社会」「数量と文字」との関係によって培われる領域である。新聞やテレビ、webなどでの情報に関心をもつこと、幼児幼児が保育の中で「環境」課題を獲得するためにどのように関わったらいいのか、について考察を深めて欲しい。

## 成績評価方法•基準 種別 割合(%) 授業参加度(主体的な授業姿勢も含む) 20 授業ノート 20 グループワーク(発表、報告書含む) 40 レポート 20 教科書情報 自主プリント配布 教科書1 著者名 出版社名 教科書2

出版社名	著者名					
教科書3						
出版社名	著者名					
	参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領(最新版)文部科学省					
出版社名	著者名					
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省					
出版社名	著者名					
参考書名3						
出版社名	著者名					
参考書名4						
出版社名	著者名					
参考書名5						
出版社名	著者名					
	参考 URL					
特記事項						
	教員実務経験					
	授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容					
1	領域「環境」のねらいと内容 ・本授業のガイダンス ・幼稚園教育要領が示す「環境」について、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。					
	幼児と「自然」」・自然は、幼児の発達にどのような影響を与えるのか、どのような自然学習がある					
2	のか、環境をねらいとする保育を想定し書籍やキャンパスを散歩して教材をさがす。報告書を提出 する。					
	」    幼児と「もの」  ・生活の場としての保育環境を考える。環境をねらいとする保育を想定し、時代と「も					
3	の」、季節と「もの」、保育室、園庭など園内の環境について、テキストなどを活用して教材を検討す					
	る。報告書を提出する。					

4	幼児と「数量・文字」 ・あそびの中で「文字」や「数量」を学ぶ保育を想定する。書籍や視聴覚教材を
4	活用し、教材を検討する。報告書を提出する。
5	幼児と「地域や社会」  保育の中で、地域や社会をどのように幼児が理解し、関わりを知っていくの
5	か、視聴覚教材や書籍で学び、教材化を検討する。報告書を提出する。
	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める① ・「自然」「もの」「数量と文字」「地域
6	と社会」の4つの視点から保育構想を深める。グループごとに取り組む。 ・グループ編成
-	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める② ・グループワークによって保育構想
7	を深める。 ・模擬保育(4歳児:30分)の構想の検討
	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める③ ・グループワークによって保育構想
8	を深める。 ・模擬保育(4歳児;30分)の構想を検討する。
	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める④ ・グループワークによって保育構想
9	を深める。 ・模擬保育(4歳児:30分)の構想を検討する。
10	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める⑤ ・グループワークによって保育構想
10	を深める。 ・模擬保育(4歳児:30分)の構想を検討する。
11	領域「環境」の模擬保育の発表 ① ・情報機器、教材を活用してグループごとに発表する。 ・相互
11	評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
12	領域「環境」の模擬保育の発表 ② ・情報機器、教材を活用してグループごとに発表する。 ・相互
12	評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
13	領域「環境」の模擬保育の発表 ③ ・情報機器、教材を活用してグループごとに発表する。 ・相互
13	評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
14	領域「環境」の模擬保育の発表 ④ ・情報機器、教材を活用してグループごとに発表する。 ・相互
14	評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
15	本授業のまとめ レポート提出
_	

科目名	幼児と健康	年次	[1 ]	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	寺田 恭子				
クラス名					

幼稚園教育要領に基づき、幼児の健康な心と体を育て、「幼児自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。運動あそびや食育、生活リズム、睡眠、基本的生活習慣など、幼児の健康課題をふまえ、具体的な保育場面の中で、どのように幼児自身が健康で安全な生活を営む力を形成していくのか、指導方法を学習し、身に付ける。

## 授業概要

対面授業|幼児の現在の生活における健康課題を学生たちの問題意識から焦点化し、幼児のより健康で安全な生活を目指すために、「幼児の育ってほしい姿」を明確化する。具体的な保育場面、指導場面、実践事例を提示しながら、幼児の心身の発達と道すじ、育みたい資質・能力を理解する。教材づくり、指導方法の実習を通して、保育者としての視点を身に付ける。

#### 受講上の注意

「幼児と健康」は、自分自身の健康と深くかかわっている。自分の生活を振り返るところからスタートをし、新聞やテレビ、web などでの情報に関心をもつこと、また幼児が保育の中で「健康」課題を獲得するためにどのように関わったらいいのか、について考察を深めて欲しい。

# 成績評価方法・基準 種別 割合(%) 授業の参加度 20 授業ノート 20 報告書 10 課題の作成、報告書、発表 50 教科書情報 教科書1 保育内容・健康 出版社名 青鞜社 著者名 高橋弥生•臼井達矢編著 教科書2

出版社名	著者名				
教科書3					
出版社名	著者名				
	参考書情報				
参考書名1	幼稚園教育要領(最新版)文部科学省				
出版社名	著者名				
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省				
出版社名	著者名				
参考書名3					
出版社名	著者名				
参考書名4					
出版社名	著者名				
参考書名5					
出版社名	著者名				
	参考 URL				
	特記事項				
	教員実務経験				
高校家庭和	科教員 保育所、認定こども園、幼稚園における親支援講師、阿倍野区食育アドバイザー				
	授業計画(各回予定)				
授業回	授業内容				
1	「健康」領域のねらいと内容 ・本授業のガイダンス ・幼稚園教育要領が示す「健康」について、学生				
	たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。				
2	幼児の健康な育ちを支えるために ① ・幼児の健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材を用いて理解する。				
3	幼児の健康な育ちを支えるために ② ・幼児の健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材、グループワークを通して明らかにし、「幼児の育って欲しい姿」を理解する。				

4	幼児の運動能力の発達 ・人の身体発達・運動発達の方向性と臨界期を理解した上で、保育場面の 遊びについて理解を深める。			
5	幼児の心の発達と健康  ・幼児の心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性と保育者の役割を理解する。(視聴覚教材活用)			
6	幼児が育つ生活習慣の形成 ① ・生活リズム、睡眠、基本的生活習慣の獲得と発達について理解する。			
7	幼児が育つ生活習慣の形成 ② ・幼児の食の問題と背景について理解する。 ・食の重要性を理解し、共食と脳の発達の関係を知る。			
8	安全教育と安全意識 ・幼児の事故と怪我の実態と課題 ・安全意識を遊びの中で育む ・計画的な指導によって安全意識を高める			
9	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ① ・パワーポイントを活用し、幼児にとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、幼児の食生活の課題を深める			
10	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ② ・パワーポイントを活用し、幼児にとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、幼児の食生活の課題を深める			
11	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ③ ・パワーポイントを活用し、幼児にとって必要な食生活を知る ・栄養面における知識を身につけ、幼児の食生活の課題を深める			
12	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ④ ・幼児の「ちぎる「丸める」「叩く」などを活用した調理 実習			
13	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ⑤ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の 栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いてお弁当の食材を作る			
14	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ⑥ 「粘土による4歳児のお弁当づくり」  ・4歳児の 栄養のバランスを考えた献立作成  ・粘土を用いてお弁当の食材を作る			
15	「幼児と健康」における授業のまとめ ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互評価  ・家庭との連携と本授業のまとめ			

科目名	幼児と言葉	年次	[1 ]	単位数	2		
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義				
教員名	田中 幸代						
クラス名	【19以降生対象】						
	授業目的	りと到達目標	!				
領域「言葉	」のねらいや内容を理解し、乳幼児期の成	長発達や現	代社会の状況なる	どを踏まえて	て、幼児の言葉		
に関する力を	を育むための保育内容、援助、指導方法な	どを実践的に	こ理解する。				
	授	業概要					
対面授業  :	幼稚園教育要領等に記された領域「言葉」(	のねらいやり	内容について、背	景となる専門	門領域や幼児の		
	もと関連させて理解を深める。また、情報機						
について学ん	んだり、言葉を育てる教材への理解を深め、 	保育への活	ਜを図ることが <sup>っ</sup>	できるように	する。		
	受講.	上の注意					
広く幼児教	育を取りまく動向や社会状況に関心をもち	、主体的に排	受業に取り組みま	<b>しょう。</b>			
	成績評値	ffi方法·基準					
種別 割合(%)							
			試験 50				
試験			50				
	平常のレポートや提出物・教材作成・発表等		50				
	平常のレポートや提出物・教材作成・発表等	]	,				
		書情報	,				
		1	,				
受講態度・平		1	,				
受講態度・平		書情報	,				
受講態度·平 教科書1 出版社名		書情報	,				
受講態度·平 教科書1 出版社名 教科書2		書情報	,				
教科書1 出版社名 教科書2 出版社名		書情報	,				
受講態度·平 数科書1 出版社名 数科書2 出版社名 数科書3	教科 - · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	書情報	,				

出版社名	出)フレーベル館	著者名	著)文部科学省	
参考書名2	実践 保育内容シリーズ 言葉			
出版社名	出)一藝社	著者名	編著)谷田貝公昭 廣澤満之	
参考書名3				
出版社名		著者名		
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
	参	考 URL		
	特	記事項		
	教員:	実務経験		
幼稚園教訓	前・園長の経験を活かし、幼稚園での具体係	剜•実践例等	を通して、幼児の人間関係について学びを	
深める				
	授業計画	[(各回予定]	)	
授業回		授業内容	Į.	
1	オリエンテーション  授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする 領域「言葉」 に求められること  一言葉をめぐる現代的諸課題と社会的背景-			
2	領域「言葉」のねらいと内容について			
3	  言葉の発達過程 ?O歳児~2歳児の言葉と保育者の関わり			
4	言葉の発達過程 ?3歳児~5歳児の言葉と保育者の関わり			
5	領域「言葉」と小学校教育とのつながり  一「話し言葉」と「書き言葉」について一			
6	幼児の言葉を育む環境構成と援助  一豊かな言葉を育むための保育環境や保育者の援助について一			
7	言葉の育ちに関わる諸問題について   一	言葉をめぐり	リ、特別な配慮の必要な幼児への指導ー	
8	豊かな言葉を育む児童文化(手遊び、言葉	豊かな言葉を育む児童文化(手遊び、言葉遊び、歌など)		
9	豊かな言葉を育む児童文化(絵本と紙芝居)			
10	豊かな言葉を育む児童文化(ペープサート	・・パネルシフ	アター)	

11	伝え合い分かり合う楽しい劇遊び
12	言葉を育む教材研究を行い、教材を作成する?
13	言葉を育む教材研究を行い、教材を作成する②
14	保育教材を使った模擬保育
15	まとめと授業内試験

の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。  授業概要   対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。  受講上の注意						
教員名 松岡 宏明 授業目的と到達目標  授業目的: 幼児造形表現指導の基盤となる幼児の造形に関する理解とその実践力につながる基礎的能力の派養  到達目標: 幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。   授業概要  「対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。   受講上の注意  事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	科目名	幼児と造形表現 I	年次	[1 ]	単位数	2
クラス名  授業目的と到達目標  授業目的: 幼児造形表現指導の基盤となる幼児の造形に関する理解とその実践力につながる基礎的能力の涵養  到達目標: 幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。   授業概要  「対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。   受講上の注意  事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		-
授業目的と到達目標   授業目的:幼児造形表現指導の基盤となる幼児の造形に関する理解とその実践力につながる基礎的能力の涵養  到達目標:幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。    授業概要   対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。    受講上の注意   事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	教員名	松岡 宏明				
授業目的: 幼児造形表現指導の基盤となる幼児の造形に関する理解とその実践力につながる基礎的能力の涵養  到達目標: 幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。   授業概要  対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。   受講上の注意  「事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	クラス名					
養  到達目標: 幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。   授業概要  対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。   受講上の注意  事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後		授業目的	]と到達目	票		
対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。   受講上の注意   事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	"	養  到達目標:幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。				
幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。   受講上の注意  事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。 また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	授業概要					
事前学習として、教科書の指定ページを読み込むこと。事後学習として、授業ボートの整理を毎回おこなうこと。 また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後		対面授業  幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び 幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。				
また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後	受講上の注意					
	事前学習として	、教科書の指定ページを読み込むこと。	事後学習	 として、授業ボート	の整理を毎	<u>ーー</u> 手回おこなうこと。
の学びに生かすこと。授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次回までの完成させること。	また、指定回以	また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成すること。レポートは、返却された後、修正をおこない、今後				

## 成績評価方法·基準

種別	割合(%)
振り返りノート	30
表現·鑑賞活動	30
レポート	20
授業ノート	20

## 教科書情報

教科書1	『子供の世界 子供の造形』		
出版社名	三元社	著者名	松岡宏明
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名		
参考書情報				
参考書名1	参考書名1 「幼稚園教育要領」〈平成 29 年告示〉			
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省	
参考書名2	「保育所保育指針」〈平成 29 年告示〉			
出版社名	フレーベル館	著者名	厚生労働省	
参考書名3	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領	[]〈平成 29	年告示〉	
出版社名	フレーベル館	著者名	内閣府	
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
	参考 URL			
	特記事項			
	教員:	実務経験		
中学校教訓	俞(美術科)10 年			
	授業計画	[(各回予定	)	
授業回		授業内容	7	
1	領域「表現」の位置づけと幼児の未分化で	素朴な表現	の受容	
2	造形遊び・造形表現のための材料・素材「粘土」、子供の世界観(自分と世界の一体化)			
3	造形遊び・造形表現のための材料・素材「木」、子供の世界観(全感覚の起動)			
4	造形遊び・造形表現のための材料・素材「紙」、子供の世界観(概念からのフリー)			
5	造形遊び・造形表現のための道具・技法「クレヨン・絵の具」、造形子供の世界観(体験に開く)			
6	造形遊び・造形表現のための道具・技法「	造形遊び・造形表現のための道具・技法「ローラー」、子供の世界観(「今」「過程」に生きる)		
7	造形遊び・造形表現のための道具・技法「	版画」、「子	供」と「造形」の親和性	
8	造形表現指導における情報機器及び教材の活用			
9	子供の造形への発達的な側面からのアプローチ(造形能力の基礎形成期~前図式期)			

10	子供の造形への発達的な側面からのアプローチ(図式期~前写実期)
11	子供の造形への特徴的な側面からのアプローチ(頭足人、アニミズム、基底線、集中構図、レントゲン描法)
12	子供の造形への特徴的な側面からのアプローチ(展開図描法、積み上げ遠近法、多視点構図、正面構図)
13	子供の造形への美的な側面からのアプローチ(子供と芸術家の作品の比較鑑賞、芸術的発達の U字カーブ)
14	子供の造形への心理的な側面からのアプローチ(形、色、構図)
15	造形表現指導の評価の基本的考え方、自分なりの幼児造形表現指導の構築

科目名	幼児と人間関係	年次	[1 ]	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	田中 幸代				
クラス名					
	授業目的	りと到達目標	!		
領域「人間関係	系」のねらいや内容を理解し、乳幼児期の	人間関係の	発達の特性や明	代社会の物	犬況などを踏まえ
て、幼児の人と	関わる力を育むための保育内容、援助、	指導方法な	どを実践的に理	解する。	
	授	業概要			
対面授業 幼稚	園教育要領等に記された領域「人間関係	系」のねらい・	や内容について、	幼児の姿と	:保育実践を関
連させて理解を	を深める。事例や視聴覚教材などを使用し	ン、具体的に	幼児理解を深め	ながら、環境	竟構成や援助方
法を学ぶ。					
	受講-	上の注意			
広く幼児教育を	・ 取りまく動向や社会状況に関心をもち、	グループでの	の討議の機会に	ま積極的に	発言し、主体的
に授業に取り約	且みましょう。				
	成績評値	描方法·基準			
	種別			割合(%)	
試験			60 ]		
受講態度•平常	さのレポートや提出物等		40		
	#L 1.	<b>事</b> 捷却			
	教科	書情報			
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2		,			
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	出)フレーベル館	著者名	著)文部科学省
参考書名2	保育内容 人間関係		
出版社名	出)光生館	著者名	編著)岩立京子·西坂小百合
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
	参考	URL	
特記事項			
	教員実務経験		
幼稚園教記 深める	渝・園長の経験を活かし、幼稚園での具体例	•実践例等	を通して、幼児の人間関係について学びを
	授業計画	(各回予定	)
授業回		授業内容	3
1	オリエンテーション ・授業の目標・内容を知る」 ところからはじめよう	り、受講に	関しての目的意識を明確にする ・「自分を知
2	領域「人間関係」に求められること  ・人間原係」が目指すもの	関係をめぐ	る現代的課題と社会的背景 ・領域「人間関
3	領域「人間関係」のねらいと内容について		
4	○歳児〜3歳未満児の育ちと人との関わり  るような関わりとは	<ul><li>人との信</li></ul>	「頼関係を基盤とし、安定感・安心感を得られ
5	3歳児の育ちと人との関わり ・自立心の芽生	生えを育み	、自己充実して遊べるようになる基礎を築く
6	4歳児の育ちと人間関係 ・4 歳児の人と関すて	— わる力の発	達の特徴 ・仲間との出会いと関わりについ
7	5歳児の育ちと人との関わり・友達と生活や	遊びをつ	

8	小学校教育への接続 ・就学までに育てたい人間関係 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
9	幼児の自己主張について ・けんかやいざこざ、トラブルを通して成長する幼児
10	気になる幼児への支援①  ・保育実践より、人との関わりが難しい幼児とは
11	気になる子幼児への支援② ・人との関わり方が難しい幼児への支援を考える
12	道徳性・規範意識の芽生えについて ・幼児期における道徳性の芽生えを育むために ・規範意識を
12	育むとは
13	子育ての支援 ・保護者の理解と支援 保育者の役割
14	教材研究や環境の重要性を理解する ・人間関係を育む遊びや教材を研究する
15	まとめと授業内試験

科目名	幼児理解の理論と方法(幼児)	年次	0 単位数 2	
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義	
教員名	児玉 陽子			
クラス名				
	授業目的	ごと到達目標	55	
幼児を理解す	るということは、幼児の発達についての多	面的な理解	が不可欠である。その上で、子どもの視座を	
持つということ	、子ども自らの育ちを支援するための理解	解の視点と抗	支法を身につけることを目的とする。さらに、	
幼児のつまず	き・保護者の心情に対する理解と対応につ	ついても学ぶ	ぶ。 また、保育者としての基礎的態度、環境と	
しての自らの	存在についても理解し考察を深める。			
	授訓	業概要		
幼児理解のた	めの発達についての基本的な知識を身に	こつける。ま	た、幼児の発達を支援するための具体的な	
方法を考え実	践する。また、幼児理解を、事例を通して	考える。さら	に、幼児の成長発達過程におけるつまずき	
や保護者への	)支援の実際のなどについても考察し、実施	践的な学び	の機会とする。	
	受講.	上の注意		
予習…自らの	子どものころを振り返っておくこと、子ども	の絵本・遊び	びについて、資料収集等をしておくこと 復習	
…授業回のテ	ーマについて振り返るとともに、子どもの.	見えているt	世界について考察を深めること	
	成績評価方法・基準			
	種別		割合(%)	
試験に代わる	まとめの課題		60	
授業内課題へ	の取り組み①		20	
授業内課題へ	への取り組み②		20	
	教科書情報			
教科書1	使用しない			
出版社名		著者名		
教科書2				
出版社名		著者名		
教科書3				
出版社名		著者名		

	参考書情報			
参考書名1	子ども理解と援助			
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	高嶋景子·砂上史子編著	
参考書名2	幼児理解と保育援助			
出版社名	建帛社	著者名	田代和美編著	
参考書名3				
出版社名		著者名		
参考書名4				
出版社名		著者名		
参考書名5				
出版社名		著者名		
	参考 URL			
	特記事項			
教員実務経験				
臨床心理士・公認心理師 精神科クリニック勤務・幼稚園子育て相談員				
	授業計画	Ī(各回予定	)	
授業回		授業内容		
1	幼児理解とは何か・「幼児」の見えている世界 幼児を理解するための視座・幼児理解の意義について			
2	幼児の発達理解①理論の理解と保育者と	しての視点	乳児期から幼児期へ	
3	幼児の発達理解②理論の理解と保育者と	幼児の発達理解②理論の理解と保育者としての視点 幼児期前半		
4	幼児の発達理解③理論の理解と保育者としての視点 幼児期後半			
5	発達のつまずき 偏りと支援・個と集団			
6	援助の実際① 発達的視点をもって幼児を	りかいする。	ということについて、事例に基づき考える。	
7	幼児理解のための方法と技術 幼児の発達や学びを促すための具体的な方法・技術についての実践的研究			

8	観察と記録 幼児を「みる」まなざしとは?幼児の『なにを・どこを』観るのか。 幼児を理解することによって育まれる『信頼関係』について理解する。
9	幼児の気持ちに寄り添うことの意味 信頼関係と社会性の発達について
10	環境としての保育者① 子どもと保育者との相互作用について。 子どもの発達を支える保育者の役割とは。
11	環境としての保育者② カウンセリングマインドと自己理解
12	理解と支援の実際① 子どもとの関係構築、保育者のあり方・具体的な対応について検討する
13	理解と支援の実際② 子どもへの対応と保護者との連携について考察する
14	幼児理解についての総合的考察 幼児理解のための基礎的態度とは何か・幼児理解のための方法について、場面・状況に応じた観察・記録を検討するとともに、個と集団についての理解と保育目標、教師の在り方について考察する
15	まとめの課題 幼児を理解する際に求められる知識と対応・援助の技術について学び・修得したことについて確認する